

2025年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧表

西日本看護専門学校 看護専門課程 看護学科

授業科目		単位数	時間数	実施時間		
				1 年	2 年	3 年
基礎分野	人間関係論	1	30	30		
	法と人権	1	15	15		
専門基礎分野	病理学	1	30	30		
	臨床薬理学	1	30	30		
	臨床栄養学	1	15		15	
	臨床検査	1	15	15		
	診断治療論 1	1	30	30		
	診断治療論 2	1	30	30		
	診断治療論 3	1	30	30		
	診断治療論 4	1	30		30	
	診断治療論 5	1	30		30	
	診断治療論 6	1	15		15	
	看護における病態理解	1	15		15	
	医療概論	1	15	15		
	公衆衛生学	1	30		30	
	社会保障制度	1	30		30	
	関係法規	1	15		15	
	基礎看護学概論	1	30	30		
	基礎看護学共通基本技術 1	1	30	30		
	基礎看護学共通基本技術 2	1	15	15		
	基礎看護学共通基本技術 3	1	30	30		
	基礎看護学共通基本技術 4	1	15	15		
	基礎看護学生活援助技術 1	1	30	30		
	基礎看護学生活援助技術 2	1	30	30		
	基礎看護学診療補助技術 1	1	30	30		
	基礎看護学診療補助技術 2	1	30	30		

2025年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧表

西日本看護専門学校 看護専門課程 看護学科

	授業科目	単位数	時間数	実施時間		
				1 年	2 年	3 年
専門分野	基礎看護学臨床援助技術	1	30	30		
	看護研究	1	30		30	
	暮らしの理解	1	15	15		
	地域・在宅看護論概論	1	30		30	
	地域・在宅看護論援助技術	1	30		30	
	地域・在宅看護論 [対象に応じた看護]	1	15		15	
	地域・在宅看護論 [看護実践演習]	1	30			30
	成人看護学概論	1	30	30		
	成人看護学症状別看護	1	15		15	
	成人看護学機能障害別看護 1	1	15		15	
	成人看護学機能障害別看護 2	1	30		30	
	成人看護学経過別看護	1	30		30	
	成人看護学技術	1	30		30	
	老年看護学概論	1	30	30		
	老年看護学援助論 1	1	30		30	
	老年看護学援助論 2	1	15		15	
	小児看護学概論	1	15	15		
	子どもの成長発達の支援と看護	1	30		30	
	健康障害のある子どもの看護	1	30		30	
	母性看護学概論	1	15	15		
	母性看護学援助論 1	1	30		30	
	母性看護学援助論 2	1	30		30	
	精神保健看護学概論	1	15	15		
	精神看護学援助論 1	1	30		30	
	精神看護学援助論 2	1	30		30	
	統合技術	1	30			30

2025年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧表

西日本看護専門学校 看護専門課程 看護学科

授業科目		単位数	時間数	実施時間		
				1 年	2 年	3 年
	医療安全	1	30			30
	災害看護と国際看護	1	30			30
	チーム医療と看護管理	1	15			15
	看護観演習	1	30			30
	薬物療法と看護	1	20		20	
	家族看護	1	20		20	
	周手術期看護	1	30		30	
	終末期看護	1	30		30	
	看護過程演習	1	30		30	
	看護倫理	1	15		15	
	基礎看護学実習 1	1	45	45		
	基礎看護学実習 2	2	90		90	
	地域・在宅看護論実習 1	1	45		45	
	地域・在宅看護論実習 2	2	90			90
	成人看護学実習 [セルフマネジメント実習]	1	45		45	
	老年看護学実習 1	1	45		45	
	老年看護学実習 2	2	90		90	
	成人・老年看護学実習 1	2	90			90
	成人・老年看護学実習 2	2	90			90
	小児看護学実習	2	90			90
	母性看護学実習	2	90			90
	精神看護学実習	2	90			90
	統合実習	2	90			90
	生命危機状態の看護実習	1	45			45
合計		85	2,590	660	1,090	840

2025 年度 S y l l a b u s

(1 年生)



西日本看護専門学校

授業科目	人間関係論	担当 教員	氏名	山本 素子
単位・時間数	1 単位・30 時間			
対象学生	2025 年度・1 年生		所属	アクティブサポートネットワーク
受講要件	なし		担当者実務経験	産業カウンセラーとして勤務
授業概要	心理学やカウンセリングの理論に基づき、それをいかに具体的に、人との関係性の中に活かしていくかを学んでいく授業である。 毎回の授業は、講義と演習とを織り交ぜながら進めていく			
到達目標	人間の多様性を知り、違いを受け入れ、活かすための方法を習得する。また看護師として必要なコミュニケーション技法を知り、学生生活や看護師としての実務の中で使えるようになる。			
授業計画	内容			方法
回	時間			
1	2	イントロダクション、コミュニケーションの基礎知識		講義/演習
2	2	自己理解と他者理解①偏愛マップを使って		講義/演習
3	2	自己理解と他者理解②自分の価値観を知る		講義/演習
4	2	自己理解と他者理解③印象形成		講義/演習
5	2	自己理解と他者理解④多様性の理解		講義/演習
6	2	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション		講義/演習
7	2	カウンセリングスキル①傾聴と承認		講義/演習
8	2	カウンセリングスキル②積極的傾聴と質問の技術		講義/演習
9	2	論理的思考と伝えるスキル		講義/演習
1 0	2	伝えるスキル②アサーティブなコミュニケーション		講義/演習
1 1	2	チームワーク、リーダーシップとフォロワーシップ		講義/演習
1 2	2	モチベーションアップ（やる気を出す）		講義/演習
1 3	2	メンタルヘルス、ストレスケア		講義/演習
1 4	2	ストレスコーピング		講義/演習
1 5	2	「幸せ」についての考察（幸福学）、まとめ		講義/演習
授業時間外の 学習	【予習】各回の講義前に、シラバスで提示された内容について、自分なりに調べておくこと。（例：自己概念⇒自己概念の言葉の意味を調べておく、等） 【復習】講義終了後は配布されたプリントを見直し、自分の言葉でまとめ、整理しておくこと。			
テキスト	なし。講義時にプリントを配布する。			
参考文献	講義中に適宜紹介する。			
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法	該当なし			

成績評価の方法と基準	最終試験をもって成績評価とするが、講義態度が著しく悪い学生、また指示された提出物を出さない学生については、最終試験点数より若干のマイナス点で評価する。マイナスの度合いについては、おおむね 10%程度とする。
------------	---

授業科目	法と人権	担当 教員	氏名	村里 淳
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	思永法律事務所
対象学生	2025 年度・1 年生			
受講要件	なし			
授業概要	社会が成立するには、法をはじめとする規範が必要です。国を単位として構成される現代社会では、国の基本的な理念である憲法を中心に、国民が守るべき規範と罰則（刑事法）、国民が社会生活を送るうえで生じる利害の調整（民事法）など、いろいろなルールが定められており、法律体系として明文化されています。 私たちは、日頃法律を意識して生活することは少ないですが、実際はさまざまな法律の網の中で暮らしています。社会の公平性や生活の安全も、法律が守ってくれています。本授業では、人々が暮らす社会を理解するために法について理解してほしいと思っています。 また、現代社会は、多様な人々、さまざまな価値観を持つ人々が暮らしています。多様性を持つ人々を尊重し、共生していくためには、どのようにすればよいのかその思考方法を身につけ、人権意識の高揚を図ることも目指しています。			
到達目標	1. 法をはじめとする規範がどのように社会を成り立たせているのかを理解する。 2. さまざまな価値観を持つ人々の人権を守るための考え方を身につける。			
授業計画	内容			方法
回	時間			
1	2	法の体系・憲法（人権）	テキスト第 1 章・第 9 章	講義
2	2	憲法（統治）	テキスト第 8 章	講義
3	2	民法（契約法・消費者法）	テキスト第 2 章・第 3 章	講義
4	2	民法（不法行為）	テキスト第 4 章	講義
5	2	民法（家族法）・会社法・労働法	テキスト第 5 章・第 10 章・第 11 章	講義
6	2	刑法	テキスト第 6 章・第 7 章	講義
7	3	人権と国際法	テキスト第 12 章・第 13 章	講義
授業時間外の 学習	予習としてテキストの該当部分を読んでくること。			
テキスト	池田真朗 編：プレスステップ法学，弘文堂			
参考文献	必要に応じて、講義中に適宜紹介する。			
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法	該当なし			
成績評価の 方法と基準	・講義の出席状況，受講態度・発言の有無等（30%） ・最終試験（70%）			

授業科目	病理学		担当 教員	氏名	朴 鐘建 他		
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	北九州総合病院		
対象学生	2025 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて病理医として勤務		
受講要件	なし						
授業概要	病理学とは、全身・臓器において疾病として現れる構造的・機能的異常を理解する学問である。この科目では、担当教員の実務経験をもとに、疾病を原因や成り立ちをもとに整理し、病気の本質について理解を深め、医療従事者として知っておくべき医学の基礎を教授します。						
到達目標	病気を正しく理解するための知識を習得し、各種疾病の成因・病態を科学的・系統的に理解する。腫瘍の種類・特徴・進展・病因を科学的・系統的に理解する。考える看護を実践するために、実地臨床において必要な基本的な知識も習得する。						
授業計画	内容				方法		
回	時間						
1	2	総論	病理学の領域	細胞・組織とその障害	再生と修復	講義	
2	2		循環障害	炎症			講義
3	2		免疫とアレルギー	感染症			講義
4	2		代謝障害	老化と老年病			講義
5	2		新生児の病理	先天異常			講義
6	2		腫瘍	生命危機	まとめ		講義
7	2	各論	循環器系			講義	
8	2		呼吸器系			講義	
9	2		歯・口腔系 消化器系			講義	
1 0	3		消化器系 まとめ			講義	
1 1	3		内分泌系 造血器系			講義	
1 2	2		腎・尿路系 生殖器・乳腺			講義	
1 3	2		運動器系 感覚器系			講義	
1 4	2		脳・神経系 まとめ			講義	
授業時間外の 学習	各時間の予習復習を行う。						
テキスト	渡辺照男 編集：カラーで学べる病理学，ヌーヴェルヒロカワ						
参考文献	笹野公伸 他：シンプル病理学，南山堂 長村義之 他：NEW エッセンシャル病理学，医歯薬出版 など						
「看護師教育 の技術項目」の 到達確認方法	該当なし						
成績評価の 方法と基準	総論で 1 回、各論で 2 回、計 3 回の試験を行う。 各 100 点満点で実施し、それぞれ 60 点以上を合格とする。						

授業科目	臨床薬理学		担当 教員	氏名	古賀 貴大
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	北九州総合病院
対象学生	2025 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて薬剤師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	薬が疾患の治療に用いられる理由を理解し、薬の投与から投与後の経過観察までの一連の過程における薬の適正使用に関する考え方を教授する。 担当教員の病院での実務経験を踏まえ、臨床場面を意識した実際の看護に求められる薬の知識と薬の投与時の注意事項を理解できるよう授業をすすめる。				
到達目標	・薬がどのように人体に影響を与えるのか、作用と副作用について理解する。 ・薬の投与方法、投与量と薬理効果の関係について理解する。 ・薬を適正かつ安全に使用するための注意事項を理解する。				
授業計画 回	時間	内容			方法
1	2	第1章 総論 1 薬物療法の目的、薬理作用と作用機序、薬物動態、副作用、薬物相互作用			講義 小テスト
2	2	第1章 総論 2 新薬の開発、医薬品の管理			講義 小テスト
3	2	第2章 末梢神経系作用薬 自律神経作用薬、筋弛緩薬、局所麻酔薬			講義 小テスト
4	2	第3章 中枢神経系作用薬 麻酔薬、鎮痛薬、睡眠薬、抗精神薬、抗てんかん薬、抗パーキンソン病薬、抗アルツハイマー病薬			講義 小テスト
5	2	第4章 循環器系作用薬 降圧薬、強心薬、抗狭心症薬、抗不整脈薬、抗高脂血症薬			講義 小テスト
6	2	第4章 循環器系作用薬 輸液、利尿剤、貧血治療薬、止血薬、抗血小板薬、抗凝固薬			講義 小テスト
7	2	第5章 抗炎症薬 副腎皮質ステロイド剤、N S A I D s、抗アレルギー薬、免疫抑制薬、関節リウマチ治療薬、痛風治療薬			講義 小テスト
8	2	第6章 呼吸器系作用薬 気管支喘息治療薬、鎮咳去痰薬			講義 小テスト
9	2	第7章 消化器系作用薬 胃酸分泌抑制薬、胃粘膜保護薬、制吐剤、下剤、止痢剤			講義 小テスト
1 0	2	第8章 ホルモン系作用薬 糖尿病治療薬、抗甲状腺薬、甲状腺ホルモン薬、骨粗鬆症治療薬			講義 小テスト
1 1	2	第8章 生殖器系作用薬 前立腺肥大症治療薬、子宮収縮薬			講義 小テスト
1 2	2	第9章 抗感染症薬 基礎知識、βラクタム系（ペニシリン系、セフェム系）、アミノグリコシド系、マクロライド系、テトラサイクリン系、ニューキノロン剤、抗結核薬、抗ウイルス薬、消毒薬			講義 小テスト
1 3	2	第1 0 章 抗悪性腫瘍薬 殺細胞性抗腫瘍薬（アルキル化剤、代謝拮抗剤、抗腫瘍性抗生物質、ビンカアルカロイド系、タキサン系、白金製剤、トポイソメラーゼ阻害剤）、分子標的治療薬			講義 小テスト
1 4	2	第1 1 章 漢方薬 漢方薬			講義

1 5	2	まとめ 第1～10章のまとめ	講義
授業時間外の学習		予習においては、教科書の該当頁を熟読し、理解できない個所を明確にし、授業に参加する。復習においては、教科書、講義資料を用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。また、毎回の講義後に配布する小テストにて重要なポイントの理解を深める。	
テキスト		安原 一，小口 勝司：編集わかりやすい薬理学，ヌーヴェルヒロカワ	
参考文献		なし	
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法		該当なし	
成績評価の方法と基準		到達目標に対する達成度を終了試験（100%）にて評価する。	

授業科目	臨床検査	担当教員	氏名	中園 朱実他
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	産業医科大学病院
対象学生	2025 年度・1 年生		担当者実務経験	病院にて臨床検査技師として勤務
受講要件	無			
授業概要	医療分野では多くの検査が実施され、診断のための重要な役割を果たしている。看護師は、検査を受ける患者の看護を行うとともに、得られた検査データの持つ意味を理解し、患者に必要な看護を実践することが求められる。 この科目では、担当教員の実務経験をもとに各種検査の目的や方法、検査内容と病態、解剖生理とのつながり、検査データのもつ意味を教授し、看護における判断の基礎的知識となるよう授業を進める			
到達目標	1. 診療における臨床検査の役割について理解する。 2. 臨床検査の方法を理解する。 3. 検査目的や内容と解剖生理、病態とのつながりを理解する。			
授業計画	内容			方法
回	時間			
1	1	1. 総論 臨床検査技師の歴史、臨床検査技師の業務範囲・関連法規 臨床検査の役割、検査のすすめ方、検査の流れと看護師の役割 検査における注意点：検体採取、保存、移送方法 看護師の感染・患者の感染の可能性等（針刺し事故等） 看護師が実施する検査（POCT 検査について概要）		講義 / 中園
2	2	2. 臨床検査方法と検査結果の見方・考え方 [検査における注意点、検査結果に影響を及ぼす要因 検査値の基準範囲と臨床的意義] ① 生化学・内分泌検査 ・精度管理 ・基準範囲と臨床判断値、パニック値 ・検査結果に影響を及ぼす要因（溶血・乳びなど） ・検査値の読み方、考え方について		講義 / 比嘉
3	2	2. 臨床検査方法と検査結果が示すもの ② 免疫・輸血・感染症検査 ・おもて試験・うら試験、おもてうら不一致について ・新生児の血液型検査 ・特殊な血液型 ・輸血の同意取得（感染症検査含む）について ・緊急時の輸血対応について ・輸血副反応、不適合輸血、GVHD、輸血後感染症 ・抗原・抗体反応 ・輸血後感染症検査（HBV,HIV 等） 結果の解釈 ・輸血後感染症遡及調査について		講義 / 坂西
4	2	2. 臨床検査方法と検査結果が示すもの ③ 血液検査・凝固検査 ・採血方法・採血順による検査結果に与える影響・注意点 ・検査結果に影響を及ぼす要因 ・血液像と骨髓像、骨髓穿刺における患者説明 ・凝固カスケード ・検査値の基準範囲と臨床的意義		講義 / 黒木

5	2	2. 臨床検査方法と検査が示すもの ④ 感染微生物検査 ・感染防止対策の基本と感染対策上重要な耐性菌 ・細菌検査の流れとその特徴 ・検体採取、輸送・保管による検査結果に与える影響・注意点 ・各種感染症と届出感染症の種類	講義 / 川上
6	2	2. 臨床検査方法と検査が示すもの ⑤ 循環器・神経検査 ・循環器検査について ・心電図の誘導と波形パターン、重要な検査所見、循環器検査を行う場合の注意点 ・脳波検査について ・その他、脳神経検査について	講義 / 池田
7	2	2. 臨床検査方法と検査が示すもの ⑥ 呼吸機能検査 ・看護師が検査する場合の注意点、患者への説明 ・簡易検査について ・肺活量、1秒量・1秒率と臨床的意義	講義 / 立花
8	1	2. 臨床検査方法と検査が示すもの ⑦ 一般検査 ・採尿時の注意点 ・採取後、検体提出における注意点 ・試験紙の判定と結果に与える影響 ・尿沈渣で認められる所見と臨床的意義 ・便潜血検査、髄液検査等の注意点、臨床的意義	講義 / 諸岡
8	1	2. 臨床検査方法と検査が示すもの ⑧超音波検査・総括 ・超音波の原理 ・超音波画像と解剖 ・POCT 超音波検査（褥瘡・消化管内糞便エコー） ・FAST エコー（心嚢液、腹水・胸水貯留、心不全など） ・臨床検査のまとめ	講義 / 中園
授業時間外の学習		各時間の予習復習を行う。	
テキスト		奈良信雄・和田隆志 編：系統看護学講座 別巻 臨床検査，医学書院	
参考文献		濱崎直孝 監修：臨床検査精度保証教本，社団法人日本臨床衛生検査技師会 本田孝行 編著：ワンランク上の検査値の読み方・考え方ールーチン検査から病態変化を見抜くー第2版，総合医学社 下正宗 編集：エビデンスに基づく 検査データ活用マニュアル第2版，学研 認定輸血検査技師制度協議会カリキュラム委員会 編集：スタンダード輸血検査テキスト第3版	
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法		該当なし	
成績評価の方法と基準		終了試験（100点）を実施する。	

授業科目	診断治療論 1		担当 教員	氏名	高水間亮治 他
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	北九州総合病院
対象学生	2025 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて医師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	解剖生理学、病理学を基盤に、看護を学ぶために必要な代表的な疾患を器官系統別に分類し、定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法、予後などについて講義する。診断治療論 1 では、内科系疾患のうち呼吸器系、循環器系、腎・泌尿器系、消化器系、肝・胆道系、内分泌系疾患についてオムニバス形式で授業を行う。いずれも、各分野の専門家としての実務経験をもとに講義を行う。				
到達目標	代表的な内科系各科疾患について、その定義、概念、病因、病態生理、臨床症状、検査・診断法、治療法及び予後を説明できる。				
区分	時間	内容			方法
A. 呼吸器疾患	2	呼吸器症状とその病態生理			講義
	2	呼吸器疾患の検査と治療・処置			講義
	2	呼吸器疾患（1） ①炎症性疾患、②気管支喘息、③慢性閉塞性肺疾患			講義
	2	呼吸器疾患（2） ④肺循環疾患、⑤肺結核、⑥気胸、⑦腫瘍			講義
B. 循環器疾患	2	循環器症状とその病態生理 循環器疾患の検査と治療・処置			講義
	2	循環器疾患（1） ①心臓の疾患：先天性心疾患、虚血性心疾患、心筋症 心不全、心タンポナーデ、不整脈、 炎症性疾患、弁膜症			講義
	2	循環器疾患（2） ②血管系の疾患：大動脈瘤、大動脈解離 ③血圧異常：動脈硬化症、本態性高血圧、二次性高血圧 起立性低血圧			講義
	2	循環器疾患（3） ④ショック：心原性ショック、出血性ショック			講義
C. 腎泌尿器疾患	2	腎内科疾患の病態と診断・治療 ①炎症性疾患、②慢性腎臓病、③腎不全			講義
	2	泌尿器科疾患の病態と診断・治療 ①腎尿路結石、② 排尿障害、③腫瘍			講義
	2	男性生殖器の疾患の病態と診断・治療 ①前立腺疾患、②男性性機能障害			講義
D. 消化器疾患	2	消化器症状とその病態生理 消化器疾患の検査と治療・処置 消化器疾患（1） ①上部消化器疾患：炎症性疾患、潰瘍性疾患 ②下部消化器疾患：イレウス、排便障害			講義
	2	消化器疾患（2） ①肝臓・胆嚢・膵臓の疾患炎症性疾患、肝硬変、腫瘍、 脂肪肝、アルコール性肝炎、胆石症			講義

E. 内分泌代謝疾患	2	内分泌疾患の病態と診断・治療 ①間脳・下垂体疾患、②甲状腺疾患、③副甲状腺疾患 ④副腎皮質・髄質疾患	講義
	2	代謝疾患の病態と診断・治療 ①メタボリックシンドローム・肥満症、②糖尿病 ③脂質異常症、④高尿酸血症、痛風、⑤ビタミン欠乏症	講義
授業時間外の学習	各時間の予習復習を行う。		
テキスト	A：浅野浩一郎 他：系統看護学講座 成人看護学 2 呼吸器，医学書院 B：吉田俊子 他：系統看護学講座 成人看護学 3 循環器，医学書院 C：今井亜矢子 他：系統看護学講座 成人看護学 8 腎・泌尿器，医学書院 D：南川雅子 他：系統看護学講座 成人看護学 5 消化器，医学書院 E：黒江ゆり子 他：系統看護学講座 成人看護学 6 内分泌・代謝，医学書院		
参考文献	各講師の配布資料		
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし		
成績評価の方法と基準	各区分別に試験（100 点）を行う。 最終評価の割合は、A・B は各 25%、C は 20%、D・E は各 15%とする。 最終評価（各区分の得点を割合で乗じ、区分の合計点を算出）し、評価点とする。 最終評価点が不合格となった者は、不合格となった区分の再試験を行う。		

授業科目	診断治療論 2		担当 教員	氏名	野上健一郎 他
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	北九州総合病院
対象学生	2025 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて医師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	解剖生理学、病理学を基盤に、看護を学ぶために必要な代表的な疾患を器官系統別に分類し、定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法、予後などについて講義する。診断治療論 2 では、内科系疾患・外科系疾患のうち脳神経系、運動器系、アレルギー・感染症、血液・造血器系疾患、画像診断と放射線治療についてオムニバス形式で授業を行う。いずれも、各分野の専門家としての実務経験をもとに講義を行う。				
到達目標	代表的な内科系・外科系各科疾患について、その定義、概念、病因、病態生理、臨床症状、検査・診断法、治療法及び予後を説明できる。				
区分	時間	内容			方法
A. 脳神経疾患	2	脳神経系症状とその病態生理 ①意識障害、②頭蓋内圧亢進症状、③脳ヘルニア 等 脳神経系疾患の検査と治療・処置			講義
	2	脳神経疾患（1） ①脳血管障害：脳内出血、くも膜下出血、脳梗塞、 もやもや病			講義
	2	脳神経疾患（2） ②変性疾患：パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症 ③脱髄疾患、④認知症、⑤感染症			講義
	2	脳神経疾患（3） ⑥機能性疾患（てんかん）、⑦腫瘍 ⑧末梢神経疾患：ギランバレー症候群、顔面神経麻痺 ⑨筋・神経筋接続部の疾患：筋ジストロフィー 重症筋無力症			講義
B. 運動器疾患	2	運動器疾患の症状とその病態生理 運動器疾患の検査と治療・処置			講義
	2	運動器疾患（1） ①骨関節疾患：骨折、脱臼、捻挫 腫瘍、変形性関節症、腰痛症			講義
	2	運動器疾患（1） ①骨関節疾患：脆弱性疾患（骨粗鬆症）、炎症性疾患 ②脊髄損傷			講義
C. アレルギー・膠原病・感染症	2	アレルギー疾患の病態と診断・治療 ①アレルギーとは、②花粉症、③蕁麻疹、 ④接触性皮膚炎、⑤アナフィラキシーショック			講義
	2	膠原病疾患の病態と診断・治療 ①自己免疫疾患とその機序、 ②全身性エリテマトーデス、③関節リウマチ、 ④シェーグレン症候群			講義
	2	感染症の病態と診断・治療 ①感染症とは、 ②感染症の診断と治療、③感染症（呼吸器・消化器等） ④ヒト免疫不全ウイルス感染症			講義

D. 血液・造血器疾患	2	血液・造血器疾患の検査と診断、症候・病態生理・治療 ①貧血、②白血球減少、③出血性疾患（輸血療法を含む）	講義
	2	血液・造血器疾患の検査と診断、症候・病態生理・治療 ① 腫瘍	講義
E. 放射線医学	2	画像診断 ①X線診断、②CT、③MRI、④超音波診断 ⑤核医学、⑥IVR・血管造影	講義
	2	放射線治療総説：放射線治療の原理、有害反応、照射法の種類	講義
	2	放射線治療各論 放射線防護	講義
授業時間外の学習	各時間の予習復習を行う。		
テキスト	A：井手隆文 他：系統看護学講座 成人看護学 7 脳・神経，医学書院 B：田中栄 他：系統看護学講座 成人看護学 10 運動器，医学書院 C：岩田健太郎 他：系統看護学講座 成人看護学 11 アレルギー 膠原病 感染症，医学書院 D：飯野京子 他：系統看護学講座 成人看護学 4 血液・造血器，医学書院 E：長尻博也 他：系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学，医学書院		
参考文献	各講師の配布資料		
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし		
成績評価の方法と基準	各区分別に試験（100点）を行う。 最終評価の割合は、Aは25%、B・C・Eは各20%、Dは15%とする。 最終評価（各区分の得点を割合で乗じ、区分の合計点を算出）し、評価点とする。 最終評価点が不合格となった者は、不合格となった区分の再試験を行う。		

授業科目	診断治療論 3		担当教員	氏名	①日暮愛一郎 他 ②中藪誠 ③寺田由紀 他
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	①②北九州総合病院 ③小倉歯科医師会
対象学生	2025 年度・1 年生			担当者実務経験	①病院にて医師として勤務 ②病院にて理学療法士として勤務 ③歯科医院にて歯科医師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	解剖生理学、病理学を基盤に、看護を学ぶために必要な代表的な疾患を器官系統別に分類し、定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法、予後などについて講義する。診断治療論 3 では、外科系疾患、リハビリテーション療法、歯・口腔疾患についてオムニバス形式で授業を行う。いずれも、各分野の専門家としての実務経験をもとに講義を行う。				
到達目標	代表的な外科系疾患・歯口腔疾患について、その定義、概念、病因、病態生理、臨床症状、検査・診断法、治療法及び予後を説明できる。また、リハビリテーション療法の考え方と方法を説明できる。				
区分	時間	内容			方法
A. 外科疾患	4	外科総論 手術療法と生体の反応、炎症、感染症、創傷治癒 外科治療の実際			講義
	4	消化器疾患の治療 ①上部消化器疾患、②下部消化器疾患			講義
	4	消化器疾患の治療 ③肝臓・胆嚢・膵臓疾患 腹壁疾患			講義
	2	呼吸器疾患の治療 肺疾患：肺がん、気胸			講義
	2	乳腺疾患の治療			講義
B. リハビリテーション療法	2	リハビリテーション・障害の概念、 障害の評価			講義
	2	運動器系の障害とリハビリテーション 中枢神経系の障害とリハビリテーション			講義
	2	呼吸器・循環器系の障害とリハビリテーション 感覚器系の障害とリハビリテーション看護			講義
	2	リハビリテーション療法の実際			演習
C. 歯・口腔疾患	2	歯科概論			講義
	2	小児・妊婦の歯科疾患、歯周病			講義
	2	高齢者の歯・口腔疾患			講義
授業時間外の学習	各時間の予習復習を行う。				

テキスト	A：矢永勝彦 他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論，医学書院 北島政樹 他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論，医学書院 B：原三紀子 他：系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護，医学書院 C：渋谷絹子 他：系統看護学講座 成人看護学 15 歯・口腔，医学書院
参考文献	各講師の配布資料
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	各区分別に試験（100 点）を行う。 最終評価の割合は、A は 50%、B・C は各 25%とする。 最終評価（各区分の得点を割合で乗じ、区分の合計点を算出）し、評価点とする。 最終評価点が不合格となった者は、不合格となった区分の再試験を行う。

授業科目	医療概論	担当 教員	氏名	青山和義・竹田貴雄
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	北九州総合病院
対象学生	2025 年度・1 年生			
受講要件	なし			
授業概要	これから看護を学ぶ学生に、医療の全体像を概観し、医療のあり方や医療従事者に求められる姿をそれぞれの力で考えることを期待し、講義を進めていきます。 医療は医師や看護師だけではなく、さまざまな専門職がそれぞれの役割を果たし協働することによって成り立っています。また、社会のニーズによって変化していきます。しかし、人々の生命の尊厳はどのような場面においても尊重されなければいけません。この講義は、病院で日々医療に携わる教員が、その経験を活かしながら、医学、医療における諸活動、医療を取り巻く社会や経済、政策などの講義を行い、医療のあり方を考えていきたいと思っています。			
到達目標	1.保健医療を取り巻く社会の動向を理解し、医療のあり方や医療従事者に求められる姿を考える。 2.生命の尊厳や生命倫理、医の倫理、患者の権利についての考え方について理解する。 3.我が国の医療保障制度、医療経済の現状と問題点を理解する。			
授業計画	内容			方法
回	時間			
1	2	生きることと死ぬこと		講義
2	2	医学と医療		講義
3	2	保健・医療・介護、社会保障制度		講義
4	2	保健・医療・介護、社会保障制度		講義
5	2	医療倫理・医療安全・医薬品		講義
6	2	医療情報・最先端医療の概要と課題		講義
7	3	医療と社会、医療経済と政策医療 まとめ		講義
授業時間外の 学習	予習復習を行い講義に臨んでほしい。			
テキスト	廣永英生：系統看護学講座医療概論，医学書院			
参考文献	必要に応じ随時指示する。			
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法	該当なし			
成績評価の 方法と基準	終了テスト（100 点）を行う。			

授業科目	基礎看護学概論		担当 教員	氏名	佐藤 節美
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	教員
対象学生	2025 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	看護とは何か、看護の対象は何か、看護が成り立っている制度や歴史、その活動領域について理解させ、看護の概念を教授する。看護を理解する上で理論は必須であり、どのような理論がどのような看護を導きだしているのか理解させる。看護師の倫理観や看護学生としての倫理的行動を考えさせる。臨床の場で遭遇するであろう事例を提示し、考えさせることで理解を深めさせ、基礎看護技術や各看護学に結びつける礎となる内容とする。				
到達目標	1. 看護とは何かを知り、理論の必要性について理解し説明できる。 2. 看護の対象としての人間を理解する。 3. 職業としての看護と看護者の養成制度、看護職者の倫理について学び適切な行動とはなにか説明できる。 4. 看護サービス提供の場と看護制度を理解する。 5. 看護の活動領域について理解し、説明できる。				
授業計画	内容				方法
回	時間				
1	2	看護とはなにか・私の理想の看護師像			演習
2	2	看護の歴史・看護の定義			講義
3	2	看護の本質とはなにか 看護理論			講義
4	2	看護理論			講義
5	2	看護の役割と機能			演習
6	2	看護の対象			講義
7	2	看護の対象 健康と生活			演習
8	2	健康と生活			講義
9	2	看護教育の変遷 看護の提供者と看護職の教育制度とその課題			講義
10	2	看護職者の倫理			演習
11	2	看護職者の倫理			講義
12	2	看護の提供のしくみと看護の継続性・看護サービスの管理			講義
13	2	看護をめぐる制度と政策 看護サービスと経済のしくみ			講義
14	2	看護管理とは・医療安全と看護業務			講義
15	2	看護の国際協力と災害時の看護			講義
授業時間外の学習	湯槇ます 他 訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版社 小玉香津子 他 訳：看護覚え書き 日本看護協会出版社 小玉香津子 他 訳：新訳・ナイチンゲール書簡集 現代社 以上の3冊を熟読する				

テキスト	茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学① 看護学概論，医学書院
参考文献	学内の図書室にある、理論家の書物すべて
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	筆記試験を 45 分で実施。 筆記試験 70 点、課題レポート(2 枚)30 点、計 100 点で評価する。 授業中に毎時間の私語や寝ている状況があれば減点する。

授業科目	基礎看護学共通基本技術 1		担当 教員	氏名	中山 仁美
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2025 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	基礎看護技術とは、看護実践能力の基礎となる基本的な看護技術である。その中でも土台となる看護技術を共通基本技術とし、当科目では、「生活環境技術」および「安全を守る技術」を教授する。生活環境技術では、環境は健康と密接に関連していること、環境を調整する意義や目的、環境を整える際の視点や方法について教授する。また安全を守る技術では、医療を患者が安全に安心して受けるために必要な看護師としての知識、技術、姿勢について臨床経験を活かし教授する。				
到達目標	1. 患者の療養生活の環境を構成する要素を理解し、病室・病床の環境のアセスメントおよび調整する目的や方法を説明できる。 2. 療養環境の整備・調整、ベッドメイキングおよび臥床患者のリネン交換が実施できる。 3. 医療の中の安全確保の基礎知識と事故防止について理解できる。 4. 感染の成り立ちおよび感染予防の意義と方法について理解できる。 5. 感染防御策及び無菌操作を実施できる。				
授業計画	内容				方法
回	時間				
1	2	看護技術とは 環境とは：「環境」の概念理解、「環境」と「看護」			講義 グループワーク
2	2	療養生活と環境 療養環境のアセスメントと調整方法			講義 グループワーク
3	2	ベッド周囲の環境整備、環境調整の方法			演習
4	2	病床を整える ベッドメイキング・リネン交換の目的・方法			講義・演習
5	2	ベッドメイキングの実際			演習
6	2	臥床患者のリネン（下シーツ・横シーツ・枕カバー）交換			演習
7	3	安全確保の基礎知識 事故防止のための技術と対策			講義
8	2	感染とその予防の基礎知識 標準予防策（スタンダードプリコーション） 感染性廃棄物の取扱い			講義 グループワーク
9	2	スタンダード・プリコーションの実施 ・衛生的手指手洗い ・プラスチックエプロン、手袋の着脱 ・廃棄区分ごとの廃棄			演習
1 0	4	臥床患者の療養環境を整える（事例）			演習
1 1	2	感染経路別防止策：接触予防策・飛沫予防策・空気予防策 院内感染発生時の対応			講義
1 2	2	洗浄・消毒・滅菌の基礎知識と技術 無菌操作			講義
1 3	3	感染予防の実際 無菌操作（滅菌物の取り扱い、滅菌手袋） 廃棄区分ごとの廃棄			演習

授業時間外の学習	授業の予習と復習、課題レポート、各技術の手順書を参考にセルフトレーニング
テキスト	有田 清子他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ，医学書院 有田 清子他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 任 和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院
参考文献	必要時、紹介する
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	環境調整技術として、1.快適な療養環境の整備、2.臥床患者のリネン交換、65.安全な療養環境の整備(転倒・転落・外傷予防)について演習時にチェックリストを用いて自己評価、他者(学生)評価を行う。 感染予防技術として、57.スタンダード・プリコーションに基づく手洗い、58.必要な防護具の選択・着脱、59.使用した器具の感染防止の取扱い、60.感染性廃棄物の取扱い、61.無菌操作について、演習時に自己評価・他者(学生)評価を実施、さらに技術試験を実施して到達確認を行う。
成績評価の方法と基準	①筆記試験（45 分）②技術試験で評価を行う。①、②は各 100 点とし、それぞれ 60 点以上を合格とする。 （ただし、授業や演習態度、課題提出の遅れ、レポートや課題成果状況によっては減点することもある。） 科目の最終評価は、①筆記試験 70%、②技術試験 30%として算出する。

授業科目	基礎看護学共通基本技術 2		担当 教員	氏名	山口 直美
単位・時間数	1 単位・15 時間			所属	専任教員
対象学生	2025 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	看護実践においてコミュニケーションは、相手の心と心の交流を図り信頼関係の構築や看護上の問題を解決するために用いられるなど、効果的な介入を行う際に必須の技術である。看護・医療におけるコミュニケーションの目的や重要性を理解し、関係構築のためのコミュニケーションについての知識・技術・態度を習得し実践できるよう、臨床経験を活かし教授する。				
到達目標	1．対象との関係を築くために必要なコミュニケーション技術の基礎について理解する。 2．医療・看護におけるコミュニケーションの重要性を理解し、適切なメッセージを伝える方法および対象に応じた効果的な対応を実践できる。				
授業計画	内容				方法
回	時間				
1	2	コミュニケーションの意義と目的 コミュニケーションの構成要素			講義
2	2	関係構築のためのコミュニケーションの基本			講義
3	2	効果的なコミュニケーションの実際			講義
4	2	効果的なコミュニケーションの実際			講義
5	2	プロセスレコードの目的 プロセスレコードの記入方法 プロセスレコードの実施			講義・演習
6	2	コミュニケーション障害への対応			講義
7	3	看護におけるコミュニケーションの実際 ロールプレイング			演習
授業時間外の学習	・授業中に課題（プロセスレコードなど）を提示するので決められた期日に提出する				
テキスト	茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I，医学書院				
参考文献	授業中に必要に応じて指定する				
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし				
成績評価の方法と基準	課題レポート（個人レポート 2 回、GW レポート 1 回）、筆記試験（45 分）で評価する。課題レポートの評価は評価表を用いて行い、個人レポートは第 1 回 20 点、第 2 回 30 点、GW レポートは 10 点、筆記試験は 40 点とし、計 100 点で評価する。				

授業科目	基礎看護学共通基本技術 3		担当 教員	氏名	山口 直美
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2025 度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	看護師として全人的に人を捉えるヘルスアセスメントの実施は必要不可欠なものである。そのなかでも健康査定を行うための具体的方法であるフィジカルアセスメントは、患者の安全・安楽、対象に応じた看護を提供するための重要な視点であり、看護師の臨床判断能力につながる。まずは、基本となるバイタルサイン（生命徴候）測定の方法の習得を目指す。また、フィジカルイグザミネーションとインタビューから正常か異常（正常からの逸脱）を判断し、看護に結びつけてゆく過程を学ぶ。これらは、教員の臨床での実務経験を活かし教授する。				
到達目標	1. ヘルスアセスメントの意義と目的、全体の概要が理解できる。 2. バイタルサインの観察や測定、計測などフィジカルイグザミネーションの意味を理解し、説明・実施できる。 3. フィジカルアセスメントの基本手技（視診・触診・打診・聴診）の意味や方法を理解し、手技ができる。 4. 系統別アセスメントを行うためのフィジカルイグザミネーションとその根拠がわかり、手技ができる。 5. フィジカルイグザミネーションで得た情報を分析し、報告の必要性とその対処方法を考えることができる。				
授業計画	内容				方法
回	時間				
1	2	ヘルスアセスメントの意義と身体計測と記録・報告			講義 演習
2	2	バイタルサインとは 体温維持に関する基礎知識と測定方法			講義 演習
3	2	呼吸・循環に関する基礎知識と測定方法			講義 演習
4	2	血圧測定方法			演習
5	2	一連のバイタルサイン測定			演習
6	2	中間試験（30 分） フィジカルアセスメントにおける共通基本技術 視診、触診、打診、聴診			講義
7	2	呼吸器系のフィジカルアセスメント（視診、触診、聴診）			講義
8	2	循環器系のフィジカルアセスメント（触診、聴診）			講義
9	2	呼吸、循環器系のフィジカルアセスメントの実際			演習
1 0	2	腹部・消化器系のフィジカルアセスメント（触診、聴診、打診） 脳・神経系のフィジカルアセスメント（意識レベル、対光反射など）			講義
1 1	2	筋・骨格系のフィジカルアセスメント（MMT、関節可動域など） 外皮・リンパ系のフィジカルアセスメント			講義
1 2	2	腹部、脳神経系、筋・骨格系のフィジカルアセスメントの実際			演習

1 3	2	フィジカルアセスメント技術演習	演習
1 4	2	事例検討準備（観察、アセスメント）	グループワーク 演習
1 5	2	事例検討発表	演習
授業時間外の 学習		・各講義前には必ず、課題となる臓器の解剖生理の復習を行い講義に臨む。 ・授業中に課題を提示するので決められた期日に提出する。 ・演習前は課題となる臓器の解剖生理の復習、技術の予習を行い演習に臨む。 ・演習後は事後レポートを提出する。（詳細は演習時に説明）	
テキスト		茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I，医学書院 香春知永他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論，医学書院 任 和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院 熊谷たまき他：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント，メディックメディア	
参考文献		坂井建雄他：系統看護学講座 専門基礎分野 人体と構造と機能[1]解剖生理学，医学書院 渡辺照男：カラーで学べる病理学，ヌーヴェルヒロカワ 井手隆文：系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 脳・神経，医学書院	
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法		・51.身体計測の技術に関しては、演習中に評価表を使用し自己と他者(学生)にて評価する。 ・50.バイタルサインの測定、52.フィジカルアセスメントの技術に関しては、技術試験評価表を使用し、技術試験にて評価する。	
成績評価の 方法と基準		①筆記試験（中間 30 分、最終 45 分）、②技術試験で評価を行う。 ①筆記試験は 2 回（中間試験・最終試験）に分けて実施する。 ＊中間試験は 1～5 回目の講義内容、最終試験は 6～15 回目の講義内容を試験の範囲とする。 ＊中間試験を 40 点、最終試験を 60 点とし、合計 100 点とし、60 点以上を合格とする。 ②技術試験は 2 回（バイタルサイン測定・フィジカルアセスメント）実施する。 評価は技術試験評価表を使用し、各 100 点とし、それぞれ 60 点以上を合格とする。 科目の最終評価は、①筆記試験 50%、②技術試験は各 25%として算出する。	

授業科目	基礎看護学共通基本技術 4		担当 教員	氏名	川島 已知
単位・時間数	1 単位・15 時間			所属	専任教員
対象学生	2025 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	看護過程は、看護の対象となる人に対して、個々に応じた科学的な看護を実践するための方法を示した思考過程である。ここでは、看護過程の基盤となる考え方を理解し、事例を用いて、看護過程の各段階であるアセスメント、問題の明確化、計画、実施、評価を通して、看護実践における思考過程の方法の理解を促す。また、臨地実習において活用できる看護過程の展開を理解し、看護判断能力及び問題解決能力を養えるよう、臨床経験を活かし教授する。				
到達目標	1．看護過程を用いる意義や看護過程の基盤となる考え方について理解できる。 2．看護過程を構成する要素とそのプロセスを理解する。 3．事例を基にアセスメント、問題の明確化、看護計画、実施、評価の各段階について、基本的な考え方を理解し、記載することができる。				
授業計画	内容				方法
回	時間				
1	2	看護過程とは 看護過程の基盤となる考え方			講義
2	2	アセスメント：データアセスメント枠組みを用いた情報収集			講義
3	2	アセスメント：データの解釈と全体像			講義
4	2	看護問題の明確化と目標の設定および優先順位の決定、看護計画			講義
5	2	看護計画、実施、評価の方法、看護要約			講義
6	2	事例による看護過程の展開			演習 グループワーク
7	3	事例による看護過程の展開の発表 まとめ			演習 グループワーク
授業時間外の 学習	・シラバスの内容に応じて事前にテキストの内容を確認した上で授業に臨むこと。 ・個人ワーク、グループワークや事例は講義終了後、授業内容に合わせて課題提示をする。授業中に個人ワークを行うが、残ったものは自宅で行い指定された期限日までに提出する。				
テキスト	有田清子他：系統看護学講座 基礎看護学 2 基礎看護技術Ⅰ，医学書院 永田明，石川ふみよ：看護がみえる vol.4 看護過程の展開，メディックメディア 谷津裕子，石川ふみよ他：看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ，メディックメディア V ヘンダーソン著：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会				
参考文献	川村雅文：系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7] 脳・神経，医学書院 江口正信他：検査値早わかりガイド，医学芸術社 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[1] 看護学概論，医学書院 小松浩子他：系統看護学講座 専門分野 成人看護学概論[1] 成人看護学総論，医学書院 黒田裕子：改訂版 黒田裕子の入門・看護診断，照林社 論理学で指定されたテキスト、文献、またはプリント				
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法	該当なし				

成績評価の方法と基準	①筆記試験（45分）50点、②課題成果物（看護過程の展開）を、看護過程評価表を用いて50点で評価し、計100点で評価とする。
------------	--

授業科目	基礎看護学生生活援助技術 1		担当 教員	氏名	川島 已知
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2025 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	看護師の業務には療養上の世話がある。患者の療養上の世話に関する基礎的技術を生活援助技術とし、当科目では、活動・休息および食事に関する援助技術について教授する。活動と休息援助技術においては、その意義と日常生活に必要な活動・運動および睡眠・休息を促進する援助技術についての理解を促す。ボディメカニクスを活用して体位変換や移乗・移送、関節可動訓練（ROM）の技術を習得する。食事援助技術においては、食事の意義を理解し、対象に応じた食事援助を考える基礎的知識・技術・態度の習得をめざす。実務経験のある担当教員の指導のもと各援助の実際を理解する。				
到達目標	1．人間にとっての活動の意義について理解し、動かないことによっておこる弊害が理解できる。 2． ボディメカニクスを活用し、最小のエネルギーで安全・安楽に身体を動かし、保持する基本的技術および移乗・移送技術の基本が習得できる。 3． 食事の意義・栄養・食行動のアセスメントおよび食事時の注意事項を説明できる。 4． 対象の状況に合わせた食事援助を実施できる。				
授業計画		内容			方法
回	時間				
1	2	活動・休息の意義、基本的な体位、安楽な体位とは			講義
2	2	ボディメカニクスに必要な知識と体位変換			講義
3	2	体位変換の実際			演習
4	2	移乗・移送援助の基本知識（杖、車椅子、ストレッチャー）			講義
5	4	移乗・移送の実際 1.杖・歩行器、松葉杖などの歩行の援助、ストレッチャーへの移乗と移送 2.車椅子のへの移乗、移送の実際、ポータブル便器への移乗			演習
6	2	廃用症候群と予防（関節可動域訓練）、肢位固定			講義
7	2	肢位固定と関節可動域訓練の実際			演習
8	2	睡眠のメカニズムと不眠時の看護			講義
9	2	食事とは 1.食事の意義 2.食事行動 3.食物の流れ、摂食・嚥下のメカニズム			講義
1 0	2	栄養・食行動のアセスメント 1.栄養状態 2.摂食能力 3.嚥下機能 4.食欲			講義
1 1	2	食事援助 1.食事療法 2.食事援助の目的 3.看護師の役割 4.援助の実際			講義

1 2	4	食事援助の計画作成(グループ学習) 事例 a.臥床患者 b.視力障害のある患者 c.車いす患者 事例別食事援助の実際（嚥下障害のない患者の食事介助）	演習
1 3	2	食事援助の振り返り	講義・演習
授業時間外の学習		授業の予習と復習、課題レポート	
テキスト		任 和子他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 任 和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院	
参考文献		湯槇ます 他 訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会 小玉香津子 他 訳：看護覚え書き，日本看護協会出版会	
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法		活動・休息援助技術の 13.車椅子での移送、14.歩行・移動介助、15.移乗介助の技術に関しては、技術試験評価表を使用し、技術試験にて評価する。16.体位変換・保持、18.ストレッチャー移送、69.安楽な体位の調整、食事の援助技術の 3.食事介助（嚥下障害のある患者を除く）は、演習時にチェックリストを用いて自己評価、他者(学生)評価を行う。	
成績評価の方法と基準		①筆記試験（45 分）、②技術試験で評価を行う。 ①、②は各 100 点とし、それぞれ 60 点以上を合格とする。（ただし、授業や演習時の態度、課題提出の遅れ、レポートや課題成果状況によっては減点することもある。） 科目の最終評価は、①筆記試験 70%、技術試験 30%として算出する。	

授業科目	基礎看護学生生活援助技術 2		担当 教員	氏名	鉦賀 千夏
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2025 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	この科目では、人間の基本的・生理的欲求の中の衣生活・清潔および排泄の援助について教授する。看護の対象である生活する人間の「衣生活」と「清潔」および「排泄」に関する日常生活行動の持つ意味、ニーズを充足するために必要な基本的知識、具体的な援助方法の理解を促す。どちらの項目も極めてプライベートな部分であるため、プライバシーや自尊心への配慮が必要となる。また、対象の健康状態を把握するための観察の良い機会にもなる。以上を踏まえ、必要な知識・技術・態度を、講義・演習を通し習得していく。看護師としての実務経験を活かし、臨床の場面を伝えることで学生の想像を促し、自ら考え学べるように臨床経験を活かし教授する。				
到達目標	1．生活における衣・清潔、排泄の意義やニーズについて説明ができる。 2．衣・清潔援助を行う際のアセスメントおよび安全・安楽・自立を考えた方法を理解し実践できる。 3．排泄のメカニズムを説明することができ、アセスメントおよび自然排泄を促す援助を理解し実践できる。				
授業計画	内容				方法
回	時間				
1	2	清潔援助の概要 ・人間にとっての清潔の意義の理解 ・清潔援助の基礎知識 ・身体清潔のための援助方法の決定と留意点			講義
2	2	衣生活の援助 ・人間にとっての衣生活の意義 ・衣生活に関するアセスメントと援助方法			講義
3	2	様々な状況における寝衣交換の実施			演習
4	2	臥床患者の歯ブラシを用いた口腔ケアの実際			講義・演習
5	2	洗髪 ・洗髪の意義・目的 ・洗髪に必要な基礎知識 ・アセスメントと方法選択、援助方法			講義
6	4	臥床患者の洗髪の実施（ケリーパッド）			演習
7	2	入浴・部分浴・全身清拭・陰部の保清 ・意義、目的 ・アセスメントと方法選択、援助方法			講義
8	4	臥床患者の全身清拭・足浴演習			演習
9	2	排泄に関する基礎的知識 ・人間にとっての排泄の意義の理解 ・排尿・排便のメカニズムと排泄機能障害			講義
1 0	2	尿・排泄物の観察とアセスメント方法 対象に応じた排泄援助方法			講義
1 1	2	自然排泄を促す援助の実施 （ポータブルトイレ、床上排泄を促す援助、オムツ交換、陰部洗浄）			演習
1 2	2	事例を用いた自然排泄援助の理解			グループワーク

1 3	2	事例を用いた排泄援助の実施	グループワーク・ 演習
授業時間外の 学習	・各講義の前には、授業範囲の教科書、看護技術の参考書を読み、考えをまとめ、手順の把握を行っておく。 ・実技演習前には、講義で学んだ内容を復習し、実技演習中に行動できるようにイメージトレーニングを行っておく。イメージがつかない場合は、図書室の DVD や参考書の動画を視聴するなどしておく。 ・演習後に課題に沿ったレポート等を提示する。		
テキスト	任 和子 他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 任 和子 他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院		
参考文献	藤本 真記子：看護がみえる vol.1 基礎看護技術，メディックメディア 吉田 みつ子 他：写真でわかる基礎看護技術アドバンス，インターメディカ		
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法	清潔・衣生活援助技術の 19.足浴・手浴、20.整容、21.患者の寝衣交換、23.陰部の保清、 26.口腔ケアについて、演習時に評価表を用いて自己評価、他者(学生)評価を行う。24. 清潔、25.洗髪については、演習時に評価表を用いて自己評価、他者(教員)評価を行う 排泄援助技術の 7.排泄援助(床上、ポータブルトイレ、オムツ等)について、演習時に評 価表を用いて自己評価・他者(学生)評価を実施する。また、事例を用いた演習を実施し グループ評価を行う。		
成績評価の 方法と基準	筆記試験 100 点 (ただし、授業や演習時の態度、課題提出の遅れ、レポートや課題成果状況によっては 減点することもある。)		

授業科目	基礎看護学診療補助技術 1		担当 教員	氏名	山口 直美
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2025 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	看護師の役割のひとつに、患者の診察・治療・検査など診療に関わる過程での援助がある。これら治療過程の援助技術は生命の危機に直結すること多いため、看護師の役割、責任を認識し、正確かつ確実な技術を習得することが極めて重要である。ここでは、看護師による専門的な診療の補助の意義と方法および看護技術を提供するために必要な知識・技術・態度について講義や演習を通して学習できるようにする。 与薬の技術は、直接的な身体への影響が大きい技術であり、安全かつ正しい指示に基づいて正確に行われなければならない。担当教員の実務経験をもとに基礎的な知識、技術が身につけられるよう、講義や演習を通して教授する。				
到達目標	1. 与薬における看護師の役割について説明できる。 2. 与薬を安全かつ正確に実施するための方法を説明できる。 3. 筋肉内注射、採血の準備、実施、片づけの一連の手技を安全かつ正確に実施できる。 4. 点滴静脈内注射の実施手順と留意点を説明できる。また、輸液速度の調整ができる。 5. 診察・検査における看護師の役割について説明できる。 6. 処置における看護師の役割について説明できる。 7. 創傷管理、包帯法における基礎知識を理解し、安全・安楽に援助を実施できる。				
授業計画	回	時間	内容		方法
1	2	薬物療法の基礎的知識 与薬における看護師の役割 薬剤等の管理		講義	
2	2	経口及びその他の方法による与薬 (内服薬、パッカル錠、舌下錠、経皮・外用薬の投与、坐薬の投与)		講義	
3	2	経口及びその他の方法による与薬		演習	
4	2	注射の基礎知識(皮下注射、皮内注射、筋肉内注射、静脈内注射)		講義	
5	2	注射の実施法		講義	
6	2	点滴静脈内注射 輸液療法と看護		講義	
7	1	注射法（筋肉内注射、採血、点滴静脈内注射） 演習前オリエンテーション		講義	
8	4	注射法（皮下注射・筋肉内注射）		演習	
9	2	注射法（採血）、針刺し事故の防止・針刺し事故後の対応		演習	
10	2	点滴静脈内注射 輸液療法の実際		演習	
11	1	注射法（筋肉内注射、採血、点滴静脈内注射）振り返り		講義	
12	2	診察・検査における看護師の役割 （検体検査、生体検査）		講義	
13	2	処置における看護師の役割 創傷管理の基礎知識、創傷処置（創保護、包帯法）		講義	

1 4	2	薬物の管理 創傷処置（創保護、包帯法・三角巾固定含む）	演習
1 5	2	検査の介助 検体の取り扱い（尿・便・喀痰、尿比重測定含む） 放射線の被ばく防止策の実施	講義・演習
授業時間外の学習		・授業中に課題を提示するので決められた期日に提出する。 ・演習後は事後レポート、チェックリストを提出する。（詳細は演習時に説明）	
テキスト		任 和子 他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 任 和子 他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院	
参考文献		岡庭 豊 他 編：看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版，メディックメディア 吉田みつ子 他 編：実習で使える看護技術アドバンス，インターメディカ	
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法		・36.創傷処置(創洗浄、創保護、包帯法)、38.経口薬(バツカル錠、内服薬、舌下錠)、39.経皮・外用薬の投与、40.坐薬の投与、41.皮下注射、42.筋肉内注射、43.静脈路確保・点滴静脈内注射、44.点滴静脈内注射の管理、55.静脈血採血、60.感染性廃棄物の取り扱い、64.患者の誤認防止策の実施に関しては、演習中に評価表を使用し、自己評価と教員評価を行う。 ・45.薬剤等の管理(毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む)、53.検体(尿、血液等)の取り扱い、56.検査の介助、62.針刺し事故の防止・針刺し事故後の対応、66.放射線被ばく防止策の実施の技術に関しては、演習中に評価表を使用し、自己評価と他者評価(学生)を行う。	
成績評価の方法と基準		筆記試験 100 点 （ただし、授業や演習時の態度、課題提出の遅れ、レポートや課題成果状況によっては減点することもある。）	

授業科目	基礎看護学診療補助技術 2		担当 教員	氏名	久保 菜奈恵
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2025 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	看護は、看護が提供される場で看護の対象となる人々と実際に関わりながら看護実践を行うことが重要である。そのためには、基礎的な看護学の知識や技術を統合し、応用するプロセスを学び、看護技術を具現化していくことが求められる。看護を行う上で対象の状況をどのように把握し、看護援助の根拠や基盤を踏まえながら統合し実践へとつながるように、健康状態の経過からみた特徴と看護、主要な症状を示す対象者への看護、治療や処置を受ける患者の看護について担当教員の実務経験をもとに教授する。				
到達目標	1. 対象の健康状態の経過に基づき、それぞれの経過の特徴や対象者のニーズ、看護援助について理解できる。 2. 対象の症状をもとに、看護を実践するための根拠および思考のプロセス、具体的看護援助方法について理解できる。				
授業計画	回	時間	内容		方法
1	2	健康上のニーズをもつ対象者と家族への看護 ・ライフサイクルとニーズ ・家族の機能とニーズ ・生活と療養の場とニーズ			講義
2	2	健康状態の経過に基づく看護 ・健康の維持・増進を目指す看護 ・急性期における看護			講義 グループワーク
3	2	回復期における看護 ・慢性期における看護 健康状態の経過に基づく看護 ・終末期における看護			
4	2	主要な症状を示す対象者への看護 1. 呼吸に関する症状を示す対象者への看護 ・呼吸機能障害に関する症状のメカニズムとアセスメント ・呼吸機能障害に関するニーズ充足のための援助 (効果的な換気促進援助、酸素投与、酸素ボンベ)			講義
5	2	2. 循環に関する症状を示す対象者への看護 ・循環機能障害に関する症状のメカニズムとアセスメント ・循環機能障害に関するニーズ充足のための援助 (血液循環の促進、心負荷の軽減、急変対応：心電図・除細動器)			講義
6	2	呼吸・循環に関する症状を示す対象者への看護の実際 ・効果的な換気促進援助、酸素投与、酸素ボンベ ・ショック体位			演習
7	2	3. 栄養や代謝に関する症状を示す対象者への看護 ・栄養・代謝障害に関する症状のメカニズムとアセスメント ・栄養・代謝障害に関するニーズ充足のための援助 (食欲不振・過食時の看護、嚥下訓練、非経口栄養法)			講義
8	2	栄養・代謝に関する症状を示す対象者への看護の実際 ・経管栄養			演習
9	2	4. 排泄に関連する症状を示す対象者への看護 ・排泄障害に関する症状のメカニズムとアセスメント ・排泄障害に関するニーズ充足のための援助 (排泄機能障害を補う援助、二次的症状の予防、薬剤や医療処置を用いた援助：導尿・摘便・浣腸)			講義

1 0	4	排泄に関連する症状を示す対象者への看護の実際 ・導尿：一時的導尿・持続的導尿 ・浣腸 ・摘便	演習
1 1	2	5. 安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護 ・安全や生体防御機能のメカニズムとアセスメント ・安全や生体防御機能障害に関するニーズ充足のための援助 (安全を守るための援助、高体温・低体温の援助、 視覚・聴覚障害のある対象への援助)	講義
1 2	2	安全・生体防御機能障害、安楽の変調に対する看護の実際 ・罨法	演習
1 3	2	6. 安楽に関連する症状を示す対象者への看護 ・安楽に関する症状メカニズムとアセスメント ・安楽に関するニーズ充足に向けた看護援助 痛みのアセスメント、痛みに対する援助、リラクゼーション法 嘔気・嘔吐に対する援助	講義・演習
1 4	2	事例による看護実践の展開 医療機器を安全使用するための基礎的知識と看護	講義・演習
授業時間外の 学習		・授業中に課題を提示するので決められた期日に提出する。 ・演習後は事後レポート、チェックリストを提出する。(詳細は演習時に説明)	
テキスト		香春知永 他：系統別看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論，医学書院 任 和子 他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院	
参考文献		吉田みつ子 他 編：実習で使える看護技術アドバンス，インターメディカ 近藤一郎 他：看護がみえる vol.2 臨床看護技術，メディックメディア	
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法		食事援助技術の 5.経管栄養法による流動食の注入について、6.経鼻胃チューブの挿入、 排泄援助技術の 8.膀胱留置カテーテルの管理、9.導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入、 10.浣腸、11.摘便、 呼吸・循環を整える援助の 29.体温調節の援助、30.酸素吸入療法の実施、 安楽確保の技術の 70.安楽の促進・苦痛の緩和のためのケアについて、 演習時にチェックリストを用いて自己評価、他者(学生)評価を行う。	
成績評価の 方法と基準		筆記試験 100 点 (ただし、授業や演習時の態度、課題提出の遅れ、レポートや課題成果状況によっては 減点することもある。)	

授業科目	基礎看護学臨床援助技術		担当 教員	氏名	川島 已知
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2025 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	看護基礎教育において臨床判断力の向上が課題となっている。臨床判断は、患者情報、臨床的な知識、状況に関する情報を考慮し、認知的な熟考と直感的な過程によって、観察事項、観察された情報の推論、援助活動の決定を下すことであることから、臨床や模擬的な臨床状況での実践を通して発達すると言われている。本科目では、既習（基礎分野・専門基礎分野・専門分野）の知識・技術を統合し、対象の特徴を踏まえ、看護目標を持った看護技術が実践できるように実務経験を活かし教授する。 事例を提示し、グループワークを通して対象の状態に応じた看護目標を設定し、日常生活の援助計画を立案し、援助計画に沿った援助を実施できる能力を習得できるよう教授する。				
到達目標	1．対象の特徴を考え、看護目標を持ち、援助技術を組み立てることができる。 2．対象の状態を考慮した援助を実施することができる。 3．実践の中での気づきを援助に活かすことができる。 4．グループメンバーとしての役割を果たすことができる。 5．看護者としての自己のあり方について考えることができる。				
授業計画		内容			方法
回	時間				
1	2	ガイダンス 事例演習紹介（5 事例）			講義・演習
2	2	状況をふまえた技術の構築（事例 1）			演習
3	2	状況をふまえた技術練習（事例 1）			演習
4	2	状況をふまえた技術の構築（事例 2）			演習
5	2	状況をふまえた技術練習（事例 2）			演習
6	2	状況をふまえた技術の構築（事例 3）			演習
7	2	状況をふまえた技術練習（事例 3）			演習
8	2	状況をふまえた技術の構築（事例 4）			演習
9	2	状況をふまえた技術練習（事例 4）			演習
1 0	2	状況をふまえた技術の構築（事例 5）			演習
1 1	2	状況をふまえた技術練習（事例 5）			演習
1 2	2	技術テストオリエンテーション、状況をふまえた技術の構築			講義・演習
1 3	2	状況をふまえた技術練習			演習
1 4	2	状況をふまえた技術練習			演習

1 5	2	まとめ	講義・GW
授業時間外の 学習	授業に関する内容の予習と復習、演習課題の実施		
テキスト	茂野香おる 他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ，医学書院 任 和子他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 香春知永他：系統別看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論，医学書院 任 和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院		
参考文献	看護学教科書全般		
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法	環境調整技術の 1.快適な療養環境の整備、2.臥床患者のリネン交換、排泄援助技術の 7. 排泄援助(床上、ポータブルトイレ、オムツ等)、活動・休息援助技術の 15.移乗介助、16. 体位変換・保持、清潔・衣生活援助の 24.清拭、25.洗髪、感染予防技術の 58.必要な防護 具(手袋、ゴーグル、ガウン等)の選択・着脱、安楽確保の技術の 71.精神的安寧を保つた ためのケアについて、自己評価・他者(学生)評価を実施、さらに技術試験を実施して到達 の確認を行う。		
成績評価の 方法と基準	①課題レポート 100 点（別紙評価表による）、60 点以上を合格とする。 （ただし、授業や演習時の態度、課題提出の遅れ等によっては減点することもある。） ②技術試験は 100 点とし、60 点以上を合格とする。 科目の最終評価は、①課題レポート 50%、②技術試験 50%で算出する。		

授業科目	暮らしの理解	担当 教員	氏名	福田 敦子
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	専任教員
対象学生	2025 年度・1 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	本科目では「暮らす」ということがどういうことなのかを多角的に考え、暮らしのなかでの生活の困難さや人と人がつながって生きる事の大切さについて演習を通して学びを深められるよう教授する。また、環境が健康に与える影響についても演習を通して考えられるよう病院での実務経験を活かし教授する。			
到達目標	1. 暮らしを多方面から理解できる。 2. 地域で暮らしを営む生活者を理解できる。 3. 地域における人と人とのつながりについて考え、支え合うことの意義について理解できる。 4. 暮らしの基盤としての地域を理解できる。 5. 環境が健康に与える影響について考えを述べることができる。			
授業計画			内容	方法
回	時間			
1	2		オリエンテーション・人々の暮らしについて	講義
2	2		暮らしの基盤としての地域の理解 オリエンテーション：フィールドワーク（「身近な人の暮らし」「暮らす地域の特性」）について	講義
3	2		グループワークのオリエンテーション グループワーク① （フィールドワークのレポートを持ち寄り、「地域で健康的に暮らすための課題」「健康障害をもつ人が地域で暮らしつづけるための課題」について検討する）	演習
4	2		グループワーク②	演習
5	2		発表準備	演習
6	3		発表会「暮らしと健康」	演習
7	2		まとめ	講義
授業時間外の学習	夏季休暇中に「身近な人の暮らし」「暮らす地域の特性」についてフィールドワーク（インタビューを含む）を行い、レポートを作成する。			
テキスト	河原加代子 他：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論[1] 地域在宅看護の基盤，医学書院			
参考文献	講義中必要に応じ随時紹介する			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	課題レポート 40 点、グループワークの参加度 10 点、筆記試験 50 点、計 100 点で評価を行う。			

授業科目	成人看護学概論	担当 教員	氏名	岩丸 花奈
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	専任教員
対象学生	2025 年度・1 年生			
受講要件	なし			
授業概要	成人看護学が対象とする「成人」の特徴を身体的・心理的・社会的側面から理解させ、成人の健康状態や健康問題を最新の情報やデータを基に変動する社会生活から理解できるようにする。そして、多様な健康状態や健康問題に対応するための看護アプローチの基本的な考え方や方法を学ばせる。さらに、各健康レベルの対象と看護の概要について理解させ、後に続く方法論に繋がる思考となるようにする。臨床での経験を活かし、事例を用いて学生がイメージ化できるようにする。			
到達目標	1. 成人各期の身体的・心理的・社会的特徴および発達課題が理解できる。 2. 成人の生活スタイルと健康問題が理解できる。 3. 健康の保持増進と疾病予防のための対策が理解できる。 4. 成人の能力や生活背景を踏まえた看護が理解できる。 5. 職業に関する健康障害と看護が理解できる。 6. 感染症対策および成人のセクシュアリティに関する現代の問題が理解できる。 7. 成人を看護するときの基本的アプローチについて理解する。 8. 各健康レベルの特徴と看護が理解できる。			
授業計画	内容			方法
回	時間			
1	2	ガイダンス（科目の目標・学習内容など） 成人の概念、発達課題 成人各期（青年期・壮年期・向老期）の特徴		講義
2	2	成人の生活スタイルと健康問題		講義
3	2	健康に関する指標、生活と健康障害、職業と健康障害、 ストレスと健康障害、感染症の動向と問題 ほか		
4	2	健康の保持増進と疾病予防のための対策と看護		講義
5	2	基本的アプローチ		講義
6	2	大人の学習と看護、人間関係、集団学習、倫理的判断、危機理論、 ストレス・ストレスコーピング、セルフケア、エンパワーメント、 コンプライアンス、自己効力、家族への支援、家族・患者会による 支援 ほか		
7	2			
8	2	健康の保持・増進のためのアプローチの実際		演習
9	2			
1 0	2	健康レベル別看護の特徴・・・急性期の看護		講義
1 1	2	健康レベル別看護の特徴・・・周手術期の看護		講義
1 2	2	健康レベル別看護の特徴・・・回復期の看護		講義
1 3	2	健康レベル別看護の特徴・・・慢性期の看護		講義
1 4	2	健康レベル別看護の特徴・・・終末期の看護		講義
1 5	2	まとめ （国家試験問題に取り組み、振り返り）		講義

授業時間外の学習	・シラバスの内容に応じて事前に教科書や資料の準備をした上で授業に臨むこと。 ・授業中に個人及びグループワークを行うが、残ったものは自宅で行い指定された期限日までに提出する。グループ編成及び内容については別途指示する。 ・授業で説明した基本的アプローチの方法を使い、事例に合った看護を考える。
テキスト	小松浩子：系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔1〕成人看護学総論，医学書院 国民衛生の動向 2025/2026，厚生労働省統計協会
参考文献	授業中に必要に応じて指定する。
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	筆記試験 100 点で評価する。(60 点以上を合格とする。) ※授業や演習時の態度、課題提出状況等も評価に含める。

授業科目	老年看護学概論		担当教員	氏名	藤本 歩
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学年	2025 年度・1 年生			実務経験の有無	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	超高齢社会の中で生活する高齢者の全体像を理解するために老いるということはどういうことか、高齢者疑似体験や高齢者へのライフインタビューを通して個々の生きてきた生活背景や人生を知り、ライフサイクルの中で老年期をとらえ、高齢者の特徴と健康生活について学習を進める。また、高齢者の安全や権利擁護、倫理的課題等社会的背景を理解し、社会の中で求められている老年看護の役割を「高齢者」「家族」「生活環境」「ヘルスケアシステム」の 4 つの側面から学習を進める。本科目は、これから老年看護を学修する学生の礎となる重要な科目である。教員の実務経験を活かし臨地での場面を取り上げながら授業を進める。				
到達目標	1．老年期の特徴が理解できる。 2．高齢者の健康と生活を支える保健医療福祉政策が理解できる。 3．老年看護に携わる看護師の倫理的態度について理解できる。				
授業計画		内容			方法
回	時間				
1	2	老いるということ 老いをいきること 高齢者の特徴と理解			講義
2	2	高齢者の特徴と理解 ライフストーリー、ライフインタビュー 身体の高齢変化			講義
3	2	身体の高齢変化 (呼吸、循環、運動器、感覚器、消化器、腎臓、ホルモン) 【高齢者疑似体験】			演習
4	2	身体の高齢変化 (呼吸、循環、運動器、感覚器、消化器、腎臓、ホルモン) 【高齢者疑似体験】			演習
5	2	身体の高齢変化 高齢者のヘルスプロモーション 高齢者の特徴と理解			講義
6	2	高齢者をとりまく社会 超高齢社会と社会保障 高齢社会における保健医療福祉の動向			講義
7	2	老年看護の基本 老年看護の役割 老年看護における理論			
8	2	高齢者の生活機能を整える看護 生活・療養の場における看護			講義
9	2	「身近な地域で生活する高齢者の理解」			演習
1 0	2	「身近な地域で生活する高齢者の理解」			演習
1 1	2	「身近な地域で生活する高齢者の理解」			演習
1 2	2	高齢者のリスクマネジメント 高齢社会における権利擁護 高齢者と医療安全			講義・演習
1 3	2	高齢者と救命救急 高齢者の災害			講義

1 4	2	エンドオブライフケア 「生ききる」ことを支えるケア 高齢者の尊厳をまもるための支援	講義
1 5	2	エンドオブライフケア まとめ	講義
授業時間外の 学習		授業に関する内容の予習と復習 課題の実施	
テキスト		北川公子 他：系統看護学講座 専門分野 老年看護学，医学書院 鳥羽研二 他：系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論，医学書院	
参考文献		国民衛生の動向 2025/2026	
「看護師教育の 技術項目」の到達確認方法		該当なし	
成績評価の方法と基準		筆記試験 100 点満点で評価する。 60 点以上を合格とする。 受講態度、課題提出遅れなどで減点する場合がある。	

授業科目	小児看護学概論	担当 教員	氏名	松井 なつみ
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	専任教員
対象学生	2025 年度・1 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	小児看護とは何か考える上で対象を理解するために必要な知識を教授する。小児看護の対象は健康障害のある子どもだけでなくあらゆる健康レベルにある子どもとその家族である。子どもの成長発達の特徴を理解し、それらを学ぶ意義について考えられるようにする。また、子どもと家族を取り巻く社会について学習し、広い視野をもち対象を理解できるようにする。子どもの権利についても教授し、一人の人として子どもとどのように向き合うのか考えられる授業とする。小児看護の役割と課題についての理解を深め、小児看護とは何か考える基礎となるように実務経験を交え教授する。			
到達目標	1．小児看護の対象を理解する。 2．小児看護の変遷を知り、小児看護の理念・目標について理解できる。 3．小児看護における倫理と子どもの権利を守るための看護を理解できる。 4．子どもと家族を取り巻く環境を理解し、社会がどのように子どもや家族を保護し、対策を講じているかを統計的・行政的側面から理解できる。 5．小児看護の特徴と機能・役割について理解できる。 6．子どもの成長発達と評価の視点を理解できる。			
授業計画	内容			方法
回	時間			
1	2	小児看護の特徴と理念・小児看護の変遷・小児看護における倫理		講義
2	2	子どもと家族をとりまく環境・家族の特徴とアセスメント		講義
3	2	小児保健・児童虐待		講義
4	2	母子保健・予防接種・学校保健		講義
5	2	子どもの成長発達（身体的発達）		講義
6	2	子どもの成長発達（身体的発達）		講義
7	2	子どもの成長発達（心理社会的発達）・子どもの安全		講義
8	1	まとめ（子どもの理解）		講義・GW
授業時間外の 学習	チャイルドビジョンを実際に用い、活動する。 教科書の該当箇所を読み、疑問や分かりにくい所を明らかにして講義を受ける。 事前課題・授業終了後の課題に取り組み期日までに提出する。			
テキスト	奈良間美保 他：系統看護学講座 小児看護学 1 小児看護学概論・小児臨床看護総論，医学書院 丸 光恵 他：系統看護学講座 小児看護学 2 小児看護学各論，医学書院 東海林宏道 他監修：病気が見える 小児科，メディックメディア			
参考文献	筒井真優美：小児看護学，日総研 など			
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法	該当なし			
成績評価の 方法と基準	筆記試験 100 点で評価する。			

授業科目	母性看護学概論	担当 教員	氏名	平川 宣子
単位・時間数	1 単位・15 時間			
対象学生	2025 年度・1 年生		所属	専任教員
受講要件	なし		担当者実務経験	病院で看護師として勤務
授業概要	母性看護の基盤となるセクシャリティとリプロダクティブヘルス/ライツの概念を教授する。母性看護は、女性の一生を通じて考える必要があることを理解できるようにする。また、母性・父性の役割を考えさせ、母性のライフサイクル各期の特徴やそれらを取り巻く環境を理解し、対象に応じた看護を理解できるように実務経験を交え教授する。			
到達目標	1.母性とは何かを知り、母性看護の基盤となる概念（セクシャリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ）を理解できる。 2.ヒトの発生・性分化のメカニズムと性周期について説明できる。 3.母子保健統計に関する日本・世界の動向を理解できる。 4.母性看護における倫理的問題を理解できる。 5.母子の健康に関する法律・制度・支援施策について説明できる。 6.女性のライフサイクル各期における看護が理解できる。			
授業計画	内容			方法
回	時間			
1	2	母性看護の基盤となる概念		講義・ DVD視聴
2	2	母性看護の基盤となる概念		
3	2	母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 リプロダクティブヘルスケア		講義
4・5	4	母性看護の対象の理解		講義・ DVD視聴
6	2	女性のライフステージ各期における看護：思春期		講義・GW
7	2	女性のライフステージ各期における看護：成熟期		講義・GW
8	1	女性のライフステージ各期における看護：更年期・老年期		講義・GW
授業時間外の 学習	母性保健統計に関する課題 DVD視聴後の課題レポート			
テキスト	森 恵美 他：系統看護学講座 母性看護学 1 母性看護学概論，医学書院 小田清一他：国民衛生の動向 24/2025 厚生労働統計協会			
参考文献	谷津 裕子 他監修：看護がみえる vol.5 対象の理解 I，MEDIC MEDIA 小田清一他：国民衛生の動向，厚生労働統計協会 増田 暢他：国民の福祉と介護の動向，厚生労働統計協会 DVD 目で見える解剖と生理 Vol 13 生殖（47 分） DVD そして父になる 是枝裕和 2013（125 分）			
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法	該当なし			
成績評価の 方法と基準	終了試験 80 点、課題（母性看護に関する統計・レポート）20 点の計 100 点で評価する			

授業科目	精神保健看護学概論		担当 教員	氏名	鉦賀 千夏
単位・時間数	1 単位・15 時間			所属	専任教員
対象学生	2024 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	精神の健康の回復・維持・向上を目的とする精神看護および精神保健の観点から、心の健康問題の身近さや心の健康の重要性および精神の健康を維持するしくみや精神の危機について概説する。また、日本における精神保健医療福祉の歴史や法律・制度の変遷および日本が抱える課題を踏まえ、精神看護に携わる者としてのケアの前提や原則、理論について教授する。看護師経験および精神看護学領域担当として実習指導により得た知識・経験をもとに、実践に活かせる知識・技術の教授を行う。				
到達目標	1. 心の健康問題が誰にでも起こり得る身近なものであることを認識し、精神医療・看護における基本的人権と倫理問題を理解し、説明できる。 2. こころの構造と機能が説明でき、こころの健康概念を理解することができる。 3. 集団力動、精神健康を保つための機能（防衛機制、ストレスマネジメント等）について理解できる。 4. ライフサイクル各期の発達課題に応じた精神的危機と看護の役割が理解できる。 5. 精神保健・医療・福祉のこれまでのあゆみを理解することができ、精神保健・医療福祉における現状と課題について考えることができる。				
授業計画	内容				方法
回	時間				
1	2	ガイダンス 第1章 精神看護学で学ぶこと ・精神看護学とはなにか ・「心のケア」と現代社会 ・精神障害の体験と精神看護 ・精神看護の課題			講義
2	3	第2章 精神保健の考え方 ・精神の健康とは ・心身の健康に及ぼすストレスの影響 ・精神障害の捉え方			講義
3	2	第3章人間の心のはたらきと人格の形成 心のはたらき			講義
4	2	・精神力動理論（フロイト） ・精神症状を理解するための基礎知識 ・自我の構造と防衛機制			講義
5	2	・ライフサイクルと精神保健			講義
6	2	第4章 関係のなかの人間 ・システムとしての人間関係 ・人間と集団 ・全体としての家族			講義
7	2	第7章 社会のなかの精神障害 ・精神障害と法制度			講義
授業時間外の 学習	・シラバスの内容に応じて事前に教科書の内容を確認した上で授業に臨むこと。 ・ワークや事例は講義終了後、授業内容に合わせて課題提示する。 ・課題は指定された期限日までに提出する。				
テキスト	武井 麻子他：系統看護学講座 精神看護学Ⅰ 精神看護の基礎，医学書院 萱間真美，稲垣 中：精神看護学Ⅰ 精神保健・心の健康と地域包括ケア，南江堂				

参考文献	川野 雅資：精神看護学Ⅱ（精神臨床看護学），ヌーヴェルヒロカワ 森 千鶴：これからの精神看護学，ピラールプラス 平澤 久一：非言語的コミュニケーション UP 術，メディカ出版 水谷 緑：精神科ナースになったわけ，KADOKAWA（コミック本） 佐藤 秀峰：ブラックジャックによろしく，モーニング KC（コミック本）
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	筆記試験（45 分）100 点で評価する。 授業態度、課題の遅れ等は減点することがある。

授業科目	基礎看護学実習 1		担当教員	氏名	川島 己知																		
単位・時間数	1 単位・45 時間			所属	専任教員																		
対象学年	2025 年度・1 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務																		
受講要件	なし																						
授業概要	看護を行う上で、対象者の治療環境や療養環境を理解することは重要なことである。ここでは、既習内容と教員の看護師としての実務経験を基に患者の受診、療養環境を理解させ、入院が患者に及ぼす影響や患者のニーズとは何か考えさせ、看護援助の体験を通してその意味について臨地の状況に合わせ学習させる。全体を通して看護師としての姿勢について学習し、自己の倫理的配慮、態度を振り返り、看護に対する考えを強化する実習としたい。																						
到達目標	基礎看護学実習 1A 1. 看護活動の場である病院の役割や機能および患者の療養環境が理解できる。 2. 患者を支える看護師を中心とした医療従事者の役割・機能を理解できる。 基礎看護学実習 1B 1. 入院に伴う患者の気持ちを考え、患者を尊重した態度で接することができる。 2. 患者とより良い人間関係を成立させるために、患者および患者を取り巻く人々と効果的なコミュニケーションが図ることができる。 3. 全人的な視点の持ち方を理解するとともに、患者の未充足のニーズを見出し、必要な援助を考えることができる。 4. 安全・安楽・自立を踏まえ、患者のニーズを充足させるための援助を指導者の指導のもとで実施できる。 5. 対象に必要な看護を展開する過程を理解し、実践できる。																						
実習の概要	<table><tr><td>区分</td><td colspan="2">時間数</td><td>内容</td><td>実習 時期</td><td>実習 場所</td></tr><tr><td>A 病院の 理解</td><td rowspan="2">45 時 間</td><td>6 時間 (1 日) 実習のまとめ</td><td>1. 病院および看護の機能・役割 2. 看護師としての基本姿勢</td><td>1 年次 6 月 1 日</td><td>北九州 総合病 院</td></tr><tr><td>B 入院 患者の 理解</td><td>39 時間 ①臨地実習 35 時間 (7 時間×5 日) +②事例検討会 4 時間</td><td>1. 患者の療養環境の理解、快適な入院生活を送るために必要な環境の在り方 2. 自己のコミュニケーション傾向およびコミュニケーションが他者に与える影響 3. 入院に伴う患者の心理、未充足のニーズに対する看護</td><td>1 年次 1 月 5 日間</td><td>①北九州 総合病院 ②学内</td></tr></table> *その他詳細は実習要綱参照						区分	時間数		内容	実習 時期	実習 場所	A 病院の 理解	45 時 間	6 時間 (1 日) 実習のまとめ	1. 病院および看護の機能・役割 2. 看護師としての基本姿勢	1 年次 6 月 1 日	北九州 総合病 院	B 入院 患者の 理解	39 時間 ①臨地実習 35 時間 (7 時間×5 日) +②事例検討会 4 時間	1. 患者の療養環境の理解、快適な入院生活を送るために必要な環境の在り方 2. 自己のコミュニケーション傾向およびコミュニケーションが他者に与える影響 3. 入院に伴う患者の心理、未充足のニーズに対する看護	1 年次 1 月 5 日間	①北九州 総合病院 ②学内
区分	時間数		内容	実習 時期	実習 場所																		
A 病院の 理解	45 時 間	6 時間 (1 日) 実習のまとめ	1. 病院および看護の機能・役割 2. 看護師としての基本姿勢	1 年次 6 月 1 日	北九州 総合病 院																		
B 入院 患者の 理解		39 時間 ①臨地実習 35 時間 (7 時間×5 日) +②事例検討会 4 時間	1. 患者の療養環境の理解、快適な入院生活を送るために必要な環境の在り方 2. 自己のコミュニケーション傾向およびコミュニケーションが他者に与える影響 3. 入院に伴う患者の心理、未充足のニーズに対する看護	1 年次 1 月 5 日間	①北九州 総合病院 ②学内																		
授業時間外の学習	・実習前に事前学習を行う。詳細は事前学習作成時に説明する。事前学習は臨地で見直すことが求められるため、項目、内容ともに不備のないよう作成すること。 基礎看護学実習で 1A は病院の役割、院内の環境、各職種の役割と内容、見学場所の特徴について学習する。基本的に GW とするが、事前学習時間に終了できない場合は時間外を使い準備する。 基礎看護学実習 1B ではコミュニケーション、発達課題、療養環境、日常生活援助に関する内容について学習する。 ・実習までに、各自実習で行うバイタルサイン測定や不得意な援助の練習をすること。 ・まとめ発表および事例検討会の際は担当教員の指導の下、テーマの理解が深められるように資料を作成して臨むこと。																						

テキスト	茂野香おる他：系統看護学講座 基礎看護学 2 基礎看護技術Ⅰ，医学書院 任 和子他：系統看護学講座 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 香春知永他：系統看護学講座 基礎看護学 4 臨床看護総論，医学書院 任 和子他：基礎・臨床看護技術，医学書院
参考文献	各科目の授業で使用されたテキストや文献を使用する。
成績評価の方法と基準	実習要綱に準ずる。

2025 年度 S y l l a b u s

(2 年生)



西日本看護専門学校

授業科目	臨床栄養学	担当 教員	氏名	鈴木 達郎
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	産業医科大学病院
対象学生	2025 年度・2 年生			
受講要件	なし			
授業概要	各ライフステージや疾病の予防、健康障害時の適切な栄養素の摂取について学び、健康を保つための「食」と看護の関連について病院での実務経験をもとに講義する。また、治療食に対する理解を深められる授業とする。			
到達目標	1. ライフステージ各期における食事摂取基準の特徴と望ましい食生活を説明できる。 2. 健康と栄養の関連を理解し、疾病予防および疾患に応じた栄養・食事療法を理解し、各種病態に応じた栄養管理について説明できる。 3. 栄養スクリーニング・アセスメントの方法と判定基準を理解し、栄養管理および栄養食事指導と関連づけることができる。			
授業計画	内容			方法
回	時間			
1	2	食品成分と食事摂取基準		講義
2	2	人生各期における健康生活と栄養		講義
3	2	療養生活と栄養		講義
4	2	疾患別の栄養食事療法（消化器系疾患）		講義
5	2	疾患別の栄養食事療法（内分泌・代謝疾患、循環器疾患）		講義
6	3	栄養食事療法のための治療用食品の実際		演習・講義
7	2	看護にいかす栄養スクリーニング・アセスメントと栄養管理		講義
授業時間外の学習	テキストの重要用語や学習達成チェックを活用し、授業で学んだことを復習する。 課題提出 2 回（第 1 回配布 ⇒ 第 2 回提出、第 5 回配布 ⇒ 第 6 回提出）			
テキスト	關戸 啓子 編集：ナーシンググラフィカ 臨床栄養学，メディカ出版 日本糖尿病学会 編：糖尿病食事療法のための食品交換表 第 7 版，文光堂			
参考文献	必要に応じ随時指示する。			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			
成績評価の方法と基準	評価はテスト 80 点、課題提出 20 点、計 100 点で評価する。			

授業科目	診断治療論 4		担当 教員	氏名	①竹田貴雄 他 ②金澤耕介
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	①北九州総合病院 ②九州労災病院
対象学生	2025 年度・2 年生				
受講要件	なし			担当者実務経験	病院にて医師として勤務
授業概要	解剖生理学、病理学を基盤に、看護を学ぶために必要な代表的な疾患や治療、病期に伴う疾患の定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法、予後などについて講義する。診断治療論 4 では、麻酔、救急、輸血療法、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科について、オムニバス形式で授業を行う。いずれも、各分野の専門家としての実務経験をもとに講義を行う。				
到達目標	手術療法や急性病態を支える麻酔や救急、代表的な耳鼻科・眼科・皮膚科系疾患について、その定義、概念、病因、病態生理、臨床症状、検査・診断法、治療法及び予後を説明できる。また、輸血療法の考え方と方法を説明できる。				
区分	時間	内容			方法
A. 麻酔	2	麻酔総論 麻酔とは 局所麻酔・全身麻酔			講義
	2	麻酔各論 麻酔下の管理、麻酔の実際			講義
B. 救急	4	救急総論 救急医療とは 救急時の対応、救急患者の評価			講義
	4	主要病態に対する救急処置			講義
	4	BLS 演習			演習
C. 精神疾患	2	総論：偏見、脳機能障害と精神障害、精神疾患分類 診断：面接法、精神症状、検査			講義
	2	治療：薬物療法、心理療法、社会療法			講義
	2	各論 1：身体因性精神障害 (認知症、せん妄、薬剤性精神障害など)			講義
	2	各論 2：精神病性障害（統合失調症など）			講義
	2	各論 3：気分障害（うつ病、躁うつ病など）			講義
	2	各論 4：神経症性障害とストレス関連疾患 (神経症、PTSD、適応障害など)			講義
	2	各論 5：その他の疾患や社会的トピック (発達障害、自殺、薬物乱用、いじめ、不登校など)			講義
D. 形成外科	2	小児先天異常：①口唇裂・口蓋裂、② 手足の先天異常 母斑・血管腫・腫瘍 等 熱傷、褥瘡・難治性皮膚潰瘍			講義
授業時間外の 学習	各時間の予習復習を行う。				

テキスト	A：矢永勝彦 他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論，医学書院 B：山勢博彰 他：系統看護学講座 別巻 救急看護学，医学書院 佐々木勝教 監修：ゼロからわかる救急・急変看護，成美堂出版 C：武井麻子 他：系統看護学講座 精神看護学 1 精神看護学の基礎，医学書院 D：テキストなし
参考文献	各講師の配布資料
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	区分 B.救急において、救急救命処置技術の 48.一次救命処置(BLS)についてチェック表を用い、自己評価、他者評価（学生及び講師）を行う。
成績評価の方法と基準	各区分別に試験（100 点）を行う。（但し、D.形成外科を除く） 最終評価の割合は、A は 15%、B は 35%、C は 50%とする。 最終評価（各区分の得点を割合で乗じ、区分の合計点を算出）し、評価点とする。 最終評価点が不合格となった者は、不合格となった区分の再試験を行う。

授業科目	診断治療論 5		担当 教員	氏名	①藤本 英典 他 ②大森 俊 ③二見 拓磨
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	①北九州総合病院 ②小倉第一病院 ③西日本産業衛生会
対象学生	2025 年度・2 年生				
受講要件	なし			担当者実務経験	病院等にて医師として勤務
授業概要	解剖生理学、病理学を基盤に、看護を学ぶために必要な代表的な疾患や治療、ライフサイクルに伴う疾患の定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法、予後などについて講義する。診断治療論 5 では、産科、婦人科、精神科について、オムニバス形式で授業を行う。いずれも、各分野の専門家としての実務経験をもとに講義を行う。				
到達目標	代表的な産科・婦人科・精神疾患について、その定義、概念、病因、病態生理、臨床症状、検査・診断法、治療法及び予後を説明できる。				
区分	時間	内容			方法
A. 産科疾患	2	妊娠の異常 ハイリスク妊娠			講義
	2	妊娠の異常 妊娠期の感染症、妊娠疾患、 多胎妊娠、 妊娠持続期間の異常、異所妊娠（子宮外妊娠）			講義
	2	分娩の異常 産道の異常、娩出力の異常、胎児の異常による分娩障害 胎児の付属物の異常、胎児機能不全、分娩時の損傷			講義
	2	分娩の異常と看護 分娩 3 期および分娩直後の異常、分娩時異常出血 産科処置と産科手術新生児			講義
	2	新生児の異常と看護 新生児仮死、分娩外傷			講義
	2	産褥の異常と看護 子宮復古不全、産褥期の発熱、産褥血栓症、精神障害			講義
B. 婦人科疾患	3	婦人科疾患の症状とその病態生理 婦人科疾患の検査と治療・処置			講義
	3	婦人科疾患 ①生殖機能障害：月経異常、更年期障害 ②女性生殖器疾患：子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍 ③感染症：STD			講義
C. 皮膚疾患	2	皮膚疾患の症状とその病態生理 皮膚疾患の検査と治療・処置			講義
	2	皮膚疾患 湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹、疥癬、蜂窩織炎 褥瘡、腫瘍			講義
D. 眼科疾患	2	眼科疾患の症状とその病態生理 眼科疾患の検査と治療・処置			講義
	2	眼科疾患 白内障、緑内障、網膜剥離、網膜症、感染症			講義
E. 耳鼻科疾患	2	耳の疾患			講義
	2	鼻・口腔・咽頭喉頭の疾患			講義

授業時間外の学習	各時間の予習復習を行う。
テキスト	A：森恵美 他：系統看護学講座 母性看護学 2 母性看護学各論，医学書院 B：末岡浩 他：系統看護学講座 成人看護学 9 女性生殖器，医学書院 C：渡辺晋一 他：系統看護学講座 成人看護学 1 2 皮膚，医学書院 D：大鹿哲郎 他：系統看護学講座 成人看護学 1 3 眼，医学書院 E：小松浩子 他：系統看護学講座 成人看護学 1 4 耳鼻咽喉，医学書院
参考文献	各講師の配布資料
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	各区分別に試験（100 点）を行う。 最終評価の割合は、A は 40%、B・C・D・E は各 15%とする。 最終評価（各区分の得点を割合で乗じ、区分の合計点を算出）し、評価点とする。 最終評価点が不合格となった者は、不合格となった区分の再試験を行う。

授業科目	診断治療論 6		担当教員	氏名	石井雅宏 他
単位・時間数	1 単位・15 時間			所属	北九州総合病院
対象学生	2025 年度・2 年生			担当者実務経験	病院にて医師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	解剖生理学、病理学を基盤に、看護を学ぶために必要な代表的な疾患や治療、ライフサイクルに伴う疾患の定義・概念、原因、病態生理、臨床症状、検査法、治療法、予後などについて講義する。診断治療論 6 では、小児疾患、形成外科的治療について、オムニバス形式で授業を行う。いずれも、各分野の専門家としての実務経験をもとに講義を行う。				
到達目標	代表的な小児疾患、形成外科的治療について、その定義、概念、病因、病態生理、臨床症状、検査・診断法、治療法及び予後を説明できる。				
区分	時間	内容			方法
小児疾患	2	総論			講義
	2	先天異常・新生児の疾患			講義
	2	吸器疾患・循環器疾患			講義
	2	内分泌・代謝疾患 腎泌尿器疾患			講義
	2	感染症 消化器疾患			講義
	2	血液疾患 腫瘍			講義
	2	神経疾患 免疫・アレルギー疾患			講義
	1	まとめ			講義
授業時間外の学習	各時間の予習復習を行う。				
テキスト	奈良間美穂 他：系統看護学講座 小児看護学 2 小児看護学各論 ， 医学書院				
参考文献	各講師の配布資料				
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし				
成績評価の方法と基準	A.小児疾患の試験（100 点）を行う。				

授業科目	看護における病態理解		担当 教員	氏名	下川原 尚子
単位・時間数	1 単位・15 時間			所属	教員
対象学生	2025 年度・2 年生			担当者実務経験	病院にて助産師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	既習（解剖生理学、病理学、診断治療論、臨床検査、薬理学等）の知識をもとに、疾病とそれが及ぼす症候やメカニズム、検査、治療との関連、さらに、患者に及ぼす影響についての考え方を理解できるよう教授する。このことにより、看護実践の基盤となる対象の健康の状態および障害に関する観察力と判断力を高め、さまざまな状況にある人々の健康課題に対する看護実践の根拠が理解できるよう教員の実務経験を活かして講義を行う。				
到達目標	解剖生理学、病理学、診断治療論、臨床検査、薬理学等の知識をもとに、疾病とそれが及ぼす症候やメカニズム、検査、治療との関連、患者に及ぼす影響についての考え方を理解する。				
授業計画					
回	時間	内容			方法
1	2	ガイダンス（看護における病態理解とは） 疾患の病態と症候の特徴から検査、治療などの関連とそれらが患者に及ぼす影響 ①COPD・呼吸不全			講義 演習
2	2	疾患の病態と症候の特徴から検査、治療などの関連とそれらが患者に及ぼす影響 ①COPD・呼吸不全			講義 演習
3	2	①COPD・呼吸不全 まとめ ②③④のガイダンス			講義 演習
4	2	疾患の病態と症候の特徴から検査、治療などの関連とそれらが患者に及ぼす影響 ②虚血性心疾患・心不全			演習（GW）
5	2	疾患の病態と症候の特徴から検査、治療などの関連とそれらが患者に及ぼす影響 ③肝硬変			演習（GW）
6	2	疾患の病態と症候の特徴から検査、治療などの関連とそれらが患者に及ぼす影響 ④腎不全			演習（GW）
7	2	②虚血性心疾患・心不全 ③肝硬変 ④腎不全のまとめ発表			講義 演習
8	1	看護における病態理解のまとめ			講義
授業時間外の学習		疾患に関連する解剖生理について予習して講義に臨む。学習成果物を講義前に提出する。疾患の病態や検査・治療について自己学習を行い講義に臨み、講義後は復習を行う。			
テキスト		解剖生理学、病理学、診断治療論、臨床検査、薬理学等のテキスト（必ず持参すること）			
参考文献		必要に応じ随時指示する。			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法		該当なし			
成績評価の方法と基準		評価は、テスト 70 点、課題 30 点で行う。課題提出が遅れた場合は減点対象とする。			

授業科目	公衆衛生学	担当 教員	氏名	仲野 宏子
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	産業医科大学
対象学生	2025 年度・2 年生		担当者実務経験	病院・自治体にて勤務
受講要件	なし			
授業概要	わが国の保健統計指標の動向を踏まえ、疾病予防，健康保持増進，健康管理，産業保健，環境保健などに関する基礎的な知識の修得と集団レベルでの健康支援について理解を深める。			
到達目標	1，公衆衛生の概念，健康課題，疾病予防と健康管理を理解する。 2，環境の健康への影響，ライフステージや分野別の健康課題とそれに対する保健医療政策を理解する。 3．「個人」だけでなく、「集団」「社会」「環境」の視点からも健康問題をとらえる必要性を理解する。			
授業計画	内容			方法
回	時間			
1	4	第 1 章：公衆衛生の概論 第 2 章：公衆衛生の活動対象		講義
2	4	第 3 章：公衆衛生のしくみ 第 4 章：疫学・保健統計		講義
3	4	第 8 章 地域における公衆衛生の実践 第 8 章 地域における公衆衛生の実践	母子保健 成人保健	講義
4	4	第 8 章 地域における公衆衛生の実践 第 8 章 地域における公衆衛生の実践	高齢者保健 精神保健	講義
5	4	第 8 章 地域における公衆衛生の実践 第 6 章 感染症とその予防対策	障害者，難病保健	講義
6	4	第 9 章 学校と健康 第 10 章 職場と健康		講義
7	4	第 11 章 健康危機管理・災害保健 第 7 章 国際保健		講義
8	2	第 5 章 環境と健康		講義
授業時間外の学習	日頃からニュースや新聞等における公衆衛生分野に関する内容に興味・関心をもって情報に触れておくこと。 予習は，講義分野の教科書を読んで授業に臨むこと。講義後は，復習すること。			
テキスト	神馬 征峰ら：系統看護学講座-専 門基礎分野「公衆衛生学」，医学書院，2024 年			

参考文献	国民衛生の動向 2024/2025 厚生統計協会 公衆衛生がみえる 2024-2025 メディックメディア
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法	該当なし
成績評価の 方法と基準	試験は中間と終了時（各 100 点）を 2 回行う。 中間試験・終了試験の平均点を最終評価とし、60 点以上を合格とする。

授業科目	社会保障制度	担当教員	氏名	戸丸 純一	
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	とまるソーシャルステーション	
対象学生	2025 年度・2 年生			担当者実務経験	ソーシャルステーションにて 社会福祉士として勤務
受講要件	なし				
授業概要	社会保障・社会福祉に関する概要を説明し、具体的な社会保障や社会福祉の制度について教授します。また、人々が遭遇するであろう生活上の困難や危機に対応するために必要な社会保障制度を実際の経験をふまえて講義し、看護師をはじめとする多職種との連携についても教授します。				
到達目標	1. 社会保障・社会福祉の概要を理解する。 2. 社会保障や社会福祉制度の現状を理解する。				
授業計画	内容			方法	
回	時間				
1	4	講義の進め方、社会保障・社会福祉とは、社会保障の歴史		講義	
2	4	医療保障制度、(沿革、医療保険制度の種類、高額療養費制度など)		講義	
3	4	介護保障（高齢者医療と介護保険）		講義	
4	4	所得保障（年金・労災など）		講義	
5	4	所得保障（公的扶助制度など）		講義	
6	4	社会福祉の歴史と各分野とサービス（各福祉制度など）		講義	
7	4	連携について		講義	
8	2	援助技術、振り返り		講義・演習	
授業時間外の学習	毎時間の復習を必ず行っておいてください。				
テキスト	福田素生 他：社会保障・社会福祉，医学書院				
参考文献	日本医療ソーシャルワーク研究会 編集：医療福祉総合ガイドブック，医学書院				
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし				

成績評価の方法と基準	筆記試験（80％）、授業中の積極的な発言や質問、演習でのコミュニケーション力、理解度（20％）で評価する。
------------	---

授業科目	関係法規	担当 教員	氏名	仲野 宏子
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	産業医科大学
対象学生	2025 年度・2 年生		担当者実務経験	病院・自治体にて勤務
受講要件	なし			
授業概要	医療・看護・介護に関係する法と制度について学ぶ。特に、今後さらに推進されていく多職種連携の中で看護を実践していくにあたって理解しておきたい法令について、詳しく学ぶ。			
到達目標	将来，看護師として働く上で知っておくべき法律や制度について理解を深める。これまで学習した内容や、実習で体験した具体的な事柄と、法と制度がどのように関係しているか理解することができることを目指す。			
授業計画	内容			方法
回	時間			
1	4	1. チーム医療と法の構造 2. 医療提供の理念と医療安全 3. 人に関する法律 4. 物・場所に関する法律		講義
2	4	5. 支えるシステムに関する法律		講義
3	4	6. 政策に関わる基本的法等の関係法令 7. インフォームドコンセント		講義
4	3	8. 看護過誤 9. 法と生命倫理		講義
授業時間外の 学習	事前学習：講義分野の教科書を読んでおくこと。 事後学習：講義内容を再確認し，復習しておくこと。			
テキスト	平林勝政 他 編集，ナースンググラフィカ 健康支援と社会保障④ 看護をめぐる法と制度，メディカ出版 国民衛生の動向 2024/2025，厚生統計協会			
参考文献	勝又浜子 他 編集：看護法令要覧 令和 6 年版，日本看護協会出版会			
「看護師教育の 技術項目」の 到達確認方法	該当なし			
成績評価の 方法と基準	終了時試験で評価する。			

授業科目	基礎看護学 看護研究		担当 教員	氏名	尾倉 幸奈
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2025 年度・2 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	看護研究は、よりよい看護実践のための研究成果の活用や自己の看護の専門性の追求のために看護師にとって不可欠である。本講義は、看護研究の基礎知識を講義した後、研究論文に触れ、論文をクリティカルに読むこと、自己の看護実践を研究的な視点をもって検討すること、看護に関する問題意識を研究課題に変換し研究計画立案を行うことを課題としている。担当教員の研究実績も紹介しつつ、看護研究の意義と方法を理解し、多角的・論理的な思考を身につけることをめざす。また、3 年生の看護観発表会に参加し、発表者の姿勢や発表方法について学ぶ機会を持つ。				
到達目標	1. 看護研究論文がクリティークでき、看護実践における研究活動の意義が理解できる。 2. 自己の看護実践を振り返り、看護について検討しケースレポートにまとめることができる。 3. 自己の問題意識を研究課題として取り上げ、研究計画の概略を立案できる。 4. 看護研究の意義と研究方法が理解できる。				
授業計画	回	時間	内容		方法
1	2	ガイダンス 看護研究とは 看護研究の意義 看護研究の手順		講義	
2	2	研究計画書の作成 研究方法の種類と方法		講義	
3	2	研究論文のクリティーク		演習	
4	2	研究論文のクリティーク		演習（GW）	
5	2	研究論文のクリティーク発表会：多様な研究方法の理解		演習	
6	2	ケースレポート：計画		演習	
7	2	ケースレポート：文献検索		演習	
8	2	ケースレポート：レポート作成		演習	
9	2	ケースレポートの査読（発表者の選出） 研究テーマの選定・明確化、文献検索		演習（GW）	
1 0	2	ケースレポート発表会		演習	
1 1	2	研究計画の作成： 文献検索、研究方法の検討		演習（GW）	
1 2	2	研究計画の作成： 研究方法の検討、研究計画書作成		演習（GW）	
1 3	4	研究計画の作成方法（発表会）・研究計画の講評・まとめ		演習・講義	
1 4	2	3 年生看護観発表会の聴講		演習	
授業時間外の 学習	授業中に課題を提示するので決められた期日に提出する。 論文のクリティーク、ケースレポート等、授業時間の時間を使用して、計画的に取り組んでほしい。				

テキスト	坂下玲子 他：系統看護学講座 看護研究，医学書院
参考文献	黒田裕子：黒田裕子の看護研究 Step by Step，医学書院 南裕子 他：看護における研究，日本看護協会出版会
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	筆記試験（45分）30点、論文のクリティーク、ケースレポート、研究計画書 70点（提出遅れには減点あり） 計 100点で評価する。 なお、ケースレポート評価が 6 割（18 点）に満たない者は再レポートを課す。 剽窃（盗用）行為が明らかになった場合は不正行為とみなし、評価の対象としない。

授業科目	地域・在宅看護論概論		担当教員	氏名	①福田敦子 ②藤井直美
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	①専任教員
対象学生	2025 年度・2 年生				②湯川訪問看護ステーション
受講要件	なし			担当者実務経験	①病院にて看護師として勤務 ②訪問看護ステーションにて看護師として勤務
授業概要	地域・在宅看護の歴史や必要とされる社会的な背景を踏まえ、地域・在宅看護の概念と対象・活動の場や連携について講義のみでなく演習を通じて学生の理解が深まるような学習内容とする。				
到達目標	1.地域・在宅看護の対象について理解することができる。 2.地域・在宅看護の歴史や基盤となる概念について理解することができる。 3.地域における健康と暮らしを支える看護について理解することができる。 4.地域・在宅看護実践の場と連携について理解することができる。 5.地域・在宅看護に関わる制度とその活用について理解することができる。				
授業計画	内容				方法
回	時間				
1	2	授業オリエンテーション、地域・在宅看護を学ぶ目的			講義
2	2	地域・在宅看護の基盤となる概念、歴史			講義
3	2	地域・在宅看護論の対象			講義
4	2	地域包括ケアシステムについて			講義
5	2	看護が提供される多様な場の理解と連携			講義
6	2	地域・在宅看護を支える法・制度・社会資源			講義
7	2	介護保険について			講義
8	2	介護保険について			演習
9	2	訪問看護制度について			講義
1 0	2	地域・在宅看護における家族看護			講義
1 1	2	多職種連携・協働の意義と方法			講義
1 2	2	多職種連携・協働の意義と方法			演習
1 3	2	権利保障に関する法と施策			講義
1 4	2	在宅ケアの概要と実際			講義
1 5	2	多職種との連携の実際			講義
授業時間外の学習	講義に関する予習や復習を行う				
テキスト	河原加代子 他：系統看護学講座 地域・在宅看護論 1， 医学書院				

参考文献	必用に応じて講義内で紹介する。
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	筆記試験（45 分）100 点で評価する。

授業科目	地域・在宅看護論援助技術		担当 教員	氏名	福田 敦子
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2025 年度・2 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	地域・在宅で暮らす人々に必要な看護の基本について講義内容をもとに視聴覚教材を用いて理解を深める教授を行う。在宅看護では療養者・家族の多様な価値観や思いを尊重しながら生活をサポートすることを実感できるようグループ間の意見交換の機会を取り入れ学習をサポートしていく。また、担当者の訪問看護ステーションでの実務経験をもとに、学生が臨床場面をイメージしやすい講義・演習とする				
到達目標	1.地域・在宅看護に必要な基本技術について理解することができる。 2.地域・在宅看護の介入時期に応じた看護と継続性について理解できる。				
授業計画	内容				方法
回	時間				
1	2	オリエンテーション、地域・在宅看護に必要な技術の特徴			講義
2	2	地域・在宅での健康の保持増進・疾病予防に関する看護			講義
3	2	治療の場から在宅への移行期への看護			講義
4	2	地域・在宅看護を行う上での環境のアセスメント			講義
5	2	地域・在宅看護を行う上で生活行動のアセスメント①			演習
6	2	地域・在宅看護を行う上で生活行動のアセスメント②			講義
7	2	在宅療養における医療機器管理と看護（HOT・人工呼吸器）			講義
8	2	在宅療養における栄養や排泄に関する管理と看護 （消化器・尿路：ストーマ・腹膜透析・膀胱留置カテーテル管理、経管栄養・中心静脈栄養）			講義
9	2				
1 0	2	在宅療養における褥瘡管理と看護			講義
1 1	2	地域・在宅看護における安全について （感染予防・医療事故予防・災害時の備えと対応）			講義
1 2	2	在宅療養における終末期の管理と看護			講義
1 3	2	在宅における看護用具の工夫			演習
1 4	2	在宅における看護用具の工夫			発表
1 5	2	地域・在宅看護における継続看護の意義			講義

業時間外の 学習	講義に対する予習や復習を行う
テキスト	河原加代子 他：系統看護学講座 地域・在宅看護論 2， 医学書院
参考文献	随時配布資料で紹介する。
「看護師教育 の技術項目」の 到達確認方法	該当なし
成績評価の 方法と基準	筆記試験（45 分） 90 点、グループワークの参加度 10 点、計 100 点で評価する。

授業科目	地域・在宅看護論 [対象に応じた看護]	担当 教員	氏名	福田 敦子
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	専任教員
対象学生	2025 年度・2 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	地域・在宅看護の対象は、乳幼児から高齢者までのすべての世代やあらゆる健康状態の人々がその対象となる。そのため、学生に既習学習内容の各領域の知識に基づき地域・在宅で暮らす対象者の特徴を踏まえた看護を主に演習を通して、理解が深められるよう教授する。			
到達目標	1. 地域で暮らす、在宅で療養する対象の状況に応じた生活を送るために必要な社会保障について理解できる。 2. さまざまな状態にある対象がその人らしい暮らしや、QOL を維持・向上するための社会資源の活用と看護について考えることができる。			
授業計画	内容			方法
回	時間			
1	2	事例提示・演習のオリエンテーション 1. 障害を持ちながら生活する人の在宅看護 ・精神疾患がある在宅療養者への看護 ・移行支援・自立支援と QOL の維持向上 ・社会資源の活用・社会復帰 2. 活動低下及び疾病再発予防 ・機能障害の日常生活への影響・自立支援と QOL の維持・向上 ・疾病の悪化防止 ・生活環境のアセスメント ・社会資源の活用と調整 3. 医療的ケアが必要な子どもと家族への支援 ・在宅療養を開始する重症心身障害児 ・健康管理と成長発達を促す継続的な支援 ・権利擁護・QOL の維持・向上 ・障害児支援（特別支援教育） 4. 人生の終末を迎える人の在宅看護 ・退院支援・退院調整・退院時訪問 意思決定支援 ・意思決定支援 ・急性増悪の早期発見・対応		講義
3	3	事例検討		グループワーク
4	2			
5	2			
6	2	事例発表会		演習
7	2			
8	2	まとめ		講義
授業時間外の 学習	各領域での既習学習内容の復習			

テキスト	河原加代子 他：系統看護学講座 地域・在宅看護論 2， 医学書院
参考文献	必要に応じて講義内で紹介する
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	グループワーク（参加度・成果物等）10 点、発表会（参加度・態度等）10 点、個人レポート（内容、提出期限等）80 点（別紙評価表を用いる）、計 100 点で評価する。

授業科目	成人看護学症状別看護	担当 教員	氏名	東本七重
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	専任教員
対象学生	2025 年度・2 年生			
受講要件	なし			
授業概要	人は健康に問題が起こると、そのことを本人に知らせる機能を持っているが、時には本人も自覚のないものもある。これらの症状は体から発せられる異常のサインとして、人々が生きていくためには重要な意味を持ち、対象者の生活に悪影響を及ぼすこともある。また、これらの症状は複数の疾患につながる要素でもある。ここでは、病態から派生する症状の発生機序を理解し、症状の観察とそれらが示す病理的状態のアセスメントについて学ぶ。また、症状の緩和や不快を取り除くための看護について学習する。教授にあたっては、病院での勤務経験を活かして教授する。			
到達目標	1．症状が起こる原因や発生機序が理解できる。 2．症状が起こるメカニズムから必要な観察項目を抽出できる。 3．関連する症状から起こりうる疾患や病理的状態を抽出することができる。 4．対象者の症状とそのアセスメントに基づき、必要な看護を判断・理解できる。			
授業計画	内容			方法
回	時間			
1	2	1．ガイダンス 2．意識障害とその看護		講義
2	2	1．ショックとその看護		講義
3	2	1．各班で課題作成 症状のメカニズム、病態、観察項目、アセスメントの視点、特徴的な看護について関連図と資料作成を行う。 ・呼吸困難　・胸痛　・不整脈　・浮腫　・口渇/脱水 ・腹痛/嘔吐　・吐下血　・下痢/便秘　・食欲不振　・貧血 ・痙攣　・頭痛　・めまい ・発疹/掻痒感　・言語障害　・視覚/聴覚障害		個人ワーク グループワーク
4	2			
5	2	1．発表会		演習
6	2			
7	2	1．リフレクション		講義 グループワーク
8	1	1．症状と看護（まとめ）		講義
授業時間外の 学習	・シラバスの内容に応じて事前に教科書や資料の準備をした上で授業に臨むこと。 ・授業中に個人及びグループワークを行うが、残ったものは自宅で行い指定された期限日までに提出する。 ・3回目以降のグループ編成及び内容については別途指示する。			

テキスト	香春知永 他：系統別看護学講座 基礎看護学[4] 臨床看護総論，医学書院 山勢博彰：系統看護学講座 別巻 救急看護学，医学書院 佐々木勝教監修：ゼロからわかる 救急・急変看護，成美堂出版 川村雅文：系統看護学講座 成人看護学②呼吸器，医学書院 吉田俊子：系統看護学講座 成人看護学③循環器，医学書院 松田明子：系統看護学講座 成人看護学⑤消化器，医学書院 竹村信彦：系統看護学講座 成人看護学⑦脳・神経，医学書院
参考文献	必要時は授業中に提示する
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	①課題、演習：50点、②筆記試験 50点（45分）計 100点で評価する。 ①課題の評価に関しては別途評価表を用いて評価する。 授業態度、グループ学習への参加状況、課題提出状況を含めて評価する。

授業科目	成人看護学機能障害別看護 1	担 当 教 員	氏名	岩丸 花奈
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	専任教員
対象学生	2025 年度・2 年生		担当者実務経験	病院の看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	成人期にある対象は、年齢や生活背景により様々な疾患を引き起こし、その症状や変化は急激に起こることがある。そのため、原因検索に時間を要すると生命の危険が生じる可能性があり、原因検索に必要な検査等に伴う看護とともに症状の安定を図る看護が必要となる。ここでは器官系統別に疾患と関係づけながら疾患の成り立ちから検査治療、看護までを考える方策を学習する。症状別看護の既習学習を使用しながら、疾患が対象者の生活にどのような影響を及ぼすか考えながら学習できるよう、臨床経験を活かしながら教授する。			
到達目標	1．主要臓器の働きを理解し、機能の障害もしくは消失時の身体的変化が理解できる。 2．1 を基に発生する症状から現在の身体状況をアセスメントできる。 3．2 を基に機能障害時の観察項目とフィジカルイグザミネーションの選択ができる。 4．疾患の検査・治療の内容及び対象者に及ぼす影響について理解できる。 5．疾患の検査・治療の結果から、成人期の生活背景を考え、必要な看護が判断できる。			
授業計画			内容	方法
回	時間			
1	1		ガイダンス	講義
2	2		呼吸器疾患：肺炎（炎症性疾患）	講義
3	2		呼吸器疾患：A R D S	講義
4	2		循環器疾患：心臓（冠動脈、不整脈）血管系疾患	講義
5	2		消化管疾患：潰瘍性疾患	講義
6	2		消化管疾患：上部消化管がん	講義
7	2		神経系疾患：脳	講義
8	2		その他（外傷） まとめ	講義
授業時間外の学習	・シラバスの内容に応じて担当事例に必要な資料の準備をした上で授業に臨む。 ・事前課題は授業前までに作成する。			
テキスト	奈良信雄・和田隆志 編：系統看護学講座 別巻 臨床検査，医学書院 香春知永 他：系統別看護学講座 基礎看護学[4] 臨床看護総論，医学書院 佐々木勝教監修：ゼロからわかる 救急・急変看護，成美堂出版 川村雅文：系統看護学講座 成人看護学[2]呼吸器，医学書院 吉田俊子：系統看護学講座 成人看護学[3]循環器，医学書院 松田明子：系統看護学講座 成人看護学[5]消化器，医学書院 熊谷たまき他：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント，メディックメディア			

参考文献	必要に応じて授業中に提示する。
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	筆記試験 100 点で評価する。(60 点以上を合格とする。) ※授業時の態度、課題提出状況等も評価に含める。

授業科目	成人看護学機能障害別看護 2		担当 教 員	氏名	中山 仁美
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2025 年度・2 年生				
受講要件	なし				
授業概要	成人看護学機能別看護 1 と同様に、症状別看護などの既習学習を使用し、各機能障害の事例の発生機序、原因のメカニズム、検査・治療を含めた症状についてその観察内容を理解した上で、必要な看護を抽出できることを目指す。この科目では、学生が機能障害別看護の考え方が習得できるように授業を進める。また、機能障害や検査・治療が対象の生活にどのような影響を与えるかを考えることができるよう臨床経験を活かし教授する。				
到達目標	1．主要臓器の働きを理解し、機能の障害もしくは消失時の身体的変化が理解できる。 2．1 を基に発生する症状から現在の身体状況をアセスメントできる。 3．2 を基に機能障害時の観察項目とフィジカルイグザミネーションの選択ができる。 4．疾患の検査・治療の内容及び対象者に及ぼす影響について理解できる。 5．疾患の検査・治療の結果から、成人期の生活背景を考え、必要な看護が判断できる。				
授業計画		内容			方法
回	時間				
1	2	1．ガイダンス 講義 2．内分泌/代謝（糖尿病） 個人ワーク （各事例の発生機序、原因、症状、治療・検査、看護について）			講義・演習
2	2	内分泌/代謝（糖尿病） グループワーク・講義			演習・講義
3	2	内分泌/代謝（バセドウ病） 個人ワーク			演習
4	2	内分泌/代謝（バセドウ病） グループワーク・講義			演習・講義
5	2	内分泌/代謝（膵炎） 個人ワーク			演習
6	2	内分泌/代謝（膵炎） グループワーク・講義			演習・講義
7	2	感覚器（耳鼻咽喉頭・眼） 個人ワーク			講義
8	2	感覚器（耳鼻咽喉頭・眼） 講義			講義
9	2	運動器（脊髄損傷） 個人ワーク			演習
1 0	2	運動器（脊髄損傷） グループワーク・講義			演習・講義
1 1	2	自己免疫（全身性エリテマトーデス） 個人ワーク			演習
1 2	2	自己免疫（全身性エリテマトーデス） グループワーク・講義			演習・講義

1 3	2	その他（熱傷） 個人ワーク	演習
1 4	2	その他（熱傷） グループワーク・講義	演習・講義
1 5	2	まとめ	講義
授業時間外の学習		・シラバスの内容に応じて、各事例に必要な資料の準備をした上で授業に臨む。 ・授業中に個人ワークを行うが、残ったものは自宅で行い指定された期限までに提出する。	
テキスト		奈良信雄・和田隆志 編：系統看護学講座 別巻 臨床検査，医学書院 山勢博彰：系統看護学講座 別巻 救急看護学，医学書院 佐々木勝教監修：ゼロからわかる 救急・急変看護，成美堂出版 小松浩子：系統看護学講座 成人看護学①成人看護学総論，医学書院 川村雅文：系統看護学講座 成人看護学②呼吸器，医学書院 吉田俊子：系統看護学講座 成人看護学③循環器，医学書院 南川雅子：系統看護学講座 成人看護学⑤消化器，医学書院 吉岡成人：系統看護学講座 成人看護学⑥内分泌・代謝，医学書院 井手隆文：系統看護学講座 専門分野 成人看護学⑦脳・神経，医学書院 大東貴志：系統看護学講座 成人看護学⑧腎・泌尿器，医学書院 田中栄：系統看護学講座 成人看護学⑩運動器，医学書院 岩田健太郎：系統看護学講座 成人看護学⑪アレルギー 膠原病 感染症，医学書院 多田弥生：系統看護学講座 成人看護学⑫皮膚，医学書院 大鹿哲郎：系統看護学講座 成人看護学⑬眼，医学書院 小島博巳：系統看護学講座 成人看護学⑭耳鼻咽喉，医学書院 熊谷たまき他：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント，メディックメディア	
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法		該当なし	
参考文献		必要に応じて授業中に提示する	
成績評価の方法と基準		① 課題提出 30 点（個人ワーク 1 事例 5 点とし計 6 回分） ② 筆記試験 70 点（45 分）、計 100 点で評価する。 授業態度、グループ学習への参加状況、課題提出状況等を含めて評価する。	

授業科目	成人看護学経過別看護	担当 教 員	氏名	岩丸 花奈	
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	専任教員	
対象学生	2025 年度・2 年生				
受講要件	なし				
授業概要	成人期にある対象は、その身体的、精神的、社会的特徴から成人期に特有な、また共通してみられる健康状態や健康問題がある。それらは流動的かつ継続的であるため、長期的に疾患を捉え、疾患の連鎖を予防する事が必要となる。この科目では、各健康レベルにおいて特徴的な経過をたどる疾患（事例）をもとに看護理論や症状別看護、機能障害別看護での既習学習をもとに健康レベルに応じた看護を理解することを目指す。各健康レベルの看護については、担当者の急性期病院での経験を活かして教授する。				
到達目標	1．健康レベル（急性期、慢性期、回復・維持期）における発達段階が与える影響と身体的・精神的・社会的特徴が理解できる。 2．健康レベルに伴う疾患の病態生理、症状、観察が理解できる。 3．健康レベルに応じた看護実践に必要な看護理論の活用方法が理解できる。 4．1～3の内容を踏まえ、対象者の状態、状況に応じた看護援助の選択ができる。				
授業計画	内容			方法	
回	時間				
1	2	ガイダンス			講義
2	2	事例に展開に必要な資料作成			個人ワーク
3	2	事例検討資料作成 1 事例を急性期から慢性期までの経過を通して、疾患が身体的、精神的、社会的側面の変化と及ぼす影響について考える。 ・喘息 ・心筋梗塞 ・大腸がん ・腎不全 ・クモ膜下出血 ・白血病			グループワーク
4	2				
5	2				
6	2				
7	2	発表準備			グループワーク
8	2	事例発表 1) 喘息の疾患、治療と看護 2) 心筋梗塞の疾患、治療と看護 3) 大腸がんの疾患、治療と看護 4) 腎不全の疾患、治療と看護 5) クモ膜下出血（脳動脈瘤破裂）の疾患、治療と看護 6) 白血病の疾患、治療と看護			演習
9	2				
1 0	2				
1 1	2				
1 2	2				
1 3	2				
1 4	2	各健康レベルと看護			演習
1 5	2	各健康レベルと看護			講義

授業時間外の学習	・シラバスの内容に応じて担当事例に必要な資料の準備をした上で授業に臨む。 ・授業中に個人及びグループワークを行うが、残ったものは自宅で行い指定された期限日までに提出する。 ・グループ編成及び内容については別途指示する。
テキスト	香春知永 他：系統別看護学講座 基礎看護学[4] 臨床看護総論，医学書院 佐々木勝教監修：ゼロからわかる 救急・急変看護，成美堂出版 川村雅文：系統看護学講座 成人看護学[2]呼吸器，医学書院 吉田俊子：系統看護学講座 成人看護学[3]循環器，医学書院 飯野京子：系統看護学講座 成人看護学[4]血液・造血器，医学書院 松田明子：系統看護学講座 成人看護学[5]消化器，医学書院 竹村信彦：系統看護学講座 成人看護学[7]脳・神経，医学書院 今井亜矢子：系統看護学講座 成人看護学[8]腎・泌尿器，医学書院 熊谷たまき他：看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント，メディックメディア
参考文献	必要に応じて授業中に提示する。
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	①課題及び演習への参加度 60 点、②筆記試験 40 点（45 分）、計 100 点で評価する。 ①は別途評価表を用い、授業態度、グループ学習への参加状況、課題提出状況を含めて評価する。

授業科目	成人看護学技術	担当 教 員	氏名	東本七重
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	専任教員
対象学生	2025 年度・2 年生			
受講要件	なし			
授業概要	医療の進歩に伴い、多くの医療機器が使用されるようになり、これらの管理や取 り扱いは患者の状態を管理するうえで重要なものとなっている。さらに、成人期 の対象に提供される診療技術は、生命の危機に直結することも多く、看護師に は、診療の場面においてその役割、責任を認識し、正確かつ確実な技術を提供す ること、治療過程や身体状況を理解することが求められる。この科目では、治療 を円滑に行うために、また症状安定や緊急時に必要な援助技術を選択・実践でき るようになることを目指す。 また、生活の再構築を行うためには、対象者が自身の生活を見直し、必要な内容を 対象の生活に即して創造する力が必要となる。成人学習者として対象の能力を引き 出せるように既習の基本的アプローチ方法を駆使して、対象者の生活構築を支援す る指導法について理解できるよう、実務経験を活かし教授する。			
到達目標	1．成人の対象者に必要な看護技術の基本知識が理解できる。 2．必要な検査・処置の安全・安楽な実施ができる。 3．必要な検査・処置を通して、状態安定のための観察ができる。 4．症状安定のために必要な技術の選択基準が理解できる。 5．対象者の生活状況を踏まえた指導の視点が理解できる。 6．セルフマネジメントの必要性和継続支援のための看護が理解できる。			
授業計画	内容			方法
回	時間			
1	2	1．ガイダンス 2．症状安定のための援助技術に必要な知識 1) 人工呼吸器 2) 心電図・不整脈		講義
2	2	症状安定のための援助技術① 1) <u>人工呼吸器</u>		演習
3	2	症状安定のための援助技術② <u>事前学習①</u> 1) <u>血糖測定</u> 2) <u>吸引</u> 3) <u>体位ドレナージ</u> 4) <u>スクイーピング</u> 5) <u>ネブライザー</u>		演習
4	2	症状安定のための援助技術④ <u>事前学習③</u> 1) <u>創傷処置・止血法</u> 2) <u>ドレーン</u> 3) <u>ストーマ管理</u>		演習
5	3	症状安定のための援助技術③ <u>事前学習②</u> 1) <u>BLS</u> 2) <u>気管内挿管の介助</u> 3) <u>心電図・救急カート</u>		演習
6	2	緊急時の対応(個人ワーク)		演習
7	4	緊急時の対応		演習
8	3	症状安定のための援助技術⑤ 1) <u>輸液ポンプ・シリンジポンプ</u>		演習
9	2	事例に応じた食事指導技術 1．事例紹介 1) ストーマ造設 2) 糖尿病 3) 透析		演習

1 0	2	2. 指導書の作成	演習
1 1	2	3. 発表と意見交換	演習
1 2	2	4. 発表と意見交換	演習
授業時間外の学習		・シラバスの内容に応じて事前に教科書を読み、必要な資料の準備をした上で授業に臨む。 ・事前課題は期日までに提出する。 ・演習の時は事前に手順を確認し、手順を覚えて演習に臨む。 ・グループ編成及び内容については別途指示する。	
テキスト		野崎真奈美著：成人看護学 成人看護学技術，南江堂 山勢博彰著：系統看護学講座 別巻 救急看護学，医学書院 佐々木勝教監修：ゼロからわかる 救急・急変看護，成美堂出版 川村雅文著：系統看護学講座 成人看護学②呼吸器，医学書院 吉田俊子著：系統看護学講座 成人看護学③循環器，医学書院 松田明子著：系統看護学講座 成人看護学⑤消化器，医学書院 吉岡成人著：系統看護学講座 成人看護学⑥内分泌・代謝，医学書院 竹村信彦著：系統看護学講座 成人看護学⑦脳・神経，医学書院 今井亜矢子著：系統看護学講座 成人看護学⑧腎・泌尿器，医学書院 日本糖尿病学会 編：糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版，文光堂 任和子/井川順子 編：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術第3版，医学書院	
参考文献		必要に応じて授業中に提示する。	
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法		○下記の技術に関しては、演習時に評価表を使用して自己と他学生にて評価する。 12：ストーマ管理 31：ネブライザーを用いた気道内加湿 32：口腔内・鼻腔内吸引 33：気管内吸引 34：体位ドレナージ 36：創傷処置（創洗浄） 37：ドレーン類の挿入部の処置 47：緊急時の応援要請 48：一時救命処置（BLS） 49：止血法の実際 68：医療機器（輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニター、人工呼吸器）の操作・管理 ○下記の技術に関しては、演習時に評価表を使用して自己と教員にて評価する。 4：食事指導 54：簡易的血糖測定	
成績評価の方法と基準		① 課題 50 点 提出遅れは減点とする （課題提出 50 点：事前学習①5 点②5 点③5 点、透析 5 点、緊急時の対応 15 点、技術指導 15 点） ② 筆記試験 50 点（45 分） 計 100 点で評価する	

授業科目	老年看護学援助論 1		担当教員	氏名	藤本 歩
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学年	2025 年度・2 年生			実務経験の有無	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	高齢者の生活を支えるために必要な知識、技術、態度を習得し看護援助が実施できるように教授する。 認知症高齢者の安心できる生活、意思を支えるために、認知症の特徴的な症状や言動から思いを引き出し必要な看護について教授する。特に人として尊重した態度や権利擁護といった倫理的課題に対し授業を通して考えを深め行動できるように進める。又レクリエーションを実際に企画、実践して介護・看護が必要な高齢者の適切なレクリエーションを理解できるよう担当教員の実務経験を交えて教授する。				
到達目標	1) 高齢者の日常生活を支える看護援助が実施できる。 2) 高齢者の特徴的な症状を理解し必要な看護援助が理解できる。 3) 認知症高齢者の生活を支える看護が理解できる。				
授業計画			内容		方法
回	時間				
1	2	高齢者の生活機能を整える看護 ・高齢者の状態・状況に応じたコミュニケーション			講義
2	2	高齢者の生活機能を整える看護 ・活動と休息を整える看護 転倒予防、廃用症候群予防 生活リズムを整える看護			講義
3	2	高齢者の生活機能を整える看護 ・食生活を支える看護 ・排泄を支える看護			講義
4	2	高齢者の生活機能を整える看護 ・排泄を支える看護			講義
5	2	高齢者の生活機能を整える看護 ・清潔を整える看護			講義
6	2	高齢者の生活機能を整える看護 ・排泄を支える看護 【床上、ポータブル、オムツ交換、陰部洗浄】			演習
7	2	高齢者の生活機能を整える看護 ・清潔を整える看護 【点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換、整容】			演習
8	2	健康逸脱からの回復を促す看護 症候のアセスメントと看護 1 発熱 2 痛み 3 倦怠感			講義
9	2	症候のアセスメントと看護 4 脱水 5 嘔吐 6 浮腫			講義
10	2	症候のアセスメントと看護 7 掻痒（かゆみ） 8 褥瘡・スキンケア			講義
11	2	褥瘡予防、褥瘡ケア 【体圧測定 エアーマット体験 褥瘡処置（洗浄、ドレッシング剤）】			演習

1 2	2	認知機能障害のある高齢者の看護 うつ せん妄 認知症	講義
1 3	2	認知症の看護 レクリエーション企画	講義
1 4	4	レクリエーションの発表	講堂で演習
授業時間外の 学習		授業に関する内容の予習と復習 演習課題の実施	
テキスト		北川公子 他:系統看護学講座 専門分野 老年看護学, 医学書院 鳥羽研二 他:系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論, 医学書院 任 和子 他:基礎・臨床看護技術 第3版, 医学書院	
参考文献		亀井智子 編集:根拠と事故防止からみた老年看護技術, 医学書院	
「看護師教育の 技術項目」の到達確認方法		排泄援助技術の 7 排泄援助（床上、ポータブルトイレ、オムツ等）、清潔・衣生活援助技術の 23 陰部の保清、27 点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換、創傷管理技術の 35 褥瘡予防ケア、感染予防技術の 57 スタンダード・プリコーション（標準予防策）に基づく手洗い、58 必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等）の選択、着脱について、演習時に評価表を用いて自己評価・他者（学生）評価を行う。	
成績評価の方法と基準		筆記試験 90 点 レクリエーション 10 点 合計 100 点満点で評価する。 60 点未満は不合格となる。 受講態度、課題提出遅れなどで減点する場合がある。	

授業科目	老年看護学援助論 2		担当教員	氏名	藤本 歩
単位・時間数	1 単位・15 時間			所属	専任教員
対象学年	2025 年度・2 年生				
受講要件	なし				
授業概要	健康障害をもつ高齢者は、複数の疾患を有していることや言語障害、認知機能の低下などの特徴がある。これらの特徴をふまえ、授業では担当教員の実務経験を交え、対象に必要な看護が実践できるように症状観察、アセスメントを実施しながら臨床判断能力を習得できるように教授する。又、高齢者への倫理的配慮を大切にしながら看護を実践できるように教授する				
到達目標	1) 老年症候群、老年期に多い疾患の看護を理解する。 2) 老年期の特徴、疾患を踏まえた看護を理解する。				
授業計画	内容				方法
回	時間				
1	2	老年症候群 高齢者のフィジカルアセスメント 入院治療を受ける高齢者の看護			講義
2	2	検査を受ける高齢者の看護 リハビリテーションを受ける高齢者の看護			講義
3	2	高齢者の疾患の特徴 誤嚥性肺炎の看護			講義
4	2	白内障の看護 前立腺肥大、前立腺がんの看護			講義
5	2	パーキンソン病の看護			講義
6	2	骨粗鬆症、大腿骨近位部骨折看護 人工関節置換術を受けた高齢者の看護			講義
7	2	リハビリテーションを受ける高齢者の看護 【自動・他動運動の援助】 嚥下障害のある高齢者の看護 【摂食嚥下障害のある高齢者の食事援助、口腔ケア】			演習
8	1	まとめ			講義
授業時間外の学習	授業に関する内容の予習と復習 演習課題の実施				
テキスト	川公子 他：系統看護学講座 専門分野 老年看護学，医学書院 鳥羽研二 他：系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論，医学書院 井手隆文 他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 7 脳神経，医学書院 河邊博史：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 8 腎・泌尿器，医学書院 田中栄 他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 10 運動器、医学書院 大鹿哲郎 他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 13 眼、医学書院				
参考文献	必要に応じて指示する				

「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	活動・休息援助技術の 17 自動・他動運動の援助、清潔・衣生活援助技術の 26 口腔ケアについて、演習時に評価表を用いて自己評価・他者（学生）評価を行う。
成績評価の方法と基準	筆記試験 100 点満点で評価する。 受講態度、課題提出遅れなどで減点する場合がある。

授業科目	子どもの成長発達への支援と看護		担当 教員	氏名	松井 なつみ
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2025 年度・2 年生			担当者実務経験	病院で看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	社会の中で小児と家族のおかれている状況やその問題点、成長発達については1 年次に学習した。この科目では、まず小児各期の養育を学ぶ。そのうえで成長発達途上の子どもの健康障害が子どもと家族に及ぼす影響について成長発達、健康の段階、検査・治療などからみた看護について教授する。さらに、子どもが病気や障がいをもつ子どもと家族がどのように捉え生活しているのか、その家族は子どもをどのように支えているのか、家族の思いなどを考えられるようにする。また看護師として小児と家族中心の看護とは何か考えられるよう担当教員の実務経験も交え、理解を深めることができるよう教授する。				
到達目標	1. 小児各期(乳幼児・幼児期・学童期・思春期)の生活への援助と保育の在り方を理解できる。 2. 健康障害を子どもと家族がどのようにとらえているのか理解できる。 3. 入院が子どもと家族に及ぼす影響を理解できる。 4. 子どもと家族の経過別(急性期・周手術期・慢性期・終末期)看護が理解できる。 5. 子どもの検査・処置体験、治療に伴う苦痛を理解し、検査・処置・治療が円滑に行える看護を理解できる。 6. 先天異常・障がいをもつ子どもと家族の看護が理解できる。 7. 子どもの成長発達に合わせた日常生活援助(栄養・清潔・排泄)が理解できる。 8. おもちゃ作成を行い子どもにとっての遊びの意義及び成長発達をふまえた遊びを理解できる。				
授業計画	内容				方法
回	時間				
1	2	乳児・幼児の成長発達、乳児・幼児の養育および看護			講義
2	2	学童・思春期の成長発達、学童・思春期の養育および看護			講義
3	2	子どもの認知度・病気の理解度、病気の子どももつ家族の問題点 入院がこどもと家族に与える影響			講義
4	2	小児の入院形態・入院環境			講義
5	2	成長発達に合わせた子どもの遊びとプレパレーション			講義
6	2	入院している子どもと家族への看護			講義
7	2	外来看護の特徴・外来の機能と求められる看護 在宅における子どもの看護・災害時の子どもの看護			講義
8	2	急性期・周手術期・慢性期にある子どもと家族の看護			講義
9	2	終末期にある子どもと家族の看護 検査を受ける子どもと家族の看護 制限のある子どもと家族の看護			講義
1 0	2	先天的な問題をもつ子どもと家族の看護			講義

1 1	2	障がいのある子どもと家族の看護	講義
1 2	2	低出生体重児の看護	講義
1 3	2	コミュニケーション技術と日常生活援助	講義・演習
1 4	2	コミュニケーション技術と日常生活援助	演習
1 5	2	成長発達に合わせた子どもの遊びとプレパレーション（発表）	演習
授業時間外の学習		講義の中で課題を提示するので、課題に対するレポート作成し提出する。 子どもの遊びとプレパレーションはグループで検討する。	
テキスト		奈良間美穂 他：系統看護学講座 小児看護学概論/小児臨床看護総論，医学書院 奈良間美穂 他：系統看護学講座 小児看護学各論，医学書院 任和子他：基礎・臨床看護技術，医学書院	
参考文献		鴨下重彦，柳澤正義監修：子どもの病気の地図帳，講談社 筒井真優美：小児看護学 日総研 桑野タイ子・本間昭子編：新看護観察のキーポイントシリーズ 小児Ⅰ，中央法規 桑野タイ子・本間昭子編：新看護観察のキーポイントシリーズ 小児Ⅱ，中央法規 東海林宏道 他監修：病気が見える 小児科，メディックメディア	
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法		該当なし	
成績評価の方法と基準		定期試験と課題レポート、グループワークのレポートで評価する。 定期試験 80 点、グループワークのレポート 20 点 計 100 点で評価する。	

授業科目	健康障害のある子どもの看護		担当 教員	氏名	松井 なつみ
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2025 年度・2 年生				
受講要件	なし				
授業概要	既習の学習では、子どもが病気や障がいをもどのように受け止めているのか、子ども中心の看護とは何か考えてきた。子どもには小児特有の疾患が多くある。この科目では症状別看護を学び、小児特有の疾患の病態生理、検査・治療や成長発達をふまえた子どもと家族の看護を中心に講義を進める。また、看護実践の場面での対応について担当教員の実務経験を交え教授する。				
到達目標	1．子ども及び家族への症状別看護が理解できる。 2．主要な疾患をもつ患児の看護が理解できる。 3．治療を受ける子どもの看護が理解できる。				
授業計画	内容				方法
回	時間				
1	2	症状を示す子どもと家族の看護 一般状態、呼吸・循環・消化器症状、発熱、水分・電解質異常			講義
2	2	症状を示す子どもと家族の看護 血液、神経・筋症状、黄疸、てんかん・熱性けいれん			講義
3	2	症状を示す子どもと家族の看護（発疹） 痛みのある子どもと家族の看護			講義
4	2	看護過程の展開における留意点			講義
5	2	子どもの身体的アセスメント （バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント）			講義・演習
6	2	看護技術演習 入院中の子どもの日常生活援助／検査・処置を受ける子どもの看護			講義・演習
7	2	代謝性疾患・内分泌疾患・免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ性疾患のある子どもと家族の看護			講義
8	2	呼吸器疾患・循環器疾患のある子どもと家族の看護			講義
9	2	消化器疾患のある子どもと家族の看護			講義
1 0	2	血液・造血器疾患・悪性新生物のある子どもと家族の看護			講義
1 1	2	腎・泌尿器疾患のある子どもと家族の看護			講義
1 2	2	神経疾患・発達障害のある子どもと家族の看護			講義
1 3	2	運動器・皮膚・耳鼻咽喉疾患のある子どもと家族の看護			講義
1 4	2	看護技術演習 入院中の子どもの日常生活援助／検査・処置を受ける子どもの看護			演習
1 5	2	看護技術演習 入院中の子どもの日常生活援助／検査・処置を受ける子どもの看護			演習

授業時間外の学習	課題を提示するので提示された期日までに提出する。
テキスト	奈良間美穂 他：系統看護学講座 小児看護学概論/小児臨床看護総論，医学書院 奈良間美穂 他：系統看護学講座 小児看護学各論，医学書院 任和子他：基礎・臨床看護技術，医学書院
参考文献	鴨下重彦，柳澤正義監修：子どもの病気の地図帳，講談社 筒井真優美：小児看護学 日総研 桑野タイ子・本間昭子編：新看護観察のキーポイントシリーズ 小児Ⅰ，中央法規 桑野タイ子・本間昭子編：新看護観察のキーポイントシリーズ 小児Ⅱ，中央法規 東海林宏道 他監修：病気が見える 小児科，メディックメディア
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	終了試験 80 点、グループワークのレポート 20 点の計 100 点で評価する。

授業科目	母性看護学援助論 1		担当 教員	氏名	①下川原 尚子 ②平川 宣子
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2025 年度・2 年生			担当者実務経験	①病院にて助産師として勤務 ②病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	妊娠は、女性のライフサイクルの中でも大きなイベントである。妊娠は、看護を考える上で他の教科と異なり、いわゆる「病気」ではないため、多くの人には、妊娠や分娩は正常に経過して当然だという考え方があります。しかし、実際には、妊娠・分娩には多くのリスクを伴う。この科目では、まず、妊娠から分娩後（産褥期）までと生まれてきた新生児の「正常な」経過を知ってもらい、その中で私たちはどのような支援を行えばよいのかを考える。授業にあたっては、担当者の実務経験を交え教授する。				
到達目標	1．妊娠・分娩・産褥期の母体の生理的变化を理解する 2．胎児の変化と新生児の生理と正常な経過を理解する 3．妊・産・褥婦の身体的・心理的・社会的特徴が理解できる 4．正常な経過をたどる妊・産・褥婦・新生児への看護が理解できる				
授業計画	内容				方法
回	時間				
1	2	妊婦の健康診査			講義
2	2	妊娠初期・中期・後期の母体の変化と胎児の成長			
3	2	妊娠の診断および管理に必要な情報、胎児心拍数モニタリング			講義
4	2	分娩の生理			講義
5	2	分娩期の母体変化 分娩の進行判断			
6	2	産褥期の生理			講義
7	2	新生児の生理			講義
8	2	妊娠期の看護			講義・GW
9	2	分娩期の看護（分娩開始前から分娩第1期まで）			講義・GW
10	2	分娩期の看護（分娩開始前から分娩第1期まで）			演習
11	2	分娩期の看護（分娩第2期から第4期、分娩の振り返りまで）			講義
12	2	産褥の生理：進行性変化・退行性変化			講義・GW
13	2	産褥期の生理：退行性変化			演習
14	2	産褥の生理：心理的变化、母子相互作用・ボンディング・アタッチメント 産後健診			講義
15	2	新生児期の経過と看護・まとめ			講義

授業時間外の学習	講義終了後、テキストを見返して課題を整理する 課題は複数回提示する
テキスト	森 恵美 他：系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学②，医学書院
参考文献	宮崎和子：看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅰ，中央法規 宮崎和子：看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅱ，中央法規 井上裕美 他：病気が見える Vol.10 産科，メディックメディア など
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	終了試験：各教員が 50 点＋50 点の範囲で評価。計 100 点で評価する。

授業科目	母性看護学援助論 2	担当 教員	氏名	平川 宣子
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	専任教員
対象学生	2025 年度・2 年生			
受講要件	なし			
授業概要	この科目では、母性看護学援助論 1 で学んだ知識を基に、その知識を実際に臨床の場で活用していくための指導技術や看護過程、基本的な援助技術を学ぶ。また、妊娠期から産褥期にかけては異常も起こりやすい時期であり、異常な場合の看護についても教授する。 新生児は、母親の胎内で生活していたものが、呼吸その他自分で行わなければならない、ダイナミックに変化する時期でもあるため、そのような新生児を看護していくための視点と、愛護的に扱う技術も学んでいく。授業にあたっては、担当者の実務経験を交え教授する。			
到達目標	1. 健康障害を持つ妊・産・褥婦への看護が理解できる 2. 健康障害をもつ新生児への看護が理解できる 3. 母性看護に必要な基本的看護技術が理解できる 4. 新生児に安全・安楽な沐浴を実施できる 5. 母性看護に必要な基礎的指導技術を理解できる 6. 褥婦及び新生児の看護過程について理解できる			
授業計画		内容		方法
回	時間			
1	2	看護過程の展開 ウエルネス型看護診断		講義
2	2	看護過程の展開①		講義
3	2	看護過程の展開②		講義
4	2	ハイリスク妊娠		講義
5	2	異常経過にある産婦の看護		講義
6	2	誘導分娩と産科手術 異常経過にある褥婦の看護		講義・演習
7	2			
8	2	異常経過にある新生児の看護		演習
9	2	母性看護技術 母体：レオポルド触診法・分娩監視装置の装着方法・乳頭マッサージ・産後の子宮復古確認 など 新生児：諸計測・バイタルサイン測定・抱っこ・おむつ交換・哺乳・排気・沐浴 など		講義・演習
1 0	2			
1 1	2	沐浴技術練習		講義
1 2 1 3	4	母性看護における指導技術 (グループに分かれ、パンフレットを作成する)		講義・演習

1 4	2	リフレクション	講義・GW
1 5	2	婦人科疾患：乳がん、子宮がん、卵巣がん	講義
授業時間外の学習	1. 課題に取り組み、期日までに提出する 2. GWでの検討が十分にできなかった場合に、講義時間外での取り組みとする 3. 看護技術の演習や、沐浴技術試験に関して、講義時間外に各自で練習を行う		
テキスト	森 恵美 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②，医学書院		
参考文献	太田操：ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版，医歯薬出版 宮崎和子：看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅰ，中央法規 宮崎和子：看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅱ，中央法規 井上裕美 他：病気が見える Vol.10 産科，メディックメディア 日本助産診断・実践研究会：実践マタニティ診断，医学書院 など		
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	清潔・衣生活援助技術の 28. 新生児の沐浴・清拭は、評価表を用いて技術試験を行う。		
成績評価の方法と基準	【評価①】 終了試験(45分)80点、指導技術(別紙評価表を使用)20点の計100点で評価する。 60点未満は再試験とする。 【評価②】 沐浴技術試験(100点)を実施し、60点未満は再試験とする。 科目の最終評価は、評価①筆記試験・指導技術を70%、評価②技術試験を30%として算出する。		

授業科目	精神看護学援助論 1		担当 教員	氏名	鉦賀千夏
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2025 年度・2 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	精神看護においてケアを行う際の前提や原則、中核となる看護理論について理解し、患者が抱える問題や生きにくさを捉え介入するプロセスや具体的な関り方など、精神障害を持つ人へのケアの基本的な方法を講義・演習にて習得させる。 さらに、看護師のストレスを理解し、看護師自身の感情の取扱い方など自分の心の健康を保持増進するための方法を考える機会とする。看護師経験および実習指導により得た知識・経験をもとに、実践に活かせる知識・技術の教授を行う。				
到達目標	1. 精神看護においてケアを行う際の前提・原則、および看護理論について理解できる。 2. 症状アセスメントやプロセスレコードの実際の活用方法を、演習を通して理解できる。 3. 精神の健康障害をもつ対象に対する看護の展開を行う際の基盤（視点や考え方、プロセスなど）について理解できる。 4. 認知行動療法の具体的方法を理解し、活用方法や有効性を理解できる。 5. 看護師のメンタルヘルス支援について理解できる。				
授業計画	内容				方法
回	時間				
1	2	第 8 章 ケアの人間関係 ・ケアの前提、原則、方法 ・精神看護に活用される看護理論 ・患者-看護師関係における感情体験 ・チームのダイナミクス			講義・演習
2	2				
3	2				
4	2	症状・関係をアセスメントする（シミュレーション学習） ・症状アセスメントの基礎、アセスメントトレーニング ・リフレーミング ワーク ・コミュニケーショントレーニング			講義・演習
5	2				
6	2				
7	2				
8	2	・プロセスレコードの基礎、プロセスレコード演習 ・精神看護における看護過程の展開の基礎			講義・演習
9	2				
1 0	2				
1 1	2				
1 2	2				
1 3	2				

1 4	2	認知行動療法の概要と有効性 ・認知療法：認知再構成法 ・行動療法：問題解決法	講義
1 5	2	第 16 章 看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス ・看護師の不安と防衛 ・感情労働としての看護 ・看護師の感情ワーク ・看護師のストレスサーとなりうるもの ・メンタルヘルスを保つ方法	講義
授業時間外の学習		・シラバスの内容に応じて事前に教科書の内容を確認した上で授業に臨む。 ・ワークや事例は講義終了後、授業内容に合わせて課題提示をする。 ・授業中に個人ワークを行うが、残ったものは自宅で行い指定された期限日までに提出する。	
テキスト		武井 麻子他：系統看護学講座 精神看護学 2 精神看護の展開，医学書院	
参考文献		野末 聖香：リエゾン精神看護，医歯薬出版株式会社 宇佐美 かおり：精神科看護の理論と実践，ヌーヴェルヒロカワ	
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法		該当なし	
成績評価の方法と基準		筆記試験（45 分）80 点、課題 20 点、計 100 点で評価する。 ＊授業態度・グループ学習への参加態度が著しく悪い者、課題提出遅れがあれば減点する。	

授業科目	精神看護学援助論 2		担当 教員	氏名	① 小野 香 ② 安武竜太
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	① 南ヶ丘病院 ② 小倉蒲生病院
対象学生	2025 年度・2 年生				
受講要件	なし				
授業概要	精神科治療の目標は「治癒」から「回復」へと移ってきている。精神看護に携わる者として「回復（リカバリー）」の意味を理解し、精神障害をもつ人々の回復を促し支援するさまざまなアプローチの方法、地域で生活する人へのケアと支援について理解できるよう講義を進める。また、入院治療をうける人にとっての入院の意味や影響を理解したうえで、回復を促進するための治療的環境の在り方や安全を守る視点、必要な看護について経験をもとに事例をふまえて講義する。 精神看護は精神科病院に入院している患者にのみ対応するものではない。身体疾患をもつ患者・家族の精神的問題に対して、精神看護の技術を活用することで心のケアを行うリエゾン精神看護の知識・技術について教授する。				
到達目標	1．患者および看護師にとっての「回復（リカバリー）」の意味・プロセスを理解する。 2．精神に障害をもつ人の地域生活を支えるための支援について理解する。 3．精神に障害をもつ人にとっての入院の意味を理解し、回復に必要な看護を理解する。 4．リエゾン精神看護の概要と諸問題のアセスメントや介入方法について理解する。				
授業計画	内容				方法
回	時間				
1	2	回復を支援する：回復の意味、リカバリーを促す環境と方法			講義
2	2	回復を支援する：回復のためのプログラム リカバリーのプロセス			講義
3	2	地域におけるケアと支援：器としての地域 地域における生活支援の方法			講義
4	2	地域におけるケアと支援：地域における生活支援の方法			講義
5	2	医療の場におけるメンタルヘルスと看護 ・身体疾患をもつ患者のメンタルヘルス ・リエゾン精神看護とその活動：直接ケアと間接ケア			講義
6	2	・リエゾナーズの活動の実際 ①不安の強い患者 ②怒りの強い患者 ③痛みの強い患者			講義
7	2	災害時のメンタルヘルスと看護			講義
8	2	入院治療の意味：精神科の受診			講義
9	2	入院治療の意味：治療の器としての病院・病棟			講義
10	2	入院治療の意味：入院中の観察とアセスメント、ケアの方向性			講義
11	2	入院治療の意味：退院に向けての支援とその実際			講義

1 2	2	身体をケアする：精神科における身体ケア 精神科における身体を通じた看護ケア	講義
1 3	2	身体をケアする：精神科の治療に伴う身体ケア	講義
1 4	2	身体をケアする：身体合併症のアセスメントとケア 精神科における終末期ケア	講義
1 5	2	安全をまもる：リスクマネジメントの考え方と方法 緊急事態への対処 緊急事態とスタッフの支援	講義
授業時間外の学習		・シラバスの内容に応じて事前に教科書の内容を確認した上で授業に臨む。 ・ワークや事例は講義終了後、授業内容に合わせて課題提示をする。 ・授業中に個人ワークを行うが、残ったものは自宅で行い指定された期限日までに提出する。	
テキスト		武井 麻子他：系統看護学講座 精神看護学2 精神看護の展開，医学書院	
参考文献		野末 聖香：リエゾン精神看護，医歯薬出版株式会社 宇佐美 かおり：精神科看護の理論と実践，ヌーヴェルヒロカワ	
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法		該当なし	
成績評価の方法と基準		担当講師ごとに筆記試験（100点）で評価する。 科目の最終評価は、①を 50%、②を 50%で算出する。	

授業科目		薬物療法と看護		担当 教員	氏名	東本七重
単位・時間数		1 単位・20 時間			所属	専任教員
対象学生		2025 年度・2 年生			担当者実務経験	病院の看護師として勤務
受講要件		なし				
授業概要				医療において薬物療法が果たす役割は大きく、その薬物療法を安全かつ効果的に用いるために看護が果たす責任や役割は大きい。薬物療法については、専門基礎分野や各看護学で学んでおり、本講義では、それらの知識を活用し、対象に応じた薬物動態や投与方法の違い、特徴を理解できるように講義・演習を行う。さらに、発達段階や疾患、病期などの特徴や場に応じて患者が安全に薬物療法を受けるために必要な看護について学ぶ。講義にあたっては、各領域の担当者が協力し、実務経験を活かして講義を行う。		
到達目標				1. さまざまな対象者への薬物療法の特徴を理解できる。 2. 対象に応じた薬物の投与方法および薬物療法に伴う看護について理解できる。 3. 輸血管理の基礎知識を踏まえ、援助の実際を理解できる。		
授業計画				内容		方法
回	時間					
1	2	対象に応じた薬物療法と看護 ・薬物療法における看護師の役割 ・患者と薬物療法 ・薬物治療の評価 ・安全管理 ・チーム医療と薬物療法		講義		
2	2	対象に応じた薬物動態について		講義 個人ワーク グループワーク		
3	2	認知能力・管理能力に応じた服薬管理		講義 グループワーク		
4	2	ハイリスク薬品の特徴と看護 ・化学療法を受ける患者の看護 ・麻薬を服用する患者の看護 ・副腎皮質ステロイド薬を服用する患者の看護 など		講義		
5	2					
6	2	場に応じた看護・対象に応じた看護の実際		講義 グループワーク		
7	2	対象に合わせた服薬の指導（成人・老年・小児・精神・在宅）		演習		
8	2	リフレクション		講義 グループワーク		
9	2	輸血の管理と実際		講義・演習		
10	2	ハイリスク薬品曝露予防策の実施		講義・演習		
授業時間外の学習				服薬指導のロールプレイについてシナリオ作成、準備		

テキスト	①井上 智子他：系統看護学講座 別巻 臨床薬理学、医学書院 ②北川公子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学、医学書院 ③佐々木勝教：救急・急変看護、成美堂出版 ④河原加代子他：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論、医学書院 ⑤奈良間美保他：系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論、医学書院 ⑥森 恵美他：系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学各論、医学書院 ⑦武井麻子他：系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開、医学書院 ⑧任 和子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ：基礎看護技術Ⅱ、医学書院 ⑨茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ：基礎看護技術Ⅰ、医学書院
参考文献	安原 一 他：わかりやすい薬理学 野元正弘他：薬がみえる 1、メディックメディア 弘世貴久他：薬が見える 2、メディックメディア
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	与薬の技術の 46.輸血の管理、安全管理の技術 67.人体へのリスクの大きい薬剤のばく露予防策の実施については、チェックリストを用いて自己評価・他者(学生)評価を実施する。
成績評価の方法と基準	終了試験 80 点、演習の評価（評価基準あり）20 点の計 100 点で評価する。

授業科目	家族看護		担当 教 員	氏名	平川 宜子
単位・時間数	1 単位・20 時間			所属	専任教員
対象学生	2025 年度・2 年生				
受講要件	なし				
授業概要	家族成員のだれかに健康問題が生じると家族は様々な影響を受け、家族の生活は変化する。本科目では、家族の位置づけと家族の基本的な考え方を想起し、家族成員の主体性を尊重しながら看護に必要な家族アセスメントと援助を展開するための知識や方法について教授する。さらに、現代の家族の特徴、理論を活用した家族の捉え方、家族の病気体験を理解する姿勢や家族へのアプローチ等について看護の展開を行う。講義にあたっては、各領域の担当者が協力し、実務経験を活かして講義を行う。				
到達目標	1. 家族を看護の対象として位置づけ看護の必要性を理解する 2. 健康問題を有する家族員をかかえた家族の特徴や家族システム、家族の発達、家族のセルフケアの視点を理解する 3. 事例を通して家族をアセスメントし、必要な看護の方法を考えることが出来る				
授業計画			内容		方法
回	時間				
1	2	家族を看護すること 家族を理解するための理論： 家族システム理論、家族ストレス対処理論、家族発達理論			講義
2	2	家族の病気体験を理解する 家族の病気のとらえ方・理解、家族の苦悩、情緒的反応 家族の生活への影響、家族のニーズ			講義
3	2	家族と援助関係を形成する 援助関係とは 看護者に求められる基本姿勢 家族とのコミュニケーションにおける留意点			講義、演習
4	2	家族への看護アプローチ 家族のセルフケアの支援、家族の役割調整			講義
5	2	事例に基づく家族看護の実践 ・急性期患者の家族看護			講義 グループワーク
6	2	事例に基づく家族看護の実践 ・慢性期患者の家族看護			講義 グループワーク
7	2	事例に基づく家族看護の実践 ・高齢者の家族看護			講義 グループワーク
8	2	事例に基づく家族看護の実践 ・健康障害をもつ小児の家族看護 ・周産期に関する家族看護 ・精神疾患患者の家族看護 ・在宅で療養する対象の家族の看護			講義、演習
9	2	発表会			講義、演習
10	2	リフレクション・まとめ			講義 グループワーク
授業時間外の学習	復習はテキストや授業資料等を用いて学習内容を整理して理解を深めておく。 リフレクション後の課題レポート				

テキスト	上別府圭子 他：系統看護学講座 別巻 家族看護学，医学書院 地域・在宅看護論の授業資料を使用することがある。
参考文献	谷津 裕子 他監修：看護がみえる vol.5 対象の理解 I，MEDIC MEDIA 必要時提示する
「看護師教育 の技術項目」の 到達確認方法	該当なし
成績評価の 方法と基準	筆記試験 60 点(45 分)、領域別演習＋課題レポート＋演習貢献度を含む 40 点の 合計 100 点で評価する。60 点以上を合格とする。

授業科目	周手術期看護	担当 教 員	氏名	岩丸 花奈
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	専任教員
対象学生	2025 年度・2 年生			
受講要件	なし			
授業概要	手術による身体的、精神的、社会的影響は大きい。看護師は、手術方法による侵襲の程度や侵襲に対する耐性、侵襲からの回復力をとらえ総合的にアセスメントし、その人の耐性をいかに高く維持するか、その人の回復力をいかに引き出せるかを考える必要がある。この科目では、患者自ら主体的に治療に参加し、手術によって受ける侵襲や影響を最小限にとどめ、健康回復や社会復帰できるように働きかける為に必要な知識、技術の習得をめざす。周手術期にある対象を理解し、術前、術中、術後の各段階の特徴と看護、発達段階と状態に応じた看護、各手術における看護を担当教員の実務経験を交え教授する。			
到達目標	1. 周手術期看護の概要が理解できる。 2. 術前の看護が理解できる。 3. 術中の看護が理解できる。 4. 術直後、術後の看護が理解できる。 5. 術後患者に必要な技術が習得できる。 6. 術後合併症とその看護が理解できる。 7. 手術部位別の周手術期患者の看護が理解できる。 8. 発達段階や対象の状態に応じた周手術期看護が理解できる。			
授業計画		内容		方法
回	時間			
1	2	周手術期の概要 周手術期の定義と合法性 手術を受ける患者・家族の理解 患者を支える医療チーム 看護業務における法律と制度		講義
2	2	発達段階や対象の状態に応じた術後合併症と予防		講義
3	2	発達段階や対象の状態に応じた術前の看護		講義
4	2	発達段階や対象の状態に応じた術中の看護		講義
5	2	発達段階や対象の状態に応じた術後の看護		講義
6	2	術後患者に必要な技術 ドレーン管理の実際 創傷処置		講義
7	2	術後患者に必要な技術 弾性ストッキング A Vインパルス 術後ベッド作成		演習
8	2	手術環境を整える感染予防 安全な環境管理 手術時手洗い ガウンテクニック		講義・演習

9	2	開頭術を受ける患者の看護 脳腫瘍	講義
10	2	開胸術を受ける患者の看護 肺がん(肺葉切除術)、心臓弁膜症(弁置換術)	講義
11	2	開腹術を受ける患者の看護 胃がん(胃切除術・胃全摘術)、大腸がん(人工肛門増設術)	講義
12	2	高齢者や子どもに特徴的な外科的治療 白内障(白内障手術)、前立腺肥大症(経尿道的前立腺切除術) 慢性扁桃炎(口蓋扁桃摘出術)	講義
13	2	女性特有の外科的治療 帝王切開を受ける患者の看護、乳がん(乳房全切除術)	講義
14	2	1. 腹腔鏡下手術を受ける患者の看護 胆石(胆嚢摘出術) 2. 精神障害があり外科的治療を受ける患者の看護	講義
15	2	1. 女性生殖器の外科治療 広汎子宮全摘術 2. まとめ	講義
授業時間外の学習		・事前学習として別途指示する (術中体位、安全な環境管理、術後ベッド、ドレーン管理の実際、創傷処置) ・授業に関する内容の予習と復習	
テキスト		池上徹 他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学総論，医学書院 北川雄光 他：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論，医学書院 野崎真奈美 他：成人看護技術，南江堂	
参考文献		中村美和子 監修：周手術期看護 安全安楽な看護の実践 改訂版，インターメディカ	
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法		該当なし	
成績評価の方法と基準		筆記試験 100 点満点で評価する。 受講態度、課題提出遅れなどで減点する場合がある。	

授業科目	終末期看護	担当 教員	氏名	鉦賀 千夏
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	専任教員
対象学生	2025 年度・2 年生		担当者実務経験	病院で看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	生まれてきた人にはいつか死は訪れるが、人々は日々の暮らしの中で、死はほとんど意識することなく過ごしている。あらゆる発達段階、看護の場にある人が、「自らの死」に対峙して生きる姿や、死にゆく過程における患者と家族の苦痛・苦悩、終末期における心身の変化を緩和するケアについて学ぶ。さらに遺族へのグリーフケア、人生最後の時を迎える人の看取りのケアについても学ぶ。この科目では、終末期にある人を理解し、その人の状態に応じた看護を担当教員の実務経験を交え教授する。			
到達目標	1. 終末期にある人を理解するための基礎となる考え方や理論が理解できる。 2. 終末期にある人がその人らしく生きることを支える看護について考えることができる。 3. 終末期における症状緩和のためのケアと死後の処置について理解できる。 4. 家族ケアとグリーフケアについて理解できる。 5. 終末期医療における倫理的課題について考えることができる。			
授業計画 回	時間	内容		方法
1	2	終末期看護概論① 終末期とは 1) 全人的苦痛と QOL 2) 緩和ケアとは何か 3) 緩和ケアの歴史と海外における緩和ケアの現状 4) 緩和ケアにおける看護師の役割		講義
2	2	終末期看護概論② 映画を鑑賞して死にゆく人とその家族について考える		講義 DVD 鑑賞
3	2	終末期における身体的苦痛と看護		講義
4	2	終末期における精神的苦痛・社会的苦痛と看護 キューブラー・ロスの「死にゆく過程 5 段階」		講義
5	2	終末期におけるスピリチュアルペインと看護、代替補完療法		講義
6	2	終末期における苦痛緩和のための看護（薬物療法、放射線療法） 緩和ケアのコミュニケーション		講義
7	2	終末期にある家族ケア、遺族ケア（グリーフケア）		講義
8	2	緩和ケアにおける倫理的課題と意思決定 臨死期の看護と死後の処置		講義
9	2	終末期にある小児の看護		講義
10	2	終末期にある小児の看護 こどもの死の概念、死が近づいた子どもの反応		講義

1 1	2	非がん患者の緩和ケアの一般的特徴 神経疾患の緩和ケアの特徴、慢性心不全の緩和ケア、腎不全、 COPD の緩和ケア、認知症	講義
1 2	2	事例から緩和ケアを考える①	講義 (GW)
1 3	2	事例から緩和ケアを考える②	演習 (GW)
1 4	2	事例から緩和ケアを考える③	演習 (GW)
1 5	2	事例から緩和ケアを考える④ (発表会)	演習 (GW)
授業時間外の 学習		「事例から緩和ケアを考える」の準備	
テキスト		宮下高令 編集：ナーシンググラフィカ 成人看護学⑥ 緩和ケア、メディカ出版 任 和子 他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院 香春知永 他：系統看護学講座 臨床看護総論，医学概論	
参考文献		青木学 他：系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学，医学書院	
「看護師教育 の技術項目」の 到達確認方法		該当なし	
成績評価の 方法と基準		①筆記試験 100 点 (45 分) 80% ②演習 20%で評価する。 授業態度、課題提出の遅れ等は減点することがある。	

授業科目	看護過程演習	担当 教員	氏名	川島 己知
単位・時間数	1 単位・30 時間		所属	専任教員
対象学生	2025 年度・2 年生		担当者実務経験	病院で看護師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	看護過程の活用は、看護の対象を多角的に捉え、看護を計画的に実施するための力を育む。基礎看護学で看護過程の基本的知識を学んでいるが、対象の状況に応じた看護過程の展開を実施できるようになるためには、様々な対象の状況を想定した看護過程の展開を実践し、その方法を体得していく必要がある。この単元では、患者の健康問題を解決し、対象の状況に合わせた看護に行うための思考と行動の道筋である看護過程の活用方法を学ぶ。様々な状況を想定し、事例演習を通して、より実践的な看護過程のプロセスについて、臨床経験のある各専門領域の教員が協力して教授する。			
到達目標	1. 対象者にとって必要な看護を見きわめ、提供するプロセスである看護過程を活用できる。 2. 看護過程を用いて、対象者の常在条件・病理的条件（健康障害・治療や検査）、ニーズ、強みなどを関連・統合し、対象に応じた問題の抽出・優先順位の決定および対象にとって最善の目標設定・看護計画の立案ができる。			
授業計画		内容		方法
回	時間			
1	2	ガイダンス、看護過程の考え方、演習計画の説明 成人期、老年期の特徴と看護過程の考え方、事例紹介		講義
2	2	成人期・老年期における看護過程の展開（個人ワーク）、 グルーピング		演習
3	2	成人期における患者の看護過程の展開 （グループワーク）		演習
4	2	老年期における患者の看護過程の展開 （グループワーク）		演習
5	2	成人期・老年期の看護過程の発表・講評		発表
6	2	周産期・在宅療養患者の事例紹介 周産期の看護過程の展開（個人ワーク）		演習・講義
7	2	在宅療養患者の看護過程の展開（個人ワーク）		演習・講義
8	2	小児・精神障害患者の事例紹介 小児の看護過程の展開（個人ワーク）		演習・講義
9	2	精神障害患者の看護過程の展開（個人ワーク）、 グルーピング		演習・講義
1 0	2	周産期の看護過程の展開（グループワーク）		演習
1 1	2	在宅療養患者の看護過程の展開（グループワーク）		演習
1 2	2	小児の看護過程の展開（グループワーク）		演習
1 3	2	精神障害患者の看護過程の展開（グループワーク）		演習

1 4	4	周産期、小児期、精神障害、在宅療養患者の看護過程の発表・講評、まとめ	発表・講義
授業時間外の学習	授業時間で行えなかった課題の実施 発表会前には、各事例に対する学習を行い、グループで作成した資料を熟読し疑問点や意見を考えておくこと。		
テキスト	永田明，石川ふみよ：看護がみえる vol.4 看護過程の展開，メディックメディア V ヘンダーソン著：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会		
参考文献	基礎看護学共通基本技術で配布された資料や看護過程記録、手引き 看護学の教科書全般、配布資料		
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし		
成績評価の方法と基準	評価表にて評価する。 ①成人期・老年期の事例のうちの1事例、②周産期・小児期、精神障害・在宅療養患者の事例のうち1の事例の計2事例を各100点で評価し、それぞれ60点以上を合格とする。科目の最終評価は①50%、②50%として算出する。		

授業科目	看護倫理	担当 教 員	氏名	下川原 尚子
単位・時間数	1 単位・15 時間		所属	専任教員
対象学生	2025 年度・2 年生		担当者実務経験	病院で助産師として勤務
受講要件	なし			
授業概要	既習の学習で看護倫理について考えてきた。この科目では、倫理は看護実践の中にあり、看護師が持つ価値観をもとに看護を実践していること、日々の看護実践の中で起こりうる倫理的課題に直面したときに対象者の最善の利益とは何か考え行動することが大切であると気づけるよう授業を展開する。看護実践の中で遭遇する様々な課題や倫理的ジレンマの中で判断、行動している過程には根拠がある。事例を通してその考えに至る過程を学べるよう教授する。領域横断科目であり、各領域の具体的な事例をもとに倫理的課題について考え倫理は身近にあること、人間の生活に即していること、倫理とは何か考えるだけでなく看護実践の中にあるものであり倫理を大切に実践できるように担当教員の実務経験を交え教授する。			
到達目標	1. 看護倫理とは何か考えることができる。 2. 看護実践の場において倫理的課題へのアプローチ方法が理解できる。 3. 倫理的課題を考え対象者の最善の利益を守るための行動を考えることができる。 4. 看護倫理を自己の看護実践と結び付けて考えることができる。			
授業計画	内容			方法
回	時間			
1	2	看護倫理とは		講義
2	2	専門職の倫理		講義
3	2	倫理的課題へのアプローチ		講義・演習
4	2	倫理的課題へのアプローチ		講義・演習
5	2	看護研究と倫理 さまざまな看護活動と倫理（事例紹介）		講義・演習
6	2	さまざまな看護活動と倫理 （終末期看護、地域・在宅看護、小児看護、母性看護、精神看護）		演習（GW）
7	2	さまざまな看護活動と倫理 （終末期看護、地域・在宅看護、小児看護、母性看護、精神看護）		演習（GW）
8	1	まとめ		講義・演習
授業時間外の学習	講義のテーマに沿った課題を授業中に提示するので、課題に対するレポートを作成し、提出する。			
テキスト	宮坂道夫著者：系統看護学講座 別巻 看護倫理，医学書院			
参考文献	系統看護学講座 専門Ⅰ、専門Ⅱの各教科書 医学書院など 必要時、講義の中で提示する。			
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし			

成績評価の方法と基準	講義のテーマに沿った課題レポートで評価する。 評価は、評価表を用いて個人レポート 60 点、GW レポート 40 点の計 100 点で評価する。欠席や課題レポート等の提出が遅れた場合は、減点対象とする。
------------	---

授業科目	基礎看護学実習 2	担当 教員	氏名	川島 己知								
単位・時間数	1 単位・90 時間		所属	専任教員								
対象学年	2025 年度・2 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務								
受講要件	なし											
授業概要	基礎看護学実習 1 までに学習したことを踏まえ、受け持ち患者を通して人間である対象を理解させ、コミュニケーション技法を用いて、療養生活における未充足ニーズを考えさせる。また、療養生活を送る対象の生活援助を行い、看護技術の基本（原理・原則）を踏まえた日常生活援助を実施し、対象の個別性について考える事が出るよう臨床での経験を活かし指導する。対象の健康・生活上の問題を把握し、看護過程を踏まえながら看護を実践する基礎的能力を身につける実習とする。											
到達目標	1. 看護活動の場である病院の役割や機能および患者の療養環境が理解できる。 2. 患者を支える看護師を中心とした医療従事者の役割・機能を理解できる。 3. 入院に伴う患者の気持ちを考え、患者を尊重した態度で接することができる。 4. 患者とより良い人間関係を成立させるために、患者および患者を取り巻く人々と効果的なコミュニケーションを図ることができる。 5. 全人的な視点の持ち方を理解するとともに、患者の未充足のニーズを見出し、必要性な援助を考えることができる。 6. 安全・安楽・自立を踏まえ、患者のニーズを充足させるための援助を指導者の指導のもとで実施できる。 7. 対象に必要な看護を展開する過程を理解し、実践できる。											
実習の概要	<table><tr><th>時間数</th><th>内容</th><th>実習 時期</th><th>実習 場所</th></tr><tr><td>90 時間 臨地実習 81 時間（11 日間：8 時間×9 日、5 時間・4 時間各 1 日） +学内実習 9 時間 （3 時間・2 時間各 1 日、事例検討会 4 時間）</td><td>1. 患者のニーズの把握 2. 患者を身体的・精神的・社会的に統合された存在としての理解 3. 看護問題を解決するための計画立案と援助の実施・評価 4. 患者との信頼関係の構築</td><td>2 年次 5 月～6 月 12 日間</td><td>①北九州 総合病院 ②学内</td></tr></table> *その他詳細は実習要綱参照				時間数	内容	実習 時期	実習 場所	90 時間 臨地実習 81 時間（11 日間：8 時間×9 日、5 時間・4 時間各 1 日） +学内実習 9 時間 （3 時間・2 時間各 1 日、事例検討会 4 時間）	1. 患者のニーズの把握 2. 患者を身体的・精神的・社会的に統合された存在としての理解 3. 看護問題を解決するための計画立案と援助の実施・評価 4. 患者との信頼関係の構築	2 年次 5 月～6 月 12 日間	①北九州 総合病院 ②学内
時間数	内容	実習 時期	実習 場所									
90 時間 臨地実習 81 時間（11 日間：8 時間×9 日、5 時間・4 時間各 1 日） +学内実習 9 時間 （3 時間・2 時間各 1 日、事例検討会 4 時間）	1. 患者のニーズの把握 2. 患者を身体的・精神的・社会的に統合された存在としての理解 3. 看護問題を解決するための計画立案と援助の実施・評価 4. 患者との信頼関係の構築	2 年次 5 月～6 月 12 日間	①北九州 総合病院 ②学内									
授業時間外の学習	・実習前に事前学習を行う。詳細は事前学習作成時に説明する。事前学習は臨地で見直すことが求められるため、項目、内容ともに不備のないよう作成すること。 ・1 年次に学習した日常生活援助、与薬（注射以外）に関する内容とする。その他は担当教員に確認し追加項目があればその項目を学習する。 ・基礎看護学実習 1 の事前学習を使用する場合は追加・修正を行うこと。 ・実習までに、各自実習で行うバイタルサイン測定や不得意な援助の練習をすること。 ・実習中に解決できなかったこと出された課題は翌日までに調べ、説明できるようにすること。 ・実習中に学習したことは、事前学習に追加・修正する。また、事前学習にない内容は追加学習を行うこと。 ・事例検討会の際は担当教員の指導の下、テーマの理解が深められるように資料を作成して臨むこと。											

テキスト	茂野香おる他：系統看護学講座 基礎看護学 2 基礎看護技術Ⅰ，医学書院 任 和子他：系統看護学講座 基礎看護学 3 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 香春知永他：系統看護学講座 基礎看護学 4 臨床看護総論，医学書院 任 和子他：基礎・臨床看護技術，医学書院
参考文献	各科目の授業で使用されたテキストや文献を使用する。
成績評価の方法と基準	実習要綱に準ずる。

授業科目	地域・在宅看護論実習 1			担当 教員	氏名	福田 敦子												
単位・時間数	1 単位・45 時間				所属	専任教員												
対象学年	2025 年度・2 年生				担当者実務経験	病院にて看護師として勤務												
受講要件	1 年次配当の授業科目の単位をすべて修得している。 基礎看護学実習の単位を修得している。																	
授業概要	地域で生活する人びとの健康レベルに応じた健康の保持・増進、自立 支援、疾病の予防に関わる内容を学ぶ。何らかの健康問題を持ちながらも、地域包括ケアシステムにおける社会資源を活用しながら、その人らしく生活している状況と支援の実際を学ぶ。保健・医療・福祉の切れ目のない支援や、地域で生活する人びとの健康の保持・増進のためにどのような活動が行われているか、また他・多職種連携の実際を学ぶ。																	
到達目標	1) 地域における保健福祉機関の機能・役割について理解することができる。 2) 地域における保健活動の実際について理解できる。 3) 地域で暮らす人々の健康を支える医療活動の実際について理解できる。 4) 地域における保健福祉機関の機能・役割について理解できる。 5) 地域で暮らす人々の生活を支える福祉活動について理解できる。 6) 生活を助ける福祉用具の実際について知る事ができる。 7) 自宅以外の生活の場について理解できる。 8) 地域で生活する人々の健康や生活を守る支援の連携や継続性について学びを深め、統合する事ができる。																	
実習の概要	<table><tr><td>区分</td><td>単位</td><td>時間</td><td>内容</td><td>時期</td><td>場所</td></tr><tr><td>地域・在宅 看護論 実習 1</td><td>1</td><td>45</td><td>1. 地域における保健機関の機能・役割 2. 地域における保健活動の実際 3. 地域で暮らす人々の健康を支える医療活動 4 地域で暮らす人々の生活を支える福祉機関の機能と役割 5. 生活を助ける福祉用具の 実際 6. 自宅以外の生活の場の理解 7. 地域で生活する人々の健康や生活を守る支援の連携や継続性</td><td>10 月</td><td>① 小倉南区役 保健福祉課 ② クリニック ③ 社会福祉協議会 ④ 北九州市立介護実習・普及センター ⑤ 特別養護老人施設 ⑥ 学内</td></tr></table>						区分	単位	時間	内容	時期	場所	地域・在宅 看護論 実習 1	1	45	1. 地域における保健機関の機能・役割 2. 地域における保健活動の実際 3. 地域で暮らす人々の健康を支える医療活動 4 地域で暮らす人々の生活を支える福祉機関の機能と役割 5. 生活を助ける福祉用具の 実際 6. 自宅以外の生活の場の理解 7. 地域で生活する人々の健康や生活を守る支援の連携や継続性	10 月	① 小倉南区役 保健福祉課 ② クリニック ③ 社会福祉協議会 ④ 北九州市立介護実習・普及センター ⑤ 特別養護老人施設 ⑥ 学内
	区分	単位	時間	内容	時期	場所												
地域・在宅 看護論 実習 1	1	45	1. 地域における保健機関の機能・役割 2. 地域における保健活動の実際 3. 地域で暮らす人々の健康を支える医療活動 4 地域で暮らす人々の生活を支える福祉機関の機能と役割 5. 生活を助ける福祉用具の 実際 6. 自宅以外の生活の場の理解 7. 地域で生活する人々の健康や生活を守る支援の連携や継続性	10 月	① 小倉南区役 保健福祉課 ② クリニック ③ 社会福祉協議会 ④ 北九州市立介護実習・普及センター ⑤ 特別養護老人施設 ⑥ 学内													
授業時間外の学習	実習前に事前課題を提示する。実習中に活用できるものを作成し提出する。 実習中に学習不足があった内容は、随時追加学習を行い提出する。																	
テキスト	河原加代子 他：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1，医学書院 河原加代子 他：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2，医学書院																	

参考文献	必要に応じて提示する。
成績評価の方法と基準	実習要綱に準ずる。

授業科目	成人看護学実習 [セルフマネジメント実習]			担当 教員	氏名	岩丸 花奈・東本 七重 山口 直美・中山 仁美
単位・時間数	1 単位・45 時間				所属	専任教員
対象学年	2025 年度 2 年生				担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	1 年次配当の授業科目（実習科目を含む）の単位をすべて習得している。					
授業概要	成人看護学実習では、2 つの区分で実習を行う。区分 A.働く対象の健康を守るでは、成人期にある対象への健康の保持増進・疾病予防、疾病の早期発見のための健康管理活動を理解し看護の役割について学ぶ。区分 B.健康破綻とセルフマネジメントでは、病院外来を訪れる対象の心理を知り、健康破綻が生活に与える影響と健康再獲得に向けた医療職の役割、活動について理解する。区分 A.B を通して、対象者の健康を支えるために、地域と病院をつなぐそれぞれの医療職の役割、活動について学ぶ。					
到達目標	1.産業保健の概要を知り、労働者への健康管理活動の実際を理解する。 2.健康管理活動の場に訪れる対象のニーズを理解できる。 3.職業や生活が健康に与える影響について考えることができる。 4.健康管理活動の場における看護職の役割について理解できる。 5.健康破綻が与える影響と健康再構築に向けた看護師の役割を知ることができる。 6.地域と病院をつなぎ健康管理活動を行う対象者を支える医療職の役割、活動について知ることができる。					
実習の概要	区分	単位	時間	内容	時期	場所
	A.働く対象の健康を守る	1	18	1. 産業保健の概要 2. 産業保健に携わる職種と役割 3. 職業に起因する疾患と健康障害 4. 法律に基づく健康診断の種類、方法 5. 健康診断後のフォローと健康教育 6. 健康診断の実際と看護職の役割 7. 受診者の心理 8. 健康診断に関わる職種と連携	令和 8 年 1～2 月	西日本産業衛生会 北九州産業衛生診療所 北九州健診診療所
	B.健康破綻とセルフマネジメント		27	1. 外来の特徴 2. 受診目的と対応 3. 外来受診時の患者とその家族の心理 4. 外来看護師の役割 5. 検査・指導時の役割と援助 6. 入院時の心理状況の理解とその対応	令和 7 年 10 月	北九州総合病院 外来 病棟 患者支援センター

				7. 入院時の各職種の支援 8. 健康再獲得に向けた医療支援 9. セルフケア確立に向けた支援 10. 退院時の患者、家族の心理 11. 退院時の患者、家族の支援 12. 患者支援センターの役割と支援			
	*その他詳細は実習要綱参照						
授業時間外の学習	実習前に事前課題を提示する。実習中に活用できるものを作成し提出する。実習中に学習不足があった内容は、随時追加学習を行う。						
テキスト	公衆衛生学、成人看護学で使用した教科書						
参考文献	必要に応じて提示する。						
成績評価の方法と基準	実習要綱に準ずる。						

授業科目	老年看護学実習 1	担当教員	氏名	藤本 歩												
単位・時間数	1 単位・45 時間		所属	専任教員												
対象学年	2025 年度・2 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務												
受講要件	1 年次配当の授業科目の単位をすべて修得している。 基礎看護学実習の単位を修得している。															
授業概要	老年看護学実習では、老年期にある対象の特徴をふまえ健康状態に応じた個別的な看護を実践できるよう教授する。 老年看護学実習 1 では、介護老人保健施設の役割と機能を学習し、介護保険法のもと施設で生活する高齢者とコミュニケーションを通して、日常生活援助を必要とする高齢者の介護や看護援助を理解できるように教授する。															
到達目標	1．高齢者を身体的・精神的・社会的側面の視点から全人的に理解できる。 2．高齢者の日常生活を知り、個々に合わせた日常生活援助を理解できる。 3．介護老人保健施設における多職種や看護師の役割について理解できる。															
実習の概要	<table><tr><td>区分</td><td>単位</td><td>時間</td><td>内容</td><td>時期</td><td>場所</td></tr><tr><td>習 1 老 年 看 護 学 実</td><td>1</td><td>45</td><td>介護が必要な高齢者の理解とその看護</td><td>10 月</td><td>介護老人保健施設 あけぼの苑</td></tr></table> *その他詳細は実習要綱参照				区分	単位	時間	内容	時期	場所	習 1 老 年 看 護 学 実	1	45	介護が必要な高齢者の理解とその看護	10 月	介護老人保健施設 あけぼの苑
区分	単位	時間	内容	時期	場所											
習 1 老 年 看 護 学 実	1	45	介護が必要な高齢者の理解とその看護	10 月	介護老人保健施設 あけぼの苑											
授業時間外の学習	実習前に事前課題を提示する。実習中に活用できるものを作成し提出する。 実習中に学習不足があった内容は、随時追加学習を行い提出する。															
テキスト	北川公子 他：系統看護学講座 専門分野 老年看護学，医学書院															
参考文献	亀井智子 編集：根拠と事故防止からみた老年看護技術，医学書院															
成績評価の方法と基準	実習要綱に準ずる。															

授業科目	老年看護学実習 2	担当教員	氏名	藤本 歩												
単位・時間数	2 単位・90 時間		所属	専任教員												
対象学年	2025 年度・2 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務												
受講要件	1 年次配当の授業科目の単位をすべて修得している。 基礎看護学実習の単位を修得している。															
授業概要	老年看護学実習では、老年期にある対象の特徴をふまえ健康状態に応じた個別的な看護を実践できるよう教授する。 老年看護学実習 2 では、健康障害にある高齢者の特徴をふまえ個別性に応じた看護過程を展開しながら、看護を実践できるよう教授する。 実習を通して高齢者への倫理的態度を養い、自己の老年看護観を深めていけるよう担当教員は看護師としての実務経験をいかして教授する。															
到達目標	1．健康障害をもつ高齢者の全体像を理解できる。 2．健康障害をもつ高齢者への看護を計画立案・実施・評価できる。 3．高齢者やその家族とよい人間関係を結ぶことができる。 4．医療チームの一員としての看護師の姿勢・態度が習得できる。															
実習の概要	<table><tr><td>区分</td><td>単位</td><td>時間</td><td>内容</td><td>時期</td><td>場所</td></tr><tr><td>習 老 2 年 看 護 学 実</td><td>2</td><td>90</td><td>健康障害のある高齢者の理解とその看護</td><td>11 月 ～ 12 月</td><td>北九州八幡東病院 北九州安部山公園病院</td></tr></table> *その他詳細は実習要綱参照				区分	単位	時間	内容	時期	場所	習 老 2 年 看 護 学 実	2	90	健康障害のある高齢者の理解とその看護	11 月 ～ 12 月	北九州八幡東病院 北九州安部山公園病院
区分	単位	時間	内容	時期	場所											
習 老 2 年 看 護 学 実	2	90	健康障害のある高齢者の理解とその看護	11 月 ～ 12 月	北九州八幡東病院 北九州安部山公園病院											
授業時間外の学習	実習前に事前課題を提示する。実習中に活用できるものを作成し提出する。 実習中に学習不足があった内容は、随時追加学習を行い提出する。															
テキスト	北川公子 他：系統看護学講座 専門分野 老年看護学，医学書院 鳥羽研二 他：系統看護学講座 専門分野 老年看護 病態・疾患論，医学書院															
参考文献	亀井智子 編集:根拠と事故防止からみた老年看護技術，医学書院															
成績評価の方法と基準	実習要綱に準ずる。															

2025 年度 S y l l a b u s

(3 年生)



西日本看護専門学校

授業科目	地域・在宅看護論 [看護実践演習]		担当 教員	氏名	福田 敦子
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2025 年度・3 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	なし				
授業概要	事例をもとに多様な療養者と家族の生活の理解を深め、在宅での支援に必要な看護や社会資源について講義で学んだことを生かし実践を通して考える演習とする。担当者の実務経験談を交え、学生が臨床場面をイメージ化しやすいように学生の考え、演じた内容を学生間で共有した上で助言指導を行っていく演習形態とする。				
到達目標	1. 地域・在宅看護を実践する上で必要な援助技術について実践できる。 2. 地域・在宅看護における多職種との協働や連携について演習を通じ理解できる。				
授業計画			内容		方法
回	時間				
1	2	ガイダンス、演習 1 オリエンテーション・演習 1 準備			講義・演習
2	4	演習 1 準備			演習
3	4	ロールプレイング（発表）			演習
4	2	ロールプレイングの振り返り			講義
5	2	演習 2 オリエンテーション・演習 2 準備			講義・演習
6	4	演習 2 準備			演習
7	4	ロールプレイング（発表）			演習
8	2	ロールプレイングの振り返り			講義
9	2	在宅におけるフィジカルアセスメント			講義・演習
1 0	3	シナリオを使用したアセスメント演習と振り返り			演習・講義
1 1	1	演習全体のまとめ 試験（レポート）についての説明			講義
授業時間外の 学習			事例演習を考える上で必要な学習、演習後のレポート作成		
テキスト			系統看護学講座＜専門分野＞「地域・在宅看護論Ⅱ」 医学書院		

参考文献	必用時講義中に紹介していく。
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	22.入浴・シャワー浴の介助に関しては、演習中に評価表を使用し、自己と他学生、教員にて代表グループの演習中に評価する。
成績評価の方法と基準	課題レポート（提出状況を含む）50点、筆記試験 50点、計 100点で評価する。

授業科目	統合技術		担当 教員	氏名	尾倉 幸奈
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2025 年度・3 年生				
受講要件	1・2 年次配当の授業科目（実習科目を含む）の単位をすべて修得している。				
授業概要	看護に関する各科目において修得した内容をより臨床実践に近い形で学習し、臨床に適応できるように知識と技術の統合を図ることをねらいとしている。これまで学習した技術を複数の課題をもつ患者に複合して技術提供できるよう、シミュレーションを通して、安全安楽に実践できることを目指す。さらに、優先すべき事象、予期しない患者の反応、突発的な事象、時間的緊迫に対応できる能力を体得できているか、複数のシナリオの看護場面を技術試験することで評価する。その後の振り返りを通して自己の課題を明確にして統合実習に取り組めるようにする。看護の実践者として患者の看護を総合的に展開できるよう、急性期病院での実務経験を活かし教授していく。				
到達目標	1. 看護師として必要な知識・技術を統合し、複数の対象の状態に応じた判断及び看護を実践できる 2. 看護の実践者としての自己の課題がわかる				
授業計画			内容		方法
回	時間				
1	2	1. ガイダンス 2. ケーススタディ シナリオ紹介 複数患者の状態把握			講義・演習
2	2	1. 複数患者の状態把握 2. 優先度、時間配分を考えてタイムスケジュール作成			演習
3	2	1. 複数患者の状態把握 2. 優先度、時間配分を考えてタイムスケジュール作成			発表・講義
4	2	患者の状態を踏まえた援助技術の根拠の理解			演習
5	2	患者の状態を踏まえた援助技術の根拠の理解			演習
6	4	経管栄養法による流動食の注入 浣腸 摘便 ネブライザーを用いた気道内加湿 いずれかの技術演習 各グループの発表			技術演習
7	4	経管栄養法による流動食の注入 浣腸 摘便 ネブライザーを用いた気道内加湿 いずれかの技術演習			技術演習
8	2	臨床多重課題シナリオ（ロールプレイングの準備）			演習
9	2	臨床多重課題シナリオ（ロールプレイングの準備）			演習
1 0	2	臨床多重課題シナリオ（ロールプレイング）			技術演習
1 1	2	1. 技術試験オリエンテーション 2. 技術テストに向けた練習			オリエンテーション・ 技術演習
1 2	4	技術テストに向けた練習			技術演習

授業時間外の学習	・各演習、技術演習前には、事前学習が必要となる。 ・第3回発表前には発表用資料を作成する。第2回の授業内で完成しない場合は時間外での作成が必要となる。 ・第6・7回技術演習前に手順書の作成、印刷を行う。第4・5回の授業内で完成しない場合は時間外でグループでの作成が必要となる。 ・第10回技術演習前ロールプレイングの準備を行う。第8・9回の授業内で完成しない場合は時間外でグループでの作成が必要となる。
テキスト	茂野香おる 他：系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ，医学書院 任 和子 他：系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ，医学書院 任 和子 他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術，医学書院 その他、各看護学領域での使用教科書
参考文献	各看護学領域での使用教科書
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	①次の技術について自己評価にて到達度、手順、正確性、迅速性を評価する。 ・食事の援助技術の5.経管栄養法による流動食の注入 ・排泄援助技術の10.浣腸、11.排便 ・呼吸・循環を整える技術の31.ネブライザーを用いた気道内加湿 ②さらに、上記のいずれかの技術について技術試験を行う。
成績評価の方法と基準	【評価①】課題レポート・受講態度：60点で評価する。 ①複数患者のタイムスケジュール ②患者の状態を踏まえた援助計画 ・評価については、評価表を配布する。 ・課題レポートの提出遅れは1日ごとに減点とする。 【評価②】技術試験：評価表を配布し、100点で評価し、60点以上を合格とする。 技術試験については、別途オリエンテーションを行う。 複数のシナリオの看護場面を設定し試験を行う。(経管栄養法による流動食の注入、浣腸、排便、ネブライザーを用いた気道内加湿のいずれかの技術を含む) 試験終了直後に自己評価を行い、客観的に自己を見つめることができていたか教員と共に確認する。 科目の評価は、評価①課題レポート・受講態度 60%、評価②技術試験 40%で算出する。

授業科目	医療安全		担当教員	氏名	藤本 歩
単位・時間数	1 単位 30 時間			所属	専任教員
対象学年	2025 年度・3 年生				
受講要件	なし				
授業概要	患者や家族の安全を保証することは看護職の責務である。安全で質の高い医療を提供するために、医療安全の基礎的知識を学ばせる。人間の特性を前提とし、医療事故が起きやすい状況や背景、また回避するための方策を考え理解させる。				
到達目標	1. 安全な医療を提供するために必要な知識と技術、考え方を理解する。 2. 医療事故の現状を理解し、必要な対応（事故防止・発生時の対応）を考えることができる。 3. 看護者の倫理的態度について考え、よりよい行動を考えることができる。				
授業計画	内容				方法
回	時間				
1	2	ガイダンス（科目の目標・学習内容など） 医療事故の考え方 医療安全における看護師の役割			講義
2	2	事故防止のための知識と技術（起こりやすい事故への対策）			演習
3	2				
4	2				
5	2	KYT（危険予知訓練）			講義・演習
6	2				
7	2	実習場面を振り返る			演習
8	2	医療事故分析			講義
9	2				演習
1 0	2				
1 1	2	医療安全と倫理的行動			講義・演習
1 2	2				演習
1 3	2	事故発生時の対応			講義・演習
1 4	2				演習
1 5	2	医療安全対策、医療安全と看護記録			講義
授業時間外の学習	・円滑にグループワークを行うために、事前に項目について調べておく。 ・グループワークでの学びを授業で発表する。発表前は発表準備を行い、発表後はレポート課題がある。				
テキスト	川村治子 他：系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践（2）医療安全，医学書院				
参考文献	授業中に必要に応じて指示する				

「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	安全管理の技術の 63.インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告の技術に関して、正確性、迅速性を評価する。発表の学生に関しては教員評価、自己評価を行い、その他の学生は学生間で評価、自己評価を行う。
成績評価の方法と基準	・グループワーク（個人レポート含む）70 点、筆記試験（45 分）30 点、計 100 点で評価する。 ・レポートの提出期限の遅れは減点する。

授業科目	災害看護と国際看護	担当教員	氏名	① 尾倉幸奈 ② 岩崎三佳
単位・時間数	1 単位・30 時間			
対象学生	2025 年度・3 年生		所属	① 専任教員 ② 神戸大学大学院
受講要件	1・2 年次配当の授業科目（実習科目を含む）の単位をすべて修得している。		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
授業概要	災害の頻度や規模が拡大し、被害も増大している中で、被災傷病者の医療・看護への期待は大きく、看護職者は健康に関わる専門職として、役割を発揮していくことが求められる。災害により生命や健康生活への被害を少なくするための予防から災害後の看護活動について考え、理解することを目指す。演習を通し救護活動の実際を体験することで、実践的な学びが得られるよう、急性期病院での経験を活かし教授する。 グローバル化が進み、日本国内でも外国人の患者を看護する機会が増加しており、国際看護の重要性はますます大きくなっている。看護師として、すべての人に対し同等の看護を提供するために、海外の多様な文化や背景を知り、グローバルな視点で看護の共通の課題は何かを考えられるよう担当教員の実務経験を交えながら授業を行う。			
到達目標	1. 災害各期における看護の役割を知り、看護活動ができる基本的な知識を理解することができる 2. 救護活動の実際を理解することができる 3. グローバル社会における健康課題と国際機関の役割と機能について理解する 4. 世界の各地域における看護の在り様や実践、及び国際保健・看護の取り組みと課題について理解する 5. グローバル社会における看護活動を理解する			
授業計画			内容	方法
回	時間			
1	2		災害概論 災害の特徴・災害と法制度・災害時の支援体制と医療体制	講義
2	2		災害の種類と特徴 災害の種類・災害と健康障害	講義
3	2		災害各期の看護 災害看護の特徴 災害各期の特徴と看護	講義
4	2		被災者特性に応じた災害看護	講義・演習
5	2		被災者特性に応じた災害看護	講義・演習
6	2		看護災害とこころのケア	講義
7	4		救護活動の実際の理解 保健医療の役割と看護 （生命危機状態の看護実習：災害看護 を基にした演習）	講義・演習
8	4		救護活動の実際の理解 保健医療の役割と看護 まとめ	演習
9	2		国際看護学とは ・世界の健康問題と現状 ・国際看護学の定義・目的 ・国際看護学に関連する基礎知識	講義

1 0	2	国際協力のしくみ・国際救援と看護	講義
1 1	1	諸外国の看護教育	講義
1 2	3	異文化理解と看護	講義・演習
1 3	2	多様な文化と看護に共通する課題	演習
授業時間外の学習		・「石巻赤十字病院の 100 日間」を読み、課題に沿ってレポートする。	
テキスト		浦田喜久子 編集：災害看護・国際看護，医学書院	
参考文献		由井りょう子：石巻赤十字病院の 100 日間，小学館 その他、授業中に必要に応じ指示する。	
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法		該当なし	
成績評価の方法と基準		災害看護：グループワーク（個人レポート含む）70 点、筆記試験（45 分）30 点、計 100 点で評価する。レポートの提出期限の遅れは減点する。 国際看護：講義への参加度とレポートで評価（100 点）する。 災害看護、国際看護ともに 60 点以上を合格とする。 科目の最終評価は、災害看護 60%、国際看護 40%で算出する。	

授業科目	チーム医療と看護管理		担当教員	氏名	① 尾倉幸奈 ② 藤田 恵美
単位・時間数	1 単位・15 時間				
対象学生	2025 年度・3 年生			所属	① 専任教員 ② 北九州総合病院
受講要件	1・2 年次配当の授業科目（実習科目を含む）の単位をすべて修得している。			担当者実務経験	①病院にて看護師として勤務 ②病院に看護副部長として勤務
授業概要	チーム医療を推進する目的は、専門職種の積極的な活用、多職種間協働を図ること等により医療の質を高めるとともに、効率的な医療サービスを提供することにある。多職種との協働の中での看護師としてのリーダーシップとメンバーシップについて、講義・演習を通し理解できるよう急性期病院での経験を活かし教授する。 さらに、看護管理の概念と原則を学び、質の高い看護サービスを提供するために看護職者個人および看護組織が担う役割の理解を目指す。組織と個人の関係、組織のマネジメントについて理解し、管理的視点をもった看護職者となるよう、また看護をめぐる法律、社会の仕組みや変遷について学び、これからの看護職者としての役割を考えることができるよう、看護管理者として看護の現場と関連させながら教授する。				
到達目標	1． チーム医療、多職種との協働の中で、看護師としてのリーダーシップとメンバーシップを理解することができる 2． 質の高い看護を提供するためのマネジメントを理解することができる 3． 看護職の教育制度と人材育成について理解することができる 4． 看護活動を取り巻く法律・制度を理解することができる				
授業計画			内容		方法
回	時間				
1	2	チーム医療 ・チーム医療とは ・チーム医療に必要な機能 ・看護職の責任と役割 ・多職種との連携・協働 ・リーダーシップとメンバーシップ			講義
2	3	各医療チームにおける役割と専門性 (統合実習：チーム医療活動見学 を基にした演習)			講義・演習
3	2	看護とマネジメント			講義
4	2	看護ケアのマネジメント			講義
5	2	看護職のキャリアマネジメント			講義
6	2	看護サービスのマネジメント			講義
7	2	マネジメントに必要な知識と技術 看護を取り巻く諸制度			講義
授業時間外の学習		各時間の予習復習を行う。			
テキスト		上泉和子 他：看護管理，医学書院			

参考文献	必要時指示する。
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし
成績評価の方法と基準	チーム医療は講義への参加度とレポートで評価（100 点）する。 看護管理は 100 点のテストを行う。 チーム医療、看護管理ともに 60 点以上を合格とする。 科目の最終評価は、チーム医療 30%、看護管理 70%で算出する。

授業科目	看護観演習		担当 教員	氏名	尾倉幸奈
単位・時間数	1 単位・30 時間			所属	専任教員
対象学生	2025 年度・3 年生			担当者実務経験	病院にて看護師として勤務
受講要件	1・2 年次配当の授業科目（実習科目を含む）の単位をすべて修得している。				
授業概要	看護観は看護実践の核となり、また専門職業人（看護師）としての自己のあり方を決定するものである。臨地実習で体験した看護場面の分析を通して、看護において自分自身が大切にしたいことや看護についての考え方をリフレクションやナラティブを通して明らかにする。専門職業人としての核となる看護観を論理的に表現するとともに、これからの看護実践への動機づけとし、看護実践から学び得る力を身につける。また論文としてまとめることで、論文のまとめ方、発表の仕方を学ぶ。リフレクションの理論とともに教員の看護師としての自己洞察の経験も活かして指導を行う。				
到達目標	1．実習中の看護実践の中から得られた知を省察し、看護観を表現できる 2．個々の学生の知を共有できる 3．省察する意義を実感し、専門職業人として自己研鑽する必要性を理解する				
授業計画		内容			方法
回	時間				
1	2	ガイダンス（科目の目標・学習内容など）			講義
2	2	看護体験を語る（準備）			演習
3	4	看護体験を語る（グループワーク）			演習
4	2	論文作成計画立案			演習
5	4	論文作成　：　草稿発表（グループワーク）			演習
6	2	発表会準備　：　発表原稿作成、プログラム作成、役割分担			演習
7	2	発表会準備　：　各係の打合せ、発表練習			演習
8	2	発表会準備　：　会場準備、リハーサル			演習
9	8	看護観演習発表会			演習
1 0	2	まとめ			講義・演習
授業時間外の学習	・実習中に 5～7 場面をリフレクションし、実習担当教員に提出する。 ・草稿、論文、発表原稿を期限内に看護観担当教員に提出し、看護観発表ができるよう計画的に進める。				
テキスト	なし				
参考文献	看護観担当教員が必要に応じて指定する。				
「看護師教育の技術項目」の到達確認方法	該当なし				

成績評価の方法と基準	学習の取り組み状況 50 点、論文内容 50 点、計 100 点を看護観演習評価表を用いて評価する。 リフレクション記録の不足、提出期限の遅れは減点する。
------------	---

授業科目	地域・在宅看護論実習 2			担当教員	氏名	福田 敦子																
単位・時間数	2 単位・90 時間				所属	専任教員																
対象学年	2025 年度・3 年生				担当者実務経験	病院にて看護師として勤務																
受講要件	1・2 年次配当の授業科目の単位をすべて修得している。																					
授業概要	訪問看護に同行し、健康問題をもつ在宅療養者の看護の実際を学ぶ。各々の家庭の中で援助するためには、看護者と療養者およびその家族との関係性が重要であり、療養者および家族の意思や価値観を大切にし、ニーズに応えられる看護の提供について学ぶ。区分 A. Bを通して、対象を理解し対象に応じた日常生活援助の実際を学ぶとともに、社会資源の活用も含め地域・在宅療養の課題（生命維持の難しさや日常生活上での困難さなど）について学ぶ。また、利用者および家族のニーズを理解し、ケアマネジメントのプロセスと社会資源の活用について学ぶ。																					
到達目標	1. 訪問看護ステーションの役割、運営管理について理解できる。 2. 在宅療養者とその家族及び生活の場が理解できる。 3. 在宅療養者と家族の特徴を踏まえた看護過程が展開できる。 4. 在宅における看護実践の方法を知り、その一部を安全に実施できる。 5. 在宅療養に関連する多職種の協働・連携について理解できる。 6. 地域で生活している対象への看護のあり方について考え、主体的に学習できる。 7. 地域・在宅療養者の生活を支える通所介護について理解することができる。 8. 地域・在宅療養者の生活を支える訪問入浴サービスについて理解できる。																					
実習の概要	<table><tr><th>区分</th><th>単位</th><th>時間</th><th>内容</th><th>時期</th><th>場所</th></tr><tr><td>A. 訪問看護</td><td rowspan="2">2</td><td>78</td><td>1. 訪問看護ステーションの機能・役割 2. 訪問看護活動の実際 3. 対象者を支える職種と支援の実際 4. 多職種連携 5. 在宅療養者の支援と看護の役割</td><td rowspan="2">6 月 ～10 月</td><td>①訪問看護ステーション ②学内</td></tr><tr><td>B. 在宅を支える看護</td><td>12</td><td>1. 在宅療養を支える多職種（サービス）の役割と支援の実際</td><td>①デイサービス ②訪問入浴サービス</td></tr></table>						区分	単位	時間	内容	時期	場所	A. 訪問看護	2	78	1. 訪問看護ステーションの機能・役割 2. 訪問看護活動の実際 3. 対象者を支える職種と支援の実際 4. 多職種連携 5. 在宅療養者の支援と看護の役割	6 月 ～10 月	①訪問看護ステーション ②学内	B. 在宅を支える看護	12	1. 在宅療養を支える多職種（サービス）の役割と支援の実際	①デイサービス ②訪問入浴サービス
区分	単位	時間	内容	時期	場所																	
A. 訪問看護	2	78	1. 訪問看護ステーションの機能・役割 2. 訪問看護活動の実際 3. 対象者を支える職種と支援の実際 4. 多職種連携 5. 在宅療養者の支援と看護の役割	6 月 ～10 月	①訪問看護ステーション ②学内																	
B. 在宅を支える看護		12	1. 在宅療養を支える多職種（サービス）の役割と支援の実際		①デイサービス ②訪問入浴サービス																	
授業時間外の学習	実習前に事前課題を提示する。実習中に活用できるものを作成し提出する。実習中に学習不足があった内容は、随時追加学習を行い提出する。																					
テキスト	河原加代子 他：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 1，医学書院 河原加代子 他：系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 2，医学書院																					
参考文献																						
成績評価の方法と基準	実習要綱に準ずる。																					

授業科目	成人・老年看護学実習 1	担当教員	氏名	岩丸 花奈 中山 仁美													
単位・時間数	2 単位・90 時間		所属	専任教員													
対象学年	2025 年度・3 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務													
受講要件	1・2 年次配当の授業科目（実習科目を含む）の単位をすべて習得している。																
授業概要	成人・老年看護学実習 1 では、成人・老年期にある対象の特徴を理解し、回復期～慢性期の健康レベルに応じた個別的な看護を実践するための基礎的能力を習得させたい。健康レベルの変化を疾病の経過という視点のみならず、対象の生活へ影響という視点も含め捉えさせる。 担当教員の看護師としての実務経験を活かして実習指導を行う。																
到達目標	1. 健康障害を持つ成人・老年期にある対象が理解できる。 2. 回復期～慢性期における対象のセルフケア能力に応じた健康維持や日常生活の自立にむけた計画立案・援助が実施できる。 3. 対象や家族の権利や尊厳の尊重ができる。 4. 生活再構築、QOL 維持・向上において様々な役割・機能を担っている多職種との連携の必要性が理解できる。 5. グループおよび看護チームの一員としての役割の理解と専門職業人としての態度が習得できる。																
実習の概要	<table><tr><td>区分</td><td>単位</td><td>時間</td><td>内容</td><td>時期</td><td>場所</td></tr><tr><td>成人・老年看護学実習 1</td><td>2</td><td>90</td><td>1. 成人期・老年期にある患者の発達段階、回復期～慢性期における病態・検査治療・症状の理解 2. 健康障害が対象の生活に及ぼす影響や健康問題のアセスメントと看護計画立案・看護実践 3. セルフケア能力に応じた健康維持や日常生活の自立に向けた援助 4. 退院後の生活で生じる可能性のある問題の予防・解決のための援助 5. 対象に必要な社会資源の活用と多職種連携の必要性の理解 6. 医療チームの一員としての協働 7. 患者や家族の権利や尊厳の尊重 8. グループおよび看護チームの一員としての役割の理解と基本的態度の習得</td><td>令和 7 年 5 月～7 月</td><td>北九州 総合病院 病棟 学内</td></tr></table> *その他詳細は実習要綱参照					区分	単位	時間	内容	時期	場所	成人・老年看護学実習 1	2	90	1. 成人期・老年期にある患者の発達段階、回復期～慢性期における病態・検査治療・症状の理解 2. 健康障害が対象の生活に及ぼす影響や健康問題のアセスメントと看護計画立案・看護実践 3. セルフケア能力に応じた健康維持や日常生活の自立に向けた援助 4. 退院後の生活で生じる可能性のある問題の予防・解決のための援助 5. 対象に必要な社会資源の活用と多職種連携の必要性の理解 6. 医療チームの一員としての協働 7. 患者や家族の権利や尊厳の尊重 8. グループおよび看護チームの一員としての役割の理解と基本的態度の習得	令和 7 年 5 月～7 月	北九州 総合病院 病棟 学内
区分	単位	時間	内容	時期	場所												
成人・老年看護学実習 1	2	90	1. 成人期・老年期にある患者の発達段階、回復期～慢性期における病態・検査治療・症状の理解 2. 健康障害が対象の生活に及ぼす影響や健康問題のアセスメントと看護計画立案・看護実践 3. セルフケア能力に応じた健康維持や日常生活の自立に向けた援助 4. 退院後の生活で生じる可能性のある問題の予防・解決のための援助 5. 対象に必要な社会資源の活用と多職種連携の必要性の理解 6. 医療チームの一員としての協働 7. 患者や家族の権利や尊厳の尊重 8. グループおよび看護チームの一員としての役割の理解と基本的態度の習得	令和 7 年 5 月～7 月	北九州 総合病院 病棟 学内												
授業時間外の学習	実習前に事前課題を提示する。実習中に活用できるものを作成し提出する。 実習中に学習不足があった内容は、随時追加学習を行い提出する。																
テキスト	基礎看護学、老年看護学、成人看護学で使用した教科書																
参考文献	実習中に必要に応じて指定する。																

成績評価の 方法と基準	実習要綱に準ずる。
------------------------	------------------

授業科目	成人・老年看護学実習 2	担当教員	氏名	岩丸 花奈 中山 仁美												
単位・時間数	2 単位・90 時間		所属	専任教員												
対象学年	2025 年度・3 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務												
受講要件	1・2 年次配当の授業科目（実習科目を含む）の単位をすべて習得している。															
授業概要	成人・老年看護学実習 2 では、成人・老年期にある対象の特徴を理解し、急性期～回復期の健康レベルに応じた個別的な看護を実践するための基礎的能力を習得させたい。健康レベルの変化を疾病の経過という視点のみならず、対象の生活へ影響という視点も含め捉えさせる。 担当教員の看護師としての実務経験を活かして実習指導を行う。															
到達目標	1. 健康障害を持つ成人・老年期にある対象が理解できる。 2. 対象の生命の危機回避、健康状態の悪化予防に必要な看護、苦痛の緩和、早期回復に向けた援助ができる。 3. 対象や家族の権利や尊厳の尊重ができる。 4. 生命の危機回避・QOL 維持・向上において様々な役割・機能を担っている多職種との連携の必要性が理解できる。 5. 自己の看護観を深め、専門職としての看護の態度が習得できる。															
実習の概要	<table><tr><td>区分</td><td>単位</td><td>時間</td><td>内容</td><td>時期</td><td>場所</td></tr><tr><td>成人・老年看護学実習 2</td><td>2</td><td>90</td><td>1. 成人期・老年期にある患者の発達段階、周手術期・急性期～回復期における病態・検査治療・症状の理解 2. 健康障害の病態・検査治療・症状が患者の生活や心理に及ぼす影響の理解 3. 対象の健康問題のアセスメントと看護計画立案・看護実践 4. 対象の病態悪化の防止に必要な看護、苦痛の緩和、早期回復に向けての援助 5. 退院後の生活で生じる可能性のある問題の予防・解決のための援助 6. 対象に必要な社会資源の活用と多職種連携の必要性の理解 7. 医療チームの一員としての協働 8. 患者や家族の権利や尊厳の尊重 9. グループおよび看護チームの一員としての役割の理解と基本的態度の習得</td><td>令和 7 年 7 月～9 月</td><td>北九州 総合病院 病棟 学内</td></tr></table>				区分	単位	時間	内容	時期	場所	成人・老年看護学実習 2	2	90	1. 成人期・老年期にある患者の発達段階、周手術期・急性期～回復期における病態・検査治療・症状の理解 2. 健康障害の病態・検査治療・症状が患者の生活や心理に及ぼす影響の理解 3. 対象の健康問題のアセスメントと看護計画立案・看護実践 4. 対象の病態悪化の防止に必要な看護、苦痛の緩和、早期回復に向けての援助 5. 退院後の生活で生じる可能性のある問題の予防・解決のための援助 6. 対象に必要な社会資源の活用と多職種連携の必要性の理解 7. 医療チームの一員としての協働 8. 患者や家族の権利や尊厳の尊重 9. グループおよび看護チームの一員としての役割の理解と基本的態度の習得	令和 7 年 7 月～9 月	北九州 総合病院 病棟 学内
	区分	単位	時間	内容	時期	場所										
成人・老年看護学実習 2	2	90	1. 成人期・老年期にある患者の発達段階、周手術期・急性期～回復期における病態・検査治療・症状の理解 2. 健康障害の病態・検査治療・症状が患者の生活や心理に及ぼす影響の理解 3. 対象の健康問題のアセスメントと看護計画立案・看護実践 4. 対象の病態悪化の防止に必要な看護、苦痛の緩和、早期回復に向けての援助 5. 退院後の生活で生じる可能性のある問題の予防・解決のための援助 6. 対象に必要な社会資源の活用と多職種連携の必要性の理解 7. 医療チームの一員としての協働 8. 患者や家族の権利や尊厳の尊重 9. グループおよび看護チームの一員としての役割の理解と基本的態度の習得	令和 7 年 7 月～9 月	北九州 総合病院 病棟 学内											
	＊その他詳細は実習要綱参照															
授業時間外の学習	実習前に事前課題を提示する。実習中に活用できるものを作成し提出する。 実習中に学習不足があった内容は、随時追加学習を行い提出する。															
テキスト	基礎看護学、老年看護学、成人看護学で使用した教科書															

参考文献	実習中に必要に応じて指定する。
成績評価の方法と基準	実習要綱に準ずる。

授業科目	小児看護学実習	担当教員	氏名	松井 なつみ																		
単位・時間数	2 単位・90 時間		所属	専任教員																		
対象学年	2025 年度・3 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務																		
受講要件	1・2 年次配当の授業科目（実習科目を含む）の単位をすべて修得している。																					
授業概要	小児看護学実習 A では、子どもの成長・発達をふまえ、子どもの健康状態に応じた子どもと家族への看護を実践するための基礎的能力を養うように教授する。また、発達障害・肢体不自由の子どもや家族のおかれている現状を知り障がいのある子どもの理解を深める。 小児看護学実習 B では、健康障害をもつ子ども及び家族に対し、成長・発達に応じた看護を実践するための基礎的能力を習得するように教授する。																					
到達目標	1. 子どもの身体的・精神的・社会的特徴を統合的にとらえ、子どもの育ちを支え人々や社会の仕組みについて理解し、成長・発達を促すための援助の基本を習得できる。 2. 子どもに特有な諸症状と、入院や治療が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、発達段階と疾患の状態に応じた適切な援助を行うことができる。 3. 子どもにふさわしい生活環境及び入院環境の調整について理解し、子どもの発達段階や疾患の状態、環境に応じた安全・事故防止への援助や小児看護技術を習得できる。 4. 子どもと家族を取り巻く医療チームの一員としての看護師の役割、協働の必要性が理解できる。 5. 健全な子ども観を養い、看護師として必要な態度を習得することができる。																					
実習の概要	<table><tr><th>区分</th><th>単位</th><th>時間</th><th>内容</th><th>時期</th><th>場所</th></tr><tr><td>A. 子どもの理解 ①健康な子どもの理解 ②障害をもつ子どもの理解</td><td>1</td><td>21</td><td>①保育所 ・健康な乳幼児の特徴の理解 ・安全な環境の理解 ・コミュニケーションの特徴の理解と乳幼児とのコミュニケーション ・乳幼児の遊びの意義の理解と実際 ・乳幼児の基本的生活習慣の援助の方法 ②北九州市立総合療育センター ・障害のある子どもと家族の理解 ・子どもと家族を取り巻く保健・医療・福祉チームの協働</td><td>5 月～ 7 月</td><td>①聖母園 あけぼの 保育園 あけぼの 愛育保育園 ②北九州市立 総合療育センター</td></tr><tr><td>B. 健康障害をもつ子どもの看護</td><td>1</td><td>69</td><td>・小児科外来を受診する子どもと家族の理解 ・小児科外来の看護師の役割の理解 ・健康障害をもつ子どもの成長発達段階及び家族の状況の理解 ・健康障害をもつ子どもの看護 ・子どもと家族を取り巻く医療チームの一員としての看護師の役割と協働の必要性の理解 ・子ども観、小児看護観</td><td>5 月～ 1 1 月</td><td>北九州総合病院</td></tr></table>				区分	単位	時間	内容	時期	場所	A. 子どもの理解 ①健康な子どもの理解 ②障害をもつ子どもの理解	1	21	①保育所 ・健康な乳幼児の特徴の理解 ・安全な環境の理解 ・コミュニケーションの特徴の理解と乳幼児とのコミュニケーション ・乳幼児の遊びの意義の理解と実際 ・乳幼児の基本的生活習慣の援助の方法 ②北九州市立総合療育センター ・障害のある子どもと家族の理解 ・子どもと家族を取り巻く保健・医療・福祉チームの協働	5 月～ 7 月	①聖母園 あけぼの 保育園 あけぼの 愛育保育園 ②北九州市立 総合療育センター	B. 健康障害をもつ子どもの看護	1	69	・小児科外来を受診する子どもと家族の理解 ・小児科外来の看護師の役割の理解 ・健康障害をもつ子どもの成長発達段階及び家族の状況の理解 ・健康障害をもつ子どもの看護 ・子どもと家族を取り巻く医療チームの一員としての看護師の役割と協働の必要性の理解 ・子ども観、小児看護観	5 月～ 1 1 月	北九州総合病院
区分	単位	時間	内容	時期	場所																	
A. 子どもの理解 ①健康な子どもの理解 ②障害をもつ子どもの理解	1	21	①保育所 ・健康な乳幼児の特徴の理解 ・安全な環境の理解 ・コミュニケーションの特徴の理解と乳幼児とのコミュニケーション ・乳幼児の遊びの意義の理解と実際 ・乳幼児の基本的生活習慣の援助の方法 ②北九州市立総合療育センター ・障害のある子どもと家族の理解 ・子どもと家族を取り巻く保健・医療・福祉チームの協働	5 月～ 7 月	①聖母園 あけぼの 保育園 あけぼの 愛育保育園 ②北九州市立 総合療育センター																	
B. 健康障害をもつ子どもの看護	1	69	・小児科外来を受診する子どもと家族の理解 ・小児科外来の看護師の役割の理解 ・健康障害をもつ子どもの成長発達段階及び家族の状況の理解 ・健康障害をもつ子どもの看護 ・子どもと家族を取り巻く医療チームの一員としての看護師の役割と協働の必要性の理解 ・子ども観、小児看護観	5 月～ 1 1 月	北九州総合病院																	
*その他詳細は実習要綱参照																						

授業時間外の 学習	実習前に事前課題を提示する。 A. 保育所・北九州市立総合療育センター実習事前学習 テーマ「乳幼児期の小児を理解するために必要なこと」 B. 外来／病棟実習事前学習 テーマ1 「小児科外来について」 テーマ2 「健康障害を持つ小児及び家族の理解を深めるためには」 上記内容で、実習中に活用できるようにまとめる。
テキスト	奈良間美穂 他：系統看護学講座 小児看護学概論/小児臨床看護総論，医学書院 奈良間美穂 他：系統看護学講座 小児看護学各論，医学書院 任和子他：基礎・臨床看護技術，医学書院
参考文献	鴨下重彦，柳澤正義監修：子どもの病気の地図帳，講談社 筒井真優美：小児看護学 日総研 桑野タイ子・本間昭子編：新看護観察のキーポイントシリーズ 小児Ⅰ，中央法規 桑野タイ子・本間昭子編：新看護観察のキーポイントシリーズ 小児Ⅱ，中央法規 東海林宏道・山本英一他監修：病気がみえる⑩小児科，メディックメディア
成績評価の 方法と基準	実習要綱に準ずる。

授業科目	母性看護学実習			担当 教員	氏名	平川 宣子																	
単位 時間数	2 単位・90 時間				所属	専任教員																	
対象学生	2025 年度・3 年生				担当者実務経験	病院にて看護師として勤務																	
受講要件	1・2 年次配当の授業科目（実習科目を含む）の単位をすべて修得している。																						
授業概要	学内での学習をもとに、周産期（妊娠・分娩・産褥期）にある母親と新生児及びライフステージ各期にある女性の看護を理解させる。母性看護学実習では母児とその家族の全体像を把握し看護実践を通して必要な援助が提供できる基礎的能力を身につけさせる。また、母児及びその家族に対して看護専門職者が果たすべき役割、他職種との連携について理解させる。地域社会で行われている子育て支援のサポートの実際から子育て支援の必要性を理解させる。さらに生命の尊厳についての認識や自己の母性観・父性観を育む機会となるよう実務経験を活かして実習指導を行う。																						
到達目標	1. 正常な妊娠・分娩・産褥各期の経過と胎児及び新生児の成長発達の経過を理解できる。 2. 母性看護に必要な援助技術を実践できる。 3. 母性看護に必要な母児及び家族への保健指導の実際を理解できる。 4. 女性のライフサイクル各期における看護を理解できる。 5. 子育て支援の実際や必要性を理解できる。 6. 自己の母性観・父性観を養うことができる。																						
実習の概要	<table><tr><td>区分</td><td>単位</td><td>時間</td><td>内容</td><td>時期</td><td>場所</td></tr><tr><td>A 周産期の看護</td><td rowspan="2">2</td><td>76</td><td>1. 妊娠・分娩・産褥期及び新生児の看護 2. 妊娠・産褥・新生児期の保健指導 3. 女性のライフサイクル各期の看護</td><td>5～10 月</td><td>北九州総合病院 助産師外来 4 階東病棟 学内 4 時間 (事例検討会)</td></tr><tr><td>B 子育て支援</td><td>14</td><td>1. 子育て支援の実際</td><td>5～10 月</td><td>北九州子育てふれあい交流プラザ 北方地域子育て支援センター</td></tr></table>						区分	単位	時間	内容	時期	場所	A 周産期の看護	2	76	1. 妊娠・分娩・産褥期及び新生児の看護 2. 妊娠・産褥・新生児期の保健指導 3. 女性のライフサイクル各期の看護	5～10 月	北九州総合病院 助産師外来 4 階東病棟 学内 4 時間 (事例検討会)	B 子育て支援	14	1. 子育て支援の実際	5～10 月	北九州子育てふれあい交流プラザ 北方地域子育て支援センター
	区分	単位	時間	内容	時期	場所																	
	A 周産期の看護	2	76	1. 妊娠・分娩・産褥期及び新生児の看護 2. 妊娠・産褥・新生児期の保健指導 3. 女性のライフサイクル各期の看護	5～10 月	北九州総合病院 助産師外来 4 階東病棟 学内 4 時間 (事例検討会)																	
B 子育て支援	14		1. 子育て支援の実際	5～10 月	北九州子育てふれあい交流プラザ 北方地域子育て支援センター																		
	＊その他詳細は実習要綱参照																						
授業時間外の学習	実習前に事前課題を提示する。実習中に活用できるものを作成し提出する。 実習中に学習不足があった内容は、随時追加学習を行い提出する。																						
テキスト	森 恵美 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[1] 母性看護学概論，医学書院 森 恵美 他：系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論，医学書院																						
文献	谷津 裕子 他監修：看護がみえる vol.5 対象の理解Ⅰ，MEDIC MEDIA 石村由利子：根拠と事故防止からみた母性看護技術，医学書院 宮崎和子：看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅰ，中央法規 宮崎和子：看護観察のキーポイントシリーズ 母性Ⅱ，中央法規 井上裕美 他監修：病気がみえる vol.10 産科，MEDIC MEDIA など 平沢美恵子：写真でわかる母性看護技術アドバンス，インターメディカ 櫛引美代子：カラー写真で学ぶ新生児の観察と看護技術，医歯薬出版																						

成績評価の方法と基準	実習要綱に準ずる
------------	----------

授業科目	精神看護学実習			担当教員	氏名	鉾賀 千夏																				
単位・時間数	2 単位・90 時間				所属	専任教員																				
対象学年	2025 年度・2 年生				担当者実務経験	病院にて看護師として勤務																				
受講要件	1・2 年次配当の授業科目（実習科目を含む）の単位をすべて修得している。																									
授業概要	精神看護学実習では、精神保健・医療・福祉における看護師の役割・機能を理解し、精神に障害をもつ人およびその家族の理解を深め、精神の健康回復をはかる看護を実践するための基礎的能力を習得できるよう教授する。 A.精神科病院実習では、精神科病棟の特殊性を理解するとともに、精神に障害をもつ対象の生きにくさやストレスを把握したうえで、個別性をふまえた看護を展開できるよう教授する。また、精神に障害をもつ対象と関わることで、治療的援助関係について考えることができるよう教授する。 B.地域における精神障害をもつ対象者（児）の理解では、地域で生活している精神に障害をもつ対象者（児）の特徴や現状を知り、精神障害者が社会復帰・社会参加するために必要な支援について看護師・個人として実施できることを考える機会となるよう教授する。 実習を通して、健全な精神障害者観を養い、心のケアを行うための基本的態度を習得できるよう担当教員は看護師としての実務経験を活かして教授する。																									
到達目標	1. ライフサイクルの各段階における精神に障害をもつ人の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる。 2. 精神に障害をもつ人を取り巻く環境および精神の疾患や障害に伴う患者・家族の日常生活への影響を理解できる。 3. 対象者の特徴（人格・背景・疾患や症状・生きづらさなど）を踏まえ、対象のリカバリーを支える看護を展開できる。 4. 対象との人間関係構築の過程を通して自己洞察を深め、治療的な関わりをもつことができる。 5. 精神保健医療福祉チームのメンバーとの連携と看護師の役割・機能が理解できる。 6. 地域で生活する精神障害者の現状と支援体制を理解できる。 7. 健全な精神障害者観を養い、心のケアを行うための基本的態度を習得できる。																									
実習の概要	<table><tr><th>区分</th><th>単位</th><th>時間</th><th>内容</th><th>時期</th><th>場所</th></tr><tr><td>実習 A. 精神科病院</td><td rowspan="3">2</td><td rowspan="3">90</td><td>精神に障害をもつ対象の理解とその看護</td><td>3 年次 5～10 月 10 日間</td><td>南ヶ丘病院 または 小倉蒲生病院</td></tr><tr><td>者 B. 地域における精神障害をもつ対象（児）の理解</td><td>①地域で生活する精神障害をもつ対象の理解と社会復帰を支える支援の理解</td><td>3 年次 7～10 月 (1 日間)</td><td>北九州市立浅野社会復帰センター</td></tr><tr><td></td><td>②知的障害・発達障害をもつ小児の理解とその療育</td><td>3 年次 9～10 月 (1 日間)</td><td>あゆみひまわり学園</td></tr></table>						区分	単位	時間	内容	時期	場所	実習 A. 精神科病院	2	90	精神に障害をもつ対象の理解とその看護	3 年次 5～10 月 10 日間	南ヶ丘病院 または 小倉蒲生病院	者 B. 地域における精神障害をもつ対象（児）の理解	①地域で生活する精神障害をもつ対象の理解と社会復帰を支える支援の理解	3 年次 7～10 月 (1 日間)	北九州市立浅野社会復帰センター		②知的障害・発達障害をもつ小児の理解とその療育	3 年次 9～10 月 (1 日間)	あゆみひまわり学園
区分	単位	時間	内容	時期	場所																					
実習 A. 精神科病院	2	90	精神に障害をもつ対象の理解とその看護	3 年次 5～10 月 10 日間	南ヶ丘病院 または 小倉蒲生病院																					
者 B. 地域における精神障害をもつ対象（児）の理解			①地域で生活する精神障害をもつ対象の理解と社会復帰を支える支援の理解	3 年次 7～10 月 (1 日間)	北九州市立浅野社会復帰センター																					
			②知的障害・発達障害をもつ小児の理解とその療育	3 年次 9～10 月 (1 日間)	あゆみひまわり学園																					
*その他詳細は実習要綱参照																										

授業時間外の 学習	実習前に事前課題を提示する。実習中に活用できるものを作成し提出する。 実習中に学習不足があった内容は、随時追加学習を行い提出する。
テキスト	武井麻子 他：系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎，医学書院 武井麻子 他：系統看護学講座 専門分野 精神看護の展開，医学書院
参考文献	実習中に必要に応じて指定する。
成績評価の 方法と基準	実習要綱に準ずる。

授業科目	統合実習	担当教員	氏名	尾倉 幸奈													
単位・時間数	2 単位・90 時間		所属	専任教員													
対象学年	2025 年度・3 年生		担当者実務経験	病院にて看護師として勤務													
受講要件	1・2 年次配当の授業科目の単位をすべて修得している。																
授業概要	複数患者の受け持ちや夜間実習を通して、看護の役割と看護師の行動を理解し、チームナーシングを円滑に行うための看護実践ができることを目指す。担当教員は看護師としての実務経験を活かし、看護の判断、優先順位の判断、時間管理の方法、医療チーム・看護チームとの連携等についても指導する。																
到達目標	1. 複数患者を受け持ち、必要な援助と優先順位を判断し、医療・看護チームと連携しつつ看護実践ができる。 2. 多職種との協働の実際と医療チームにおける看護師の役割が理解できる。 3. 夜間の患者の状況を理解し、看護活動の理解を深めることができる。 4. 専門職業人としての看護師の態度が習得できる。																
実習の概要	<table><tr><td>区分</td><td>単位</td><td>時間</td><td>内容</td><td>時期</td><td>場所</td></tr><tr><td>統合実習</td><td>2</td><td>90</td><td>1. 複数患者の看護 2. 夜間の患者の状況と看護の理解 3. 専門職業人としての態度の習得</td><td>11 月</td><td>北九州総合病院</td></tr></table> *その他詳細は実習要綱参照					区分	単位	時間	内容	時期	場所	統合実習	2	90	1. 複数患者の看護 2. 夜間の患者の状況と看護の理解 3. 専門職業人としての態度の習得	11 月	北九州総合病院
区分	単位	時間	内容	時期	場所												
統合実習	2	90	1. 複数患者の看護 2. 夜間の患者の状況と看護の理解 3. 専門職業人としての態度の習得	11 月	北九州総合病院												
授業時間外の学習	1.事前学習 ①看護の組織、職位と役割、円滑に運営するための各自の役割 ②リーダーシップとフォロワーシップ ③看護職者の自律性 ④病棟における安全管理 ⑤多職種との連携・協働 ⑥チーム医療における看護の役割 2.受け持ち患者の看護に必要な事項																
テキスト	各看護学教科書 上泉和子他：系統看護学講座 看護の統合と実践[1] 看護管理																
参考文献	学内図書室にある看護系の図書																
成績評価の方法と基準	実習要綱に準ずる。																

授業科目	生命危機状態の看護実習			担当教員	氏名	尾倉 幸奈 岩丸 花奈 中山 仁美	
単位・時間数	1 単位・45 時間				所属	専任教員	
対象学年	2025 年度・3 年生				担当者実務経験	病院にて看護師として勤務	
受講要件	1・2 年次配当の授業科目（実習科目を含む）の単位をすべて習得している。						
授業概要	生命危機状態の看護実習では、生命危機状態にある対象の特徴を理解し、状況に応じた看護を実践するための基礎的能力を習得させたい。看護の実際のみならず生命危機状態にある対象とその家族の心理的特徴を理解し、支える看護とは何か考えられるようにしたい。実習を通して、災害看護では、医療従事者の一員として地域の救助活動に参加できる基礎的知識・態度を習得させたい。集中治療室では、生命危機状態にある対象とその家族のおかれている状況を知り、生理的ニーズの充足と精神的安定のための看護の実際から集中治療室における看護師の役割・態度について学んでほしい。手術室では手術を受ける患者がおかれている状況を知り、手術中の安全と緊張緩和のための看護について学んでほしい。人生の終焉を支える看護では終末期にある患者や家族の状況を知り、人生の最期の時を支援する看護の役割について学びを深めてほしい。担当教員の看護師としての実務経験を活かして実習指導を行う。						
到達目標	1. 部隊見学を通し、自衛隊の活動を知り、自衛隊の災害救護活動の概要を知ることができる。 2. 災害時に求められる看護師の役割について考えることができる。 3. 手術を受ける患者が安全に手術を受けるための看護が理解できる。 4. 手術を受ける患者の置かれている状況を知り、手術中の看護について理解できる。 5. 生命危機状態にある患者の生命維持のための治療とその環境が理解できる。 6. 生命危機状態にある患者と家族の特徴を理解し、早期回復外の看護の役割が理解できる。 7. 終末期にある患者や家族状況を知り、人生の最期の時を支援する看護の役割が理解できる。						
実習の概要							
	科目	単位	区分	時間		内容	実習場所
	生命危機状態の看護実習	1	A.生命危機状態の対象に対する看護 災害看護	45	10 臨地 7 時間 学内 3 時間	1. 災害における自衛隊の役割と被災者支援の実際 2. 災害時初期救護活動と連携 3. 災害に対する取り組み	陸上自衛隊福岡駐屯地
B.生命危機状態の対象に対する看護 ①集中治療室			28 OR4 時間 ①8 時間×2 日		1. 治療環境の理解 2. 対象の症状とアセスメント 3. 生命維持のための治療と看護 4. 二次的障害予防 5. 対象や家族の精神的苦痛の緩和のための援助 6. 多職種と連携	北九州総合病院 集中治療室	

		②手術室		②8 時間×1 日	1.手術を安全に施行するための環境 2.手術を円滑に進めるための看護の実際 3.病棟・多職種との連携	北九州総合病院 手術室	
		C.人生の終焉を支える看護		7 臨地 5 時間 学内 2 時間	1.終末期にある患者と家族を支える看護の理解 2.緩和ケアの目的・概要 3.緩和ケアの実際 4.患者と家族を支える看護 5.多職種との連携	聖ヨハネ病院 学内	
	*その他詳細は実習要綱参照						
授業時間外の学習	実習前に事前課題を提示する。実習中に活用できるものを作成し提出する。実習中に学習不足があった内容は、随時追加学習を行い提出する。						
テキスト	災害看護・成人看護学・老年看護学で使用した教科書						
参考文献	実習中に必要に応じて指定する。学内図書室にある看護系の教科書						
成績評価の方法と基準	実習要綱に準ずる。						